

2014-16年度 日本学術振興会科学研究費 若手研究 (B) 研究成果報告書  
研究課題「震災を語る方言談話資料の作成 ―福島方言の記述と震災記録にむけて―」  
研究代表者・白岩広行 (課題番号26770160)

福島県伊達市方言談話資料別冊  
**福島方言の記述にむけて**

2017 年 3 月

白岩 広行

(上越教育大学大学院学校教育研究科)

2014-16 年度 日本学術振興会科学研究費 若手研究 (B) 課題番号 26770160  
「震災を語る方言談話資料の作成 ―福島方言の記述と震災記録にむけて―」

第 1 年度 (2014 年度) ¥780,000 (直接経費¥600,000、間接経費¥180,000)

第 2 年度 (2015 年度) ¥780,000 (直接経費¥600,000、間接経費¥180,000)

第 3 年度 (2016 年度) ¥910,000 (直接経費¥700,000、間接経費¥210,000)

研究代表者 白岩広行 (上越教育大学大学院学校教育研究科・講師)

本報告書は『福島県伊達市方言談話資料 ―震災後の生活と語り―』にあわせて作成したもので、談話資料をもとにした文法事項の分析例、および、談話資料整備と並行して収集したデータをまとめたものである。

言語の記述にあたっては、文法書、辞書、テキスト（会話例）のいわゆる「3点セット」が必要である。このうち、『福島県伊達市方言談話資料 ―震災後の生活と語り―』はテキストに相当するものだが、本報告書は文法面の分析や基礎語彙一覧など、文法書、辞書に相当する内容を中心に構成した。また、テキストとしての活用が見込まれる民話資料についても一覧化を試みた。福島方言の体系的な記述のために、基盤的な資料となることを期している。

なお、本稿に収めた各稿の執筆はすべて研究代表者の白岩によるものである。

# 目次

7 時間の談話資料からわかること	
—福島県伊達市方言の受身関連表現について—	1
(『日本語文法学会第 17 回大会発表予稿集』 pp.127-134 より)	
方言記述のためにできること —震災後の福島から—	10
(平成 28 年度新潟県ことばの会 講演使用スライド)	
福島方言簡易文法書	26
(Mouton De Gruyter 社から刊行予定の <i>The Handbook of Japanese Dialects</i> の白岩担当執筆分の和文草稿)	
福島県伊達市方言基礎語彙 800 語	57
福島県民話資料一覧	84

## 7 時間の談話資料からわかること

### —福島県伊達市方言の受身関連表現について—

日本語文法学会第 17 回大会（2016 年 12 月 11 日、神戸学院大学）

2016 年 12 月 11 日、神戸学院大学でおこなわれた日本語文法学会第 17 回大会において口頭発表した際の予稿集原稿を示す。

この発表では、発表者（白岩）の取り組みとして、まとまった量の談話資料を整備する現実的な方策を示したうえで、整備した約 7 時間分の談話資料をもとに受身表現関連の分析をおこなった。明らかになったのは次の 4 点である。

- (1) 音韻面の /ret/ → /Qcj/ という音変化はほぼ義務的に生じる  
（例： /okorareta/ → /okoraQcja/（怒らっちゃ））
- (2) 第三者の受身は存在する
- (3) 「非情の受身」相当の表現では逆使役接辞-(r)ar がもっぱら使われる
- (4) モラウの類義表現として動詞ケル（標準語「くれる」相当）の受身表現ケラレルがあつて「受け手の意図と無関係に与えられる」ことを表す

このように、十分な量の談話資料があれば、様々な文法事項についてこれまでより踏み込んだ記述が可能になることを示した。また、談話資料で分析できない事項については、民話資料の活用がひとつの手であることについて述べた。

7 時間の談話資料からわかること  
——福島県伊達市方言の受身関連表現について——

白岩広行（上越教育大学）

【発表の概要】

発表者は、福島県伊達市を中心に方言談話資料の整備に取り組んでいる。本発表では、具体的な整備方法を示したうえで、整備した約 7 時間の談話資料をもとに受身に関する諸事象を分析する。最後に、談話資料では分析しにくいことを挙げ、その解決方法を考える。

1. はじめに：談話資料の必要性

日本語の文法に関する諸事象は、時代的・地理的な変種を含めて日本語を総体的にとらえることで、より立体的に記述できる。そのためには全国各地の方言に関する文法記述が必要だが、実際には、十分な記述が整わないうちに昔ながらの方言（伝統方言）が失われつつある。諸方言の文法記述は喫緊の課題といつてよい。

標準語の文法記述が（1）内省による作例、（2）小説やコーパスなどの実例という 2 種類のデータからなされるのと同様、方言の文法記述にあたっても（1）話者の内省による作例、（2）談話資料の実例という 2 種類のデータが必要である。発表者は、このうち談話資料の整備を優先的に進める必要があると考えている。それは、以下の理由による。

まず、内省による作例は、方言話者の内省を尋ねるうえで、あらかじめ質問内容をしばらねばならない。したがって、格なら格、テンスならテンスというように、個別の分析項目に関したデータしか得ることができない。一方、伝統方言が消滅の危機に瀕する現在、その文法体系全般に関する記述が必要である。そのためには、どのような項目の分析にも使える談話資料を先に整備したほうがよいと考える。そのうえで、さらに個別項目を深く分析したい場合に内省調査をおこなったほうがよいだろう。

また、伝統方言を使用する話者は高齢化が進んでいるが、理解する話者は下の世代にも相当数いる。そのため、話者の高齢化が進んで調査が難しくなったとしても、次善の策として、それより下の世代の話者に内省調査をおこなうことが考えられる。一方、談話資料は、その方言を実際に使用する話者が健在なうちにしか録音できない。データ収集にあたって、より緊急性の高いのは内省データよりも談話データであると考えている。

方言文法の記述は、やるべきことが山積する一方で話者の高齢化が進み、「日暮れて道遠し」の感もあるが、談話資料の整備は今後にむけて確実に意義のある仕事である。

2. 談話資料整備の方法

談話資料の重要性は、あらためて言うまでもなく、既に多くの研究者が認識しているが、現状として、その整備が全国的に十分進んでいるとはいえない。

よく知られた談話資料として『全国方言資料』（日本放送協会編、1959-1972 年）や『全国方言談話データベース 日本ふるさとことば集成』（国立国語研究所編、2001-2008 年）

があり、各都道府県の談話をまとめているが、1 地点の談話の長さはおおむね 30 分前後、長くても 1 時間に満たない程度である。そのため、ある文法事象の全国的な状況を概観するには相応に有用だが（5.3 節参照）、個別方言の文法体系を記述するには不十分である。例えば、本稿の 5 節では約 7 時間の談話資料をもとにした分析をおこなうが、仮にその談話の長さが 30 分だとすれば、分析の際に挙げる用例の数が 14 分の 1 になってしまい、データとしての説得力がなくなってしまう。満足な記述をおこなうには、数十分ではなく数時間単位の談話が必要ではないだろうか。

これまで十分な量の談話資料が整備されてこなかったのは、整備に多大な労力がかかるのが大きな理由と考えられる。数時間分の談話を録音し、そのすべてを文字に起こすのは手間と時間のかかる作業である。また、談話資料自体は論文でないため、業績として評価されにくい。将来の就職のため効率的に業績を積み上げる必要のある大学院生に談話資料を整備する余裕は少ない。また、大学教員として就職すると、日々の業務に忙殺され、やはり談話資料を整備する余裕は少ない。大学院生、大学教員ともに、研究者の多忙化が進む現在、談話資料の整備にあたっては現実的な方策を考える必要がある。

この点をふまえ、発表者は次の点で談話資料整備の省力化をおこなっている。

#### (a) 自身の祖母を主な話者とする

方言研究では社会言語学的な観点が取り込まれることも多いが、文法記述を目指すのであれば、社会言語学的な観点は重要度が低い。したがって、多数の多様な話者から少しずつデータを得るよりも、特定少数の話者から多くのデータを得たほうがよい。調査にかかる労力という点でも、同じ話者に繰り返し調査をおこなうほうが効率的である。

このため、発表者は自身の祖母を主な対象として、祖母と家族の談話を継続的に収録している。家族内の打ち解けた談話であるため普段どおりの方言があらわれやすく、繰り返しの談話録音も無理なくおこなえる。通常の談話録音調査では話題が尽きて会話が続かないことも珍しくないが、調査者自身が家族として談話に加わり発話をうながすこともできる。また、調査者にとって身近な話者であるため、録音後の文字化や分析もしやすい。

特定話者の特定のスタイルという点に留意する必要があるが、文法記述に必要な談話資料を無理なく収録するには有効な方策と考える。

#### (b) 地元のテープ起こし業者に文字化を発注する

談話の文字化には大きな労力が必要だが、発表者は文字化作業を福島市内のテープ起こし業者に発注している（この業者は福島大学の半沢康先生に教えていただいた）。方言談話の文字化は、その方言を理解する人間でなければ容易でなく、ミスも生じやすい。そのため、どの業者でも請け負えるわけではないが、テープ起こし業者は全国各地にある。一次的な文字化作業を地元の業者に発注し、研究者自身は二次的な作業として納品された文字化データにミスがないか確認することに徹すれば、文字化作業は省力化できる。

## 7 時間の談話資料からわかること

### (c) 漢字かなまじりで表記する

従来の方言研究では、(1) のように、カタカナ書きの方言発話と標準語訳の 2 段構成で談話資料を整備することが多い。

- (1) アンタエデ      タゲノゴ      クーガイ？  
     あなたの家で      たけのこ      食べるかい？

しかし、2 段に分けて表記するため、編集の手間が余計にかかる。さらに、文字化資料を電子コーパスのようにあつかうためには、1 段目の方言発話だけを収めた別個のテキストファイルを作らないと、検索をかけにくい。

そのため、発表者は (2) のように方言発話だけを漢字かなまじり表記で示すことにしている。一般むけの読み物によく見られるように、漢字表記やふりがなに工夫をし、方言特有の語彙に語釈をつければ、標準語訳とあわせた 2 段構成にしなくても読みやすい文字化資料にできる。この形のほうが業者も文字化がしやすく、編集の手間も少ない。Microsoft Word など、ふりがなに対応した特定のソフトを使う必要があるが、ふりがなを含めた検索も可能である。

- (2) あんた<sup>え</sup>家で、たげのご食うがい？

もちろん、文法記述のためには、より精緻な形での文字化も必要である。他言語・他方言の記述研究とリンクするためには、(3) のように音素表記、グロス、英訳の 3 段構成による資料も整備するのが理想的である。

- (3) aNta      e=de      takenoko      ku-u=ka=i?  
2.SG      home=LOC      bamboo.shoot      eat-NPST=INT=POL?  
'Will your family eat bamboo shoot?'

(2 : 2 人称、SG : 単数、LOC : 処格、NPST : 非過去、INT : 疑問、POL : 丁寧)

しかし、効率を考えれば、ひとまず (2) のような漢字かなまじり表記で整備し、必要に応じて、ないし、余力のあるときに (3) のような形に直してゆくのが現実的な方策である。いずれにしても、従来の方言研究で一般的な (1) の形にこだわる必然性は少ない。

## 3. 分析対象の談話

本発表では、上記の方法で文字化した談話として、伊達市生え抜きの話者 OB (1929 年生まれ、女性、発表者の祖母) と家族の談話約 6 時間 20 分、同じく MJ (1925 年生、男性、発表者の友人の祖父) と家族の談話約 45 分、総計約 7 時間のデータをもとに分析をおこなう。発表者の祖母 OB を主たる分析対象とするが、発表者の友人 MR の協力で得られた MJ の談話も使用する。談話の参加者は表 1 のとおりだが、基本的に OB と MJ の発話が多く、それ以外の家族は聞き手に回る形で会話が進んでいる。

また、以下の分析では、談話のデータに加え、伊達市に隣接する福島市で主に生育した発表者の内省による作例も使用する (福島市と伊達市は同じ方言区画に属する。菅野 1982 参照)。1 節で述べたが、話者の高齢化を考えると、下の世代の話者の内省を組み込むことは、ひとつの有効な方策と考える。

表 1 談話の参加者

発表者の家族（伊達市保原町）			M 家（伊達市月舘町）		
話者	生年	性別	話者	生年	性別
OB（父方祖母）	1929	女性	MJ（父方祖父）	1925	男性
OY（父）	1951	男性	MY（父）	1959	男性
OK（母）	1953	女性	MR	1989	男性
OR（発表者）	1982	男性			

話者の欄の（ ）には、OR および MR から見た話者の続柄を示す。居住歴の詳細は省くが、OR が伊達市に隣接する福島市で主に生育したのをのぞき、いずれの話者も 18 歳まで伊達市内で生育している。OB、MJ はともに伊達市生え抜きである。

#### 4. 先行研究：受身表現に関連して

以下では、この談話資料から分析できることとして、受身に関する諸事象の例を示す。分析項目として受身に焦点をあてるのは、一見して標準語との違いが見えにくく、先行の記述が少ないためである。どの方言でも、標準語との違いが顕著な文法項目については個別の記述がおこなわれやすい。例えば、西日本諸方言におけるアスペクトの記述（ヨル／トルの使い分け）はよく知られたところである。一方で、文法体系の全般的な記述をおこなうためには、標準語との違いが少ない項目についても記述が必要である。また、談話資料を分析する過程で標準語との違いに新たに気づくこともある。

福島県方言の受身表現については、標準語と同じ接辞・(r)are が使われるということ以外にほとんど記述がない。よく知られるのは、末尾が re の動詞語幹（ラ行下一段動詞語幹）の場合と同じく、t を頭音に持つ接辞が後接したときに /ret/ → /Qcɛ/ という音変化が生じることである。次に、発表者の作例を挙げる。

(4) 宿題忘っちゃ、先生に怒らっちゃ。 (作例)

(wasu<sup>re</sup>te → wasu<sup>Qcɛ</sup>e, okora<sup>re</sup>ta → okora<sup>Qcɛ</sup>a)

この音変化は福島県方言に特徴的なため、菅野（1982）などの概説的な記述でも指摘されている。しかし、この音変化が /ret/ という音連続に必ず生じる義務的なものなのか、あるいは随意的なものなのかについては明確な記述がない。この例に限らず、方言特有の音変化は目に見えやすく指摘されやすい事象だが、形態音韻論的な記述のためには、それが義務的なものか随意的なものかまで明らかにしたほうがよい。

また、標準語の受身文には、直接受身（能動文の対格・与格成分が主格になったもの）、持ち主の受身（能動文の所有格成分が主格になったもの）、第三者の受身（能動文にない成分が主格になったもの）といった類型のあることが知られるが、福島県方言の受身文がこれらすべての類型で使われるか明示した記述はない。方言の受身文については「第三者の受身として解釈される受動文は、用いない方言がある。」（日高 2002:39）との指摘もあり、確認の必要がある。

そして、発表者が近年指摘したことだが、福島県県北部（福島市・伊達市など）の方言には、いわゆる「非情の受身」専用に使われる接辞・(r)ar が存在する（白岩 2012）。この・(r)ar

は、基本的にアスペクト表現のテイルとともに使われ、動作客体としての非情物に生じた結果状態を表す。例えば、動詞「書く」の語幹に接辞・(r)ar とテイルが後接した「書ガッテル (kak·ar·te i·ru → kakaQteru)」という表現は、標準語の受身文のテイル形（書かれていないしテアル（書いてある）とほぼ同じ意味を表す。

(5) 黒板さ、字、書がってる。(＝黒板に字が書かれている／書いてある) (作例)  
本発表では、北海道方言における同種の接辞・(r)asar を分析した佐々木 (2007) にならい、この接辞・(r)ar の意味を「逆使役」と呼ぶ。「逆使役」とは、「受身」と同様に他動詞文の目的語を主語に変更するはたらきを表す概念である。ただし、通常の受身と異なり、元の他動詞文の主語を二格で文中に明示することができない (例:「\*先生ニ 字 書ガッテル。」)。逆使役を表す接辞は東北地方を中心に北海道や北関東にも分布するが、基本的に非情物の結果状態を表すという点で共通した特性を持つ (白岩 2012)。伊達市方言の場合、受身接辞・(r)are がラ行下一段型の活用なのに対して、逆使役接辞・(r)ar はラ行五段型の活用をする点で区別される。

この逆使役接辞・(r)ar については、類義形式である受身接辞・(r)are ないしテアルと比較して記述をおこなう必要がある。例えば、近隣の山形市方言 (渋谷 1989) や宮城県中田方言 (工藤 2014) では、逆使役接辞・(r)ar があるためテアルが使われないという簡単な指摘があるが、実際にテアルが使われないのか実証的に検証する必要がある。

このほか、伊達市方言では、標準語の「くれる」に相当する動詞ケルに受身接辞・(r)are が後接したケラレルという表現が使われる。ケラレルは、談話中で頻繁に使用され、かつ、「\*くれられる」と標準語に直訳できない表現である一方、日高 (2007:94) が宮城県内にわずかな分布のあることを指摘した以外に、先行の記述は見られない。

次の 5 節では、以上をふまえ、先行研究で明確な記述のないことについて分析する。

## 5. 分析

表 2 談話における /ret/ の音変化の頻度

### 5.1 音変化/ret/ → /qcj/

表 2 は、OB と MJ の発話について、末尾が re の動詞語幹ないし受身接辞・(r)are に頭音が t の

	音変化あり (/qcj/で実現)		音変化なし (/ret/のまま実現)	
	OB	251	5	
	MJ	23	3	

接辞が後接した場合、基底として考えられる音連続 /ret/ が /ret/ のまま実現しているか、音変化を経て /qcj/ として実現しているか、それぞれの用例数をまとめたものである。

この表に示すとおり、/ret/ → /qcj/ という音変化はほぼ必ず生じており、/ret/ のまま実現した例はほとんどない。この音変化は、ほぼ義務的に生じるものと考えてよいだろう。/ret/ のまま実現した例は約 7 時間の談話で 8 例しかなく、この 8 例の間に共通点も見られないため、ひとまず例外的なものと考えたい。

### 5.2 第三者の受身での使用

表 3 は有情物主語の受身文について、直接受身、持ち主の受身、第三者の受身のそれぞ

れの類型に該当するものの用例数をまとめたものである。接辞としては、受身接辞

表 3 類型ごとの受身文の用例数（有情物主語の場合）

	直接受身	持ち主の受身	第三者の受身
OB	107	19	11
MJ	14	2	1

-(r)are だけが使われており、逆使役接辞-(r)ar の例はない。

この表に示すとおり、例数は少ないものの、伊達市方言の受身文は第三者の受身でも使用される。これは標準語の受身文と同じであり、従来とりたてて指摘されてこなかったことだが、個別方言の記述としては明確に示しておくべきことである（下例の「ハ」は間投助詞の一種で、とりたてて詞の「は」と区別するためカタカナ表記している）。

- (6) OB : (近所の人について) 3 つくれんときハ一、おっかさまに死なっちハ、おっかさまの顔知んにで育ったつう話だな。

### 5.3 「非情の受身」相当の表現

表 4 「非情の受身」相当表現の出現頻度（話者 OB）

受身接辞-(r)are	逆使役接辞-(r)ar	テアル
1	27	1

MJ は該当例なし

使われた受身接辞-(r)are、逆使役接辞

-(r)ar、および類義表現テアルの出現頻度をまとめたものである。MJ には該当の例がないため、OB の発話の例のみを挙げている。

- (7) 黑板さ、字 {書がちえる (受身) / 書がってる (逆使役) / 書いである}。(作例)

この表に示すとおり、「非情の受身」に相当する表現としては、ほとんどの場合に逆使役接辞-(r)ar が使われている。テアル構文は (9) の 1 例が見られるだけで、非情物主語以外の場合を含めても、それ以外の使用例はない。近隣方言で渋谷 (1989) や工藤 (2014) が指摘するように、テアル構文の使用は例外的といえる。

- (8) OB : (お菓子に) 賞味期限、書がってっぺ。 《逆使役接辞-(r)ar》

- (9) OB : (孫からの年賀状に) 「遊びさ来る」って書いてある。 《テアル》

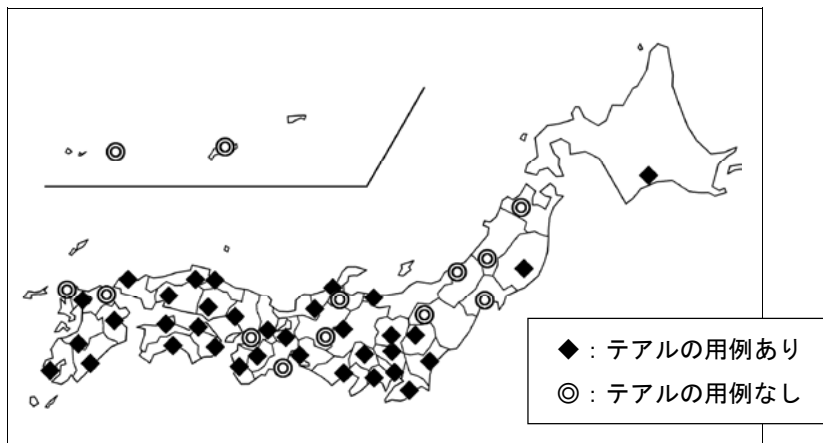


図 1 『全国方言談話データベース』各地点の談話におけるテアルの用例の有無

## 7 時間の談話資料からわかること

なお、『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成』（国立国語研究所編、2001-2008 年）所収の全国の談話（各地点 20～40 分ほど）について、主語の有情／非情をとわず、テアルという表現（方言形のタールを含む）の用例が見られるかを示したのが図 1 である。多くの地点でテアルの用例が出現する一方、岩手県遠野市を除く東北地方の地点では、テアルの用例がない。-(r)ar ないし-(r)asar という逆使役に関わる接辞は東北地方を中心に分布するようだが、その一方で東北諸方言ではテアルの使用が一般的でないのかもしれない。（このような全国諸方言の概観には既存の談話資料が有用である。）

### 5.4 ケラレル（くれる＋受身）という表現

4 節で述べたが、伊達市方言には標準語「くれる」相当の動詞ケルに受身接辞-(r)are が後接したケラレルという表現があり、他者から物や利益を与えられることを表す。標準語では他者から物や利益を与えられることを動詞「もらう」で表し、「\*くれられる」という表現は存在しないが、伊達市方言ではモラウとケラレルの両方が使用される。

(10) 俺、東電がら賠償金 {もらった／けらっちゃ}。 (作例)

しかし、発表者の内省では、ケラレルはあくまで受身の表現であって「本人の意図と無関係に手に入る」という含みが感じられる。よって、意志表現べや願望表現タイとは共起せず、この場合、モラウのみが使われる。

(11) 年金 {もら一べ／\*けられっぺ}。 (=もらおう) (作例)

(12) 年金 {もれ一で一／\*けらっち一}。 (=もらいたい) (作例)

MJ にケラレルの例が見られないため以下では OB の発話だけを対象に分析するが、談話資料でも、モラウが意志表現べと共起した例は 2 例、願望表現タイと共起した例は 8 例ある一方、ケラレルが意志・願望表現と共起した例はなかった。

また、ケラレルは物や利益の与え手が公的機関や大企業など「顔の見えない相手」の場合に偏って使用される。「本人の意図と無関係に顔の見えない相手から事務的に与えられる」ことを表すのがケラレルの典型的な使い方と考えられる。例えば、この談話は震災後に収録した内容が多いが、原発事故の賠償金もケラレルと表現されやすい。

表 5 物・利益の与え手の別による  
モラウ／ケラレルの使用数（話者 OB）

	モラウ	ケラレル
公的機関・大企業	55	28
個人・個人商店	77	7

MJ はケラレルの例なし（モラウのみ 23 例）。

補助動詞の例（テモラウ・テケラレル）含む。

## 6. おわりに：談話資料でわかること・わからないこと

以上、駆け足ではあったが、受身に関する諸事象を分析した。十分な量の談話資料があれば、これまで事象の指摘にとどまったり、標準語と同じであるため明確に記述されなかったりした事柄について、より踏み込んだ記述が可能である。方言文法の記述は、やるべきことが山積して「日暮れて道遠し」の感もあるが、このような形で調査・分析を重ねてゆけば、文法体系全般の包括的な記述も現実味を増すのではないだろうか。

しかし、談話資料ではわからないことも多い。例えば、この種の自然談話は「昔語り」になりがちで、命令表現や依頼表現などの出現頻度が極端に低い。その解決のため、東北大学方言研究センター編（2014）のように、命令場面などのロールプレイ談話を整備する取り組みもある。しかし、ロールプレイでは話者に演技をしてもらう必要があり、適性のある話者を探したり、場面を説明したりするなど、調査に大きな労力がかかる。

発表者は、より効率的な手段として民話資料の活用を検討している。民話研究の分野では、語り部の発話を録音して文字化した資料が数多く出版されている。文字化の精度はやや落ちるかもしれないが、民話の登場人物どうしの会話には命令や依頼の表現も多く含まれる。また、殿様から与太郎まで、多様な属性の話者が登場するため、待遇表現など社会言語学的な要素の関わる項目の分析にも有用である。民話資料の活用はこれまでも散発的におこなわれているが、その資料性を本格的に検討して「使える民話資料」を精選すれば、談話資料に準ずる言語データが一挙に増えることになる。今後の課題として考えたい。

#### 【付記】

本発表は、科研費の若手研究（B）「震災を語る方言談話資料の作成 ―福島方言の記述と震災記録にむけて―」（研究代表者：白岩広行、課題番号：26770160）および基盤研究（C）「通言語的観点から分析する逆使役化関連形態法の広がり」（研究代表者：佐々木冠（白岩は分担者）、課題番号：15K02489）の助成を受けておこなうものである。また、談話収録に協力してくれた友人のMR氏とご家族のみなさまに深く感謝申し上げたい。

#### 【参考文献・資料】

- 菅野宏（1982）「福島県の方言」『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 工藤真由美（2004）「青森県五所川原方言の動詞のアスペクト・テンス・ムード」工藤真由美編『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系 ―標準語研究を超えて―』ひつじ書房
- 国立国語研究所編（2001・2008）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第1巻～第20巻』国書刊行会
- 佐々木冠（2007）「北海道方言における形態的逆使役の成立条件」角田三枝・佐々木冠・塩谷亨編『他動性の通言語的研究』くろしお出版
- 渋谷勝己（1989）「自発のテイル形 ―山形市方言を例にして―」吉沢典男教授追悼論文集編集委員会編『吉沢典男教授追悼論文集』東京外国語大学音声学研究室
- 白岩広行（2012）「福島方言の自発表現」『阪大日本語研究』24
- 東北大学方言研究センター編（2014）『生活を伝える被災地方言会話集 ―宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話―』東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 日高水穂（2002）「ヴォイス（受動文を中心に）」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』（科研報告書）
- ―――（2007）『授与動詞の対照方言学的研究』ひつじ書房

## 方言記述のためにできること

### —震災後の福島から—

平成 28 年度新潟県ことばの会（2016 年 11 月 19 日、新潟大学）

2016 年 11 月 19 日、新潟大学でおこなわれた平成 28 年度新潟県ことばの会において、講演という名目で口頭発表した際のスライドを示す。発表者（白岩）が福島方言の記述のためにおこなっている取り組み全般について概要を示したものである。

この発表では、東日本大震災に関する自身の経験をふまえたうえで、「そもそもなぜ方言を記述するのか」を、まず論じた。地域の人の気持ちを真に理解するために、その地域の人の話すことば、つまり方言についての理解が必要であることを、命令形の文末イントネーション、体験的過去、形容詞のテイル形など、具体的な文法事項の例をもとに示した。

そのうえで、辞書、談話資料（テキスト）、文法書のいわゆる「3 点セット」が方言記述のために必要であること、また、それが単に標準語との相違点の列挙ではいけないということを、外国語学習\*の例を引き合いに出して述べた。そして、辞書、談話資料、文法書の順に整理して、発表者が実際におこなっている取り組みを示した。

最後に、このような方言記述の取り組みが現在の方言研究のひとつの潮流であることにもふれている。

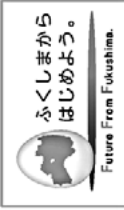
---

\* スライドではわかりやすさを考慮して「外国語」という語を用いたが、「第二言語」のほうが適切な表現であることは、発表の際に口頭で説明した。

平成28年度新潟県ことばの会(2016年11月19日 新潟大学)

## 方言記述のためにできること —震災後の福島から—

白岩広行(上越教育大学)



### 発表の概要

- (1) 自己紹介
- (2) 震災をうけて
- (3) なぜ方言を残すか
- (4) 方言を記述するには
- (5) 辞書を作る
- (6) 談話資料を作る
- (7) 文法書を作る
- (8) これからの課題

1

### 白岩の略歴

1982年 福島県伊達市生まれ

0-5歳：福島市 5-7歳：伊達市 7-12歳：郡山市  
12-14歳：白河市 14-18歳：福島市  
(以上、福島県中通り地方)

18歳：大阪大学入学

28歳：大阪大学大学院博士後期課程修了 (2011年3月)

28-30歳：大阪大学 助教

30-34歳：上越教育大学 講師

東日本大震災

2

### 震災をうけて

福島の人間が反省すべきこと……

原発のリスクを  
知っておくべきだった

地震・津波を  
想定すべきだった

国や東電を  
信じてはいけなかった

放射線の知識を  
得ておくべきだった

故郷の未来を  
他人に任せでは  
いけなかった！

3

震災をうけて

研究者として思ったこと……



「故郷が消える」と  
思った瞬間  
研究者として  
何を思ったか

ことばを  
残さなければ！

写真：福島民友新聞社（2012.2.13）

4

震災をうけて

もし明日、萬代橋が  
なくなってしまうとしたら……

もし上杉謙信がみんなに  
忘れ去られてしまったら……

もしトキが絶滅してしまったら……

もし永遠に雪が降らなくなったら……

それはイヤだ！ そんなものは新潟県じゃない！

5

震災をうけて

もしこのまま福島が  
消えてしまったら……

ふくしまからはじめよう。  
Future From Fukushima.

福島らしいものを残したい！

自分たちの生きてきた証（言語・文化）は  
自分たちの手で記録する！

研究者としての仕事……方言を記録して残す

故郷らしさを残す……全国共通の課題では？

6


なぜ方言を残すか

有形文化財にくらべて「残す価値」が見えにくい……

なんで方言なんて残すの？

……方言でないと残せないものがある！

cf. 上越市 3億円の太刀を取得へ……



（左）ポスター  
（右）上越タイムズ  
2016.11.17  
（白岩撮影）

7

なぜ方言を残すか

福島方言独特の  
パターン

方言でないと伝わらないことがある……!

ほら、飲めㇿ

ほら、飲めㇿ

下降調イントネーションの：聞き手への配慮なし  
上昇調イントネーションの：聞き手に押しつけない  
白岩 (2011:98-99; 2014:60-61) 参照

よかったら、飲めㇿ

嫌だったら残したっていいけどな。

8

なぜ方言を残すか

福島方言独特の  
表現

死んだ。

死んだった。

タツタ：体験性過去（目撃／体験したこと専用の過去形）  
工藤ほか (2005) 参照

× 織田信長は本能寺で死んだった。  
→ 目撃してないので使用不可  
○ 戦争でたくさんの方が死んだった。  
→ 死ぬところを実際に目撃した（臨場的）

cf. 三条市方言でも報告例あり (小杉1978) 9

なぜ方言を残すか

福島方言独特の  
表現

楽しい。

楽しくている。

形容詞の～テイル：一次的な状態を表す  
加藤 (2012)、工藤 (2012) 参照

× ハワイアンズに行くといつも楽しくている。  
→ 恒常的なことなので～テイルは不可  
○ 今日は誕生日だから特別に楽しくている。  
→ 一次的なことなので～テイルが使用可能

10

なぜ方言を残すか

一時的なこと

全国からボランティア  
来てくれたったなあ。

支援を受けた当事者

今はお金も家もなくていいけど、  
そのうちいいこともあんだから、  
しばらくがんばれㇿ

押しつけない励まし

方言がわかれば  
福島の人の気持ちが  
もっとわかる

……土地のことばでないと地元の気持ちは表せない

11

なぜ方言を残すか

グローバルに考えると……

おいしいよ。

おいしいね。

日本語の「よ」と「ね」の違いを英語に翻訳できるか??

……日本語でないと日本人の気持ちは表せない

方言も同じ

cf. UNESCOが保護対象とする  
日本国内の消滅危機言語


アイヌ語、ハズ語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語

12

震災をうけて

白岩家の被害……たいしたことはなかったけれど……

家じゅうの壁紙がビリビリ  
(母が全部ボンドで直しました)



13

震災をうけて



愛蔵本の処分  
(家が重いと倒れる)

14

震災をうけて

匈奴は中国の歴史に濃い影を投げかけているのに、わからないことの多い民族です。(中略)そのおもな理由は、匈奴がみずからのお手みずからの記録を残さなかったことにあるでしょう。

陳舜臣『中国の歴史3』講談社文庫

自分たちの生きてきた証(言語・文化)は  
自分たちの手で記録する!

15

なぜ方言を残すか

方言を記述する理由……

地元のことを残す……地元の人の「心」を残す

……有形文化財(形あるもの)より大事では？

100年後の日本人が日本語でなく  
英語を話すようになっていたら……

方言も同じ

……それは日本人と言えるだろうか？

16

方言を記述するには

言語記述の最終目標

「これを読めばその言語が話せるようになる」  
という記録を整備すること

言語記述の「3点セット」

- 辞書(単語集)
- 談話資料(会話例)
- 文法書

……これがあれば話せるようになる

17

方言を記述するには

外国語の教科書

単語集

文法

解説

会話例

重兼・遠藤光暁(2001)『話す中国語——北京編I——』朝日出版社

18

方言を記述するには

これまでの方言研究をふりかえると……

【辞書】  
方言辞典はたくさんあるが……

【談話資料】  
国語研究所が全国各地で  
30分ほど整備しているが……

【文法書】  
断片的な記述はあるが……

……これで十分か？

19

## 辞書を作る

新しいことばを勉強するとき、まず覚える単語

【あいさつ】

Good morning.  
Hello.

【数詞】

one, two, three...

【天気】

rain, snow...

【方向】

left, right...

【身体語彙】

head, hand, nose...

【親族語彙】

mother, father...

....方言辞書は？ 20

## 辞書を作る

理想の辞書....標準語と同じ語彙も網羅する

その方言の話者にとって「当たり前」の単語でも  
新しくその方言を学ぶ人にとって  
「当たり前」ではないかもしれない

「人と違う」のが個性ではなくて、  
人と同じところもふくめて、  
「その人そのもの」が個性なんだよ

....方言も同じ

22

## 辞書を作る

既存の方言辞書....「標準語と違う語彙」が中心

基礎語彙の例

(亀井ほか1996:270の一覧から英単語を日本語訳)

【動詞】「飲む」「食べる」「見る」「聞く」「笑う」....

【形容詞】「大きい」「小さい」「長い」「短い」....

【名詞】「太陽」「月」「星」「水」「雨」「石」....

「右」「左」「上」「下」....

....標準語と同じ語彙は辞書にないことが多い  
(見る、長い、雨、左、など)

21

## 辞書を作る

標準語と同じとおもいきや....

数詞は標準語と同じだろう....

いち、に、さん、し、ご....

ひー、ふー、みー、よー、....

ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ....

ひとり、ふたり、さんにん、よにん、....

「よったり」とも言う

....違うこともある 23

## 辞書を作る

### 白岩の試み

峰岸真琴『言語調査票2000年版』

[http://www.aatufs.ac.jp/~mmine/kiki\\_gen/query/aaquery-1.htm](http://www.aatufs.ac.jp/~mmine/kiki_gen/query/aaquery-1.htm)

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
でまとめた語彙一覧  
→ 海外諸言語の研究とつながりうる
- 2000語を一覧化 → 十分な語彙量がある
- インターネット上にアップロード → 便利！

24

## 談話資料を作る

談話資料の整備＝録音してテープ起こしするだけ

しかし……

- とても単純 ➢ とても地味 ➢ 根気が必要
- それ自体が研究論文にはならない

誰でもできるが、誰もやりたがらない。

日本放送協会『全国方言資料』(141地点)  
国立国語研究所『日本のふるさとことば集成』(48地点)  
……全国各地で30分ほどの談話資料を整備

30分ではわからないことが多い。

26

## 辞書を作る

現在の成果……祖母(87歳)を対象に800語調査済

標準語	英語	福島方言
あたま	head	アダマ
かみ	hair	カミ
ひたい	forehead	デナ
め	eye	マナグ
なみだ	tear	ナミダ
みみ	ear	ミミ
……	……	……

25

## 談話資料を作る

特に談話資料は、方言の会話をそのまま録音または文字化しているものであり、貴重な資料としての価値を持っているが、その数は十分とはいえない。特に、福島県は被害の大きかった地域であるにもかかわらず、これまででの談話資料の蓄積は極端に少ない。

東北大学方言研究センター編(2012:62)

どうやって大量の談話を録音・文字化するか

27

## 談話資料を作る

### 工夫① 自分の祖母と家族の談話を録音する

- 個人差の分析は主目的ではない
- 一個人であっても体系としての記述が優先
- 圧倒的に録音調査がしやすい
- 文字化・分析もしやすい

ばあちゃんこういうつもりで  
言ったんだな……

祖母……1929年生まれ(87歳)、伊達市生え抜き

Oo. 28

## 談話資料を作る

### 従来の文字化

……「方言音声／標準語訳」の2段表記

アンタエデ タゲノゴ ケーガイ？  
あなたの家で たけのこ 食べるかい？

- 編集に手間がかかる
- 業者が文字化しにくい
- パソコンで検索をかけにくい  
(1段目と2段目を同時に検索してしまう)

30

## 談話資料を作る

### 工夫② 地元のテープ起こし業者に業務委託

- テープ起こし業者は福島にもある
- 研究者は納品後のチェックに注力

### 工夫③ 漢字かなまじりで文字化する

え  
あんた家で、たげのご食うがい？

ふりがなを活用<sup>29</sup>

## 談話資料を作る

### 本格的にやるなら……

aNta e=de takenoko ku-u=ka-i?  
2.SG home=LOC bamboo.shoot eat-NPST=INT=POL  
'Will your family eat bamboo shoot?'  
(2:2人称 SG: 単数 LOC: 処格 NPST: 非過去 INT: 疑問 POL: 丁寧)

### 【1段目】音素表記

### 【2段目】グロス(単語・形態素の意味)

### 【3段目】文全体の英訳

……これなら一般言語学につながる<sup>31</sup>

談話資料を作る

実際に聞いてみて下さい

福島方言7時間談話(整備中)

O家(伊達市保原町)談話:約6時間20分  
M家(伊達市月館町)談話:約40分

大半の発話はOB

表1 福島方言7時間談話の話者

話者	生年	性別	出身
OB(父方祖母)	1929	女	伊達市保原町
OY(父)	1951	男	伊達市保原町
OK(母)	1953	女	伊達市保原町
OR(孫)	1982	男	福島市
MI(父方祖父)	1925	男	伊達市月館町
MY(父)	1959	男	伊達市月館町
MIR(孫)	1989	男	伊達市月館町

32

文法書を作る

例えば……

受身表現:標準語との違いが目立たない  
→ わざわざ記述されていない

【標準語】先生に叱られた。

【福島方言】先生に叱らっちゃ。ちよっと語形が違うだけ?

しかし……

受身表現の項目がない文法書はあるか? ?  
cf. 外国語の教科書は?

34

文法書を作る

従来の方言文法記述  
……標準語との違いに焦点をあてて記述

福島方言では標準語の「だろう」を「べ」と言う  
例)明日は雨だべ。

福島方言には体験性過去のタツタがある  
例)戦争で人が死んだった。

文法書……その言語の体系を総体的に記述  
=断片的な記述ではない

33

文法書を作る

受身表現の3分類

【直接受身】対象(～を、～に)が主格(～が)に

《能動文》先生が太郎を叱った。  
《受身文》太郎が先生に叱られた。

【持ち主の受身】対象の持ち主(～の)が主格(～が)に

《能動文》泥棒が太郎の財布をとった。  
《受身文》太郎が泥棒に財布をとられた。

日本語学の(ほぼ)必修事項

35

## 文法書を作る

【第三者の受身】能動文に登場しない人が主格に

《能動文》 親が 死んだ。

《受身文》 太郎が 親に 死なれた。

方言の受身文にこの3タイプはあるのか？

cf. 第三者の受け身として解釈される受動文は、用いない方言がある。(日高2002:39)

……談話資料で確かめてみる

36

## 文法書を作る

第三者の受身はある！

あるかないかを明確に示して  
標準語と同等の記述ができる

もし談話の長さが  
30分(14分の1)  
だったら、  
用例が見えたら  
なかったかも

表2 類型ごとの受身文の用例数

話者	直接受身	持ち主の受身	第三者の受身
OB(女)	107	19	11
MJ(男)	14	2	1

38

## 文法書を作る

表2 類型ごとの受身文の用例数

話者	直接受身	持ち主の受身	第三者の受身
OB(女) 1929年生	107	19	11
MJ(男) 1925年生	14	2	1

(近所の人について)3つくれんとぎハー、おっかさまに死なちハ、おっかさまの顔知んにで育ったつう話だな。

OB

……第三者の受身はある！ 37

## 文法書を作る

標準語にない受身表現を談話のなかに発見！

(桃の値段が)安くて、なんぼ賠償もらったが知んにげんちよもよ《知らないけどもよ》、今年、またけられっかなんだが《くれられるかどうか》。

ケラレル＝動詞ケル(くれる)＋受身ラレル

標準語に直訳すると……

くれられる(≡与えられる)……「もらう」の類義語

39

## 文法書を作る

《能動文》親が 俺に お金を くれる。  
 《受身文》俺が 親に お金を くれる。(≡もらう)

福島方言の「くれる」には受身形がある！  
 伊達市 保原町では

標準語では……

基本形	過去形	否定形	命令形	受身形
入れる	入れた	入れない	入れろ	入れられる
ふれる	ふれた	ふれない	ふれろ	ふれられる
くれる	くれた	くれない	くれ	x

……むしろ標準語の「くれる」がおかしい！ 40

## 文法書を作る

モラウとケラレルの違いは？

内省で考えると……

《意志表現ベ》

年金 [Oもらーべ／×けられっぺ]。(＝もらおう。)

《願望表現タイ》

年金 [Oもれーでー／×けらっちー]。(＝もらいたい。)

モラウ：受け取り手の意図が関与する

ケラレル：受け取り手の意図と無関係に与えられる

(あくまで受身)

42

## 文法書を作る

英語では……

《能動文》She gave me a chocolate.

《受身文》I was given a chocolate by her.

giveも受身になる

標準語	俺にお金を……	俺がお金を……
	くれる	もらう
福島方言	ける	もらう けられる

【標準語】—「もらう」があるから「けられる」は不要

【福島方言】—「もらう」と「けられる」を併用

41

## 文法書を作る

談話資料を見ると……

MJはケラレル不使用

表3 OBの発話におけるモラウとケラレルの使用例

	モラウ	ケラレル
全用例数	132	35
意志表現ベ後接	2	0
願望表現タイ後接	8	0

ケラレルに意志・願望表現が後接した例はない  
 → 談話資料で内省による分析を補強できる

43

文法書を作る

ケラレルのニュアンス①

受け取り手の意図と無関係(あくまで受身)

自動的に手に入った！

(いつの間にか通帳に年金が振り込まれていた)  
あら、今月はいつよりもより早めにケラッチャ。

44

文法書を作る

ケラレルのニュアンス②

受け取り手の意図と無関係(あくまで受身)

別に欲しいわけではないのに……

素直に喜べないなあ……

セシウム入りのだけのコケラッチャ。

45

文法書を作る

談話資料を見ると……

表4 物・利益の与え手の別による  
モラウ・ケラレルの使用数(話者08)

	モラウ	ケラレル
公的機関	55	28
東京電力		
個人商店	77	7
個人・神仏		

自動的に手に入る  
素直に喜べない(?)

※補助動詞(～してもらう／～してけられる)の例をふくむ

46

文法書を作る

(桃の値段が)安くて、なんぼ賠償もらったが知んにげんちよもよ《知らないけどもよ》、今年、またけられつかなんだが《くれられるかどうだか》。

文法記述

地域の人の  
気持ちを  
読み解く

……文法書の作成＝地域の「心」の記録？

47

## これからの課題

震災前後から個人的に少しずつやっていたが……

### 福島大学との連携

【2016年8月】

福島県田村市都路地区・川内村で談話録音調査

- 伊達市以外の談話を整備
- 複数のメンバーでより多くの談話資料を整備

半沢康氏・福島大学学生  
を中心として

48

## これからの課題

国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言」プロジェクトの始動(2016年～)

打合せ資料より……

表1 三点セット作成のロードマップ

	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	31 (2019)	32 (2020)	33 (2021)
①調査計画(音声付)	共通調査(300～500語)					まとめ
②74 例文		方言				説明書
③談話テキスト		準備				
④文法書						

辞書(語彙集・例文)  
談話資料(談話テキスト)  
文法書  
……3点セットの整備!

49

## これからの課題

……全国各地の研究者が呼応・連携しつつある

自分のやってきたことは  
意義のあることだった



50

## これからの課題

やるべきことは山ほどある……

### 辞書の整備

- 例文の収集
- 音声の整備
- より多くの語彙の収集
- 既存の方言辞典の参照

限りがない

51

## これからの課題

### 談話資料の整備

- OB以外の話者からの録音
- 場面を変えた録音
- 民話資料の活用検討

語りを録音してそのまま文字化した民話資料  
 ……福島県内に多数あり  
 ……個人差・場面差の分析には特に有用

52

## これからの課題

### 文法書の整備

多項目にわたる

- 音素目録、異音、音節構造、韻律
- (代名詞、指示詞、数詞、疑問詞)
- 品詞: 動詞、形容詞、名詞、……
- 格、とりたて、受身、使役、時制、アスペクト、  
肯否、意志、推量、命令、疑問、終助詞
- 複文: 順接、逆接、仮定、……

53

## これからの課題

日々の仕事は忙しいけれど……

……できることを積み重ねてゆこう

ご清聴ありがとうございました

辞書、談話資料などの整備  
 お待ちしております

54

## 付記

本発表は下記のプロジェクトに関する  
 研究成果を報告したものである

- (1) JSPS科研究費若手研究(B)26770160「震災を語る方言  
 談話資料の作成 ―福島方言の記述と震災記録に  
 むけて―」(研究代表者: 白岩広行、上越教育大学)
- (2) JSPS科研究費基盤研究(C)15K02557「福島県相双方  
 言の記録と継承を目的とした調査研究」(研究代表  
 者: 半沢康、福島大学)
- (3) 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅  
 危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作  
 成」(プロジェクトリーダー: 木部暢子)

55

## 参考文献

- 【参考文献】  
 加藤重広(2012)「日本語における属性の事象化と一時性 一標準語と方言の差異に着目して」影山太郎編『属性叙述の世界』くろしお出版  
 亀井孝・河野六郎・千野栄一(1996)『言語学大辞典 第6巻 述語編』三省堂  
 工藤真由美(2012)「時間的限定性という観点が提起するもの」影山太郎編『属性叙述の世界』くろしお出版  
 工藤真由美・佐藤里美・八亀裕美(2005)「体験的過去をめぐってー宮城県登米郡中田町方言の述語構造」『阪大日本語研究』17  
 小杉節一(1978)「助動詞「た」の意味 一三条の方言におけるー」『三条市史研究』3  
 国立国語研究所編(2001・2008)『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』国書刊行会  
 白岩広行(2011)「福島方言の文末イントネーション意味的な記述への視点ー」『日本語文法』11・1

56

## 参考文献

- 白岩広行(2014)「イントネーションの意味記述 ー福島方言における試みー」『日本語学』33・7  
 東北大学方言研究センター編(2012)『方言を救う、方言で救う 3.11被災地からの提言』ひつじ書房  
 日本放送協会編(1966-1972)『全国方言資料 第1～11巻』日本放送出版協会  
 日高水穂(2002)「グオイス(受動文を中心に)」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』(科学研究報告書)国立国語研究所大西拓一郎研究室  
 峰岸真琴『言語調査集2000年版』  
[http://www.aatufu.ac.jp/~mmine/kiki\\_gen/query/aaquery-1.htm](http://www.aatufu.ac.jp/~mmine/kiki_gen/query/aaquery-1.htm)  
 【資料】  
 陳舜臣(1990)『中国の歴史 三』講談社  
 董燕・遠藤光暁(2001)『話す中国語 ー北京編1ー』朝日出版社  
 福島民友新聞社(2012)『報道記録集 東日本大震災・原発事故 福島の1年 2011.3.11～2012.3.11』福島民友新聞社

57

## 福島方言簡易文法書

福島方言の文法（音声・音韻をふくむ）について簡易的ではあるが全体的な記述をおこなったので、それを示す。

本稿は、木部暢子氏（国立国語研究所）、佐々木冠氏（札幌学院大学）、新田哲夫氏（金沢大学）の共編で、ドイツ Mouton De Gruyter 社から *Mouton Handbooks of Japanese Language and Linguistics* の方言の巻として刊行予定の *The Handbook of Japanese Dialects* の福島方言の章の内容にあたる。この書籍には筆者（白岩）が和文で執筆した原稿が英文に翻訳のうえで収録される予定だが、編者の先生方の了解を得て、翻訳前の和文原稿を本報告書に収録することにした。

この内容を英文で広く世界に発信することも重要だが、書籍の出版には相応の時間がかかる。一方、昔ながらのいわゆる伝統方言は消滅の危機に瀕しており、その記述研究のために残された時間は限られている。和文であっても、書けたものはできるだけ早く世に出すことが重要であると考えた。

本稿は、先行して執筆された佐々木冠氏による茨城方言の記述、木部暢子氏による鹿児島方言の記述をひながたとしている。筆者が個人的に手を加えた点もあるが、節立てやグロス付与の方法、活用形の整理など記述の枠組みは基本的にこの両氏の稿を踏襲している。この枠組みは琉球語研究における下地（2013）を参考にしたもので、木部（2016）の中に節立て（記述項目）の例がまとめられている。

本稿で示す福島方言のデータは、筆者の整備した談話資料中の例や高齢者の発話に関する日常的な観察をもとにした筆者の作例である。筆者は 1982 年伊達市生まれで 18 歳まで福島市・伊達市を中心に福島県内で生育している（居住歴は 0-5 歳：福島市、5-7 歳：伊達市、7-12 歳：郡山市、12-14 歳：白河市、14-18 歳：福島市、18-30 歳：大阪府、30-34 歳：新潟県）。適格性判断に迷う用例は年上の家族などに確認のうえで使用した。本稿はあくまで簡易的な記述として作例による簡明な記述をおこなったが、今後、談話資料の例も多くまじえてより詳細な記述を進めたい。なお、用例やその解釈について、福島方言と共通する点は、前述の茨城方言、鹿児島方言の記述を踏襲した箇所がある。福島県伊達市（旧保原町）方言を記述した飯豊（1974）の例を踏襲したものもある。

最後になるが、本稿をなすにあたっては、*The Handbook of Japanese Dialects* の編者の先生から有益なコメントをいただいた。記して感謝申し上げたい。

（引用文献）

飯豊毅一（1974）『言語使用の変遷（1）—福島県北部地域の面接調査—』国立国語研究所

木部暢子（2016）「記述方言学の研究動向」日本方言研究会編『方言の研究 2』ひつじ書房、pp.63-82

下地理則（2013）「危機方言研究における文法スケッチ」『琉球列島の言語と文化 その記録と継承』くろしお出版、pp.45-80

## グロス略号一覧

略号	意味（英）	意味（日）	言語形式の例
1	first person	1 人称	ore, ora
2	second person	2 人称	anta, omee, nisja
3	third person	3 人称	aecu
ABL	ablative	奪格	=kara
ACAUS	anticausative	逆使役	-(r)ar
ACC	accusative	対格	=o, =koto（対格と有生性の複合）
ADD	additive	付加	=mo
ADNZ	adnominalizer	連体化	=na（-na 形容詞後接のコピュラの連体形）
ADV	adverbial	連用	-ku（形容詞後接の接辞）
ANIM	animate	有生性	=koto（対格と有生性の複合）
APP	apparent	様態	=mitee
CAUS	causative	使役	-(r)ase
CMPR	comparative	比較格	=jori
COMIT	comitative	随格	=to
CONC	concessive	逆接	=kencjomo, =kento
COND	conditional	仮定	-(r)eba, -tara, =to, =kotta, =koccja
COP	copula	コピュラ	=da
CSL	causal	理由	=kara
DAT	dative	与格	=ni, =sa
DES	desiderative	願望	-(i)ta
DEST	dastinative	到格	=made
DIM	diminutive	指小辞	-ko
DIREV	direct evidential	直接証拠性	-tatta（過去と直接証拠性の複合）
DIST	distal	遠称	are（指示詞）
GEN	genitive	属格	=no, =ga
GER	gerundive	中止	-te
HCR	hypocoristic	尊称	-sama, -saN, -cjaN
IMP	imperative	命令	-e, -ro, -o
INFR	inferential	推量	=be
INST	instrumental	具格	=de
INTL	intentional	意志	=be
LOC	locative	場所格	=ni, =sa, =de

略号	意味（英）	意味（日）	言語形式の例
NEG	negative	否定	-(a)ne
NMNL	nominalizer	準体助詞	=no
NOM	nominative	主格	=ga
NPST	non-past	非過去	-(r)u, -e
PASS	passive	受動	-(r)are
PL	plural	複数	-ra
POL	polite	丁寧	=e
POT	potential	可能	-(r)are
PROH	prohibitive	禁止	-(r)una
PST	past	過去	-ta
Q	question	疑問	=ka
QUOT	quotative	引用	=tte, =to
RPRT	reportative	伝聞	=suke
RST	restrictive	限定	=take, =suka, =kiri, =bakka
SFP	sentence final particle	終助詞	=kke, =suta, =wa, =zo, =jo, =de, =na, =haa
SG	singular	単数	ore（1人称単数）, omee（2人称単数）
TOP	topic	主題	=wa
VBLZ	verbalizer	動詞化	-kar（形容詞の動詞化）

## 1. 地域の概要

福島県は東北地方のもっとも南に位置する。東北地方の方言は東北部の方言と東北部の方言に大きく二分されるが、福島方言は東南部に属している。東北方言の一種として特徴づけられるが、関東北部の方言との共通点も多い。東北部から関東にかけての方言連続体の一部を構成している。

70 代以上の話者の多くには伝統方言の特徴が残っているが、戦後に生まれた 60 代以下の世代では段階的に標準語化が進んでいる。しかし、若年層の人々も、多くは伝統方言の理解能力を持つ。2015 年 9 月の福島県の発表（福島県の推計人口）によると、県の総人口は約 193 万人で、そのうち 70 歳以上の人口が約 40 万人を占める。

福島県は広大な面積を持つため、県内の方言もいくつかの地域ごとに下位区分される。ただし、地域間の連続性が大きいので、区分のしかたは場合によって異なる。児玉(1935)は県北、中部、県南、会津、浜通りの 5 つに、菅野(1982)は 10 に、県内の方言を分類している。本稿では、県庁所在地の福島市およびその隣の伊達市で話される方言を記述の対象とし、この方言を「福島方言」と呼ぶことにする(以下、FD (Fukushima Dialect) と略す場合がある)。この 2 つの市の方言は、児玉(1935)で県北方言に区分されたもので、菅野(1982)でも同一の区画に区分されている。

福島方言の音素目録は基本的に標準語と似ている。しかし、標準語の /i/ にあたる拍が /e/ に、/si/、/ti/ にあたる拍が /su/、/cu/ に統合されている点、母音間の /t/、/c/、/k/ が有声化する点など、音韻、音声の面で東北方言の特徴を持つ。文法も基本的に標準語と同じで、主格対格型で SOV の語順を持つが、文脈で補える場合には主語が省略されやすい。統語法は主要部が後置されるタイプで、形態法は主要部に膠着的な要素が後接するタイプである。名詞句の構造は「修飾部＋主要名詞＋格助詞」、動詞句・形容詞句の構造は「修飾部＋動詞・形容詞＋補助動詞」である。標準語と違う点として、逆使役や体験的過去など、特有の文法的意味を表す接辞を持つ。

福島方言には特有の音韻プロセスが多く、膠着要素が表層で見えにくくなる場合がある。例えば、動詞語幹 *jom-* ‘読む’ に可能の *-are-*、否定の *-ne-*、非過去の *-e* が後接すると、基底形は *//jom-are-ne-el//* だが、表層形は *jomanni* となる。これについては、10 節で詳しく述べる。本稿の例文には、音韻プロセスを経たあとの表層形について、便宜的に形態素ごとに分けてグロスをつけたものがある。

なお、記述にあたっては、伊達市における筆者の調査のほか、飯豊(1974)の伊達市方言に関する記述を参考にした。しかし、飯豊(1974)の記述する古い福島方言の特徴のいくつかは、現在、高年層話者においても失われている。そのような事項については、飯豊(1974)の記述した内容を「古い福島方言 (old FD)」、筆者による内容を「現在の福島方言 (present FD)」として、区別して示す。そのうえで、現在の高年層話者が話す「現在の福島方言」を本稿の記述対象とする。

## 2. 音韻論

### 2.1 音素目録

#### 2.1.1 母音音素

福島方言の短母音音素は/i/, /u/, /e/, /o/, /a/の5種類である。音素の目録は標準語と同じだが、/i/, /e/, /u/の音価が異なる。/i/, /u/は、それぞれ標準語よりも中舌寄りの[i], [u̠]で発音される。/e/は標準語よりも舌の位置が高くなりやすい。特に子音と結合しない環境では舌の位置が高く、[e̠]ないし[i̠]と発音される。語彙的な例外として、名詞*e*‘家’、形容詞語幹*e-*‘よい’の/e/の音は、口の開きが狭くなり、[zɛ̠ ~ zĩ]のような摩擦性母音になることがある。

表 1. 母音体系

	前舌	奥舌
狭	i	u
半狭	e	o
広	a	

表 2. ミニマルペア

/hi/ [çĩ] ‘火’
/hu/ [xu̠] ‘麴’
/he/ [he̠] ‘屁’
/ho/ [ho̠] ‘帆’
/ha/ [ha̠] ‘齒’

子音と結合しない環境では、標準語の/i/と/e/にあたる音が統合して区別されない。本稿ではこの音を/e/とする。下の例では標準語の例を SJ (Standard Japanese) として示す。

- (1) a. /eki/ (SJ: /iki/) [ɛgĩ ~ ĩgĩ] ‘息’  
 b. /eki/ (SJ: /eki/) [ɛgĩ ~ ĩgĩ] ‘駅’  
 (2) a. /koe/ (SJ: /koi/) [koɛ̠ ~ koĩ] ‘鯉’  
 b. /koe/ (SJ: /koe/) [koɛ̠ ~ koĩ] ‘声’

また、/i/は/s/, /z/, /t/, /d/と結合しない。標準語の/si/, /ti/にあたる音は/su/, /cu/に統合されている（2.1.2 節で後述するとおり、標準語の/tu/は福島方言の/cu/に相当する）。

- (3) a. /nasu/ (SJ: /nasi/) [nasu̠] ‘梨’  
 b. /nasu/ (SJ: /nasu/) [nasu̠] ‘茄子’  
 (4) a. /curi/ (SJ: /tiri/) [tsu̠rĩ] ‘地理’  
 b. /curi/ (SJ: /turi/) [tsu̠rĩ] ‘釣り’

古代日本語にあった/zĩ/, /dĩ/, /zu/, /du/の4つの音は、標準語では/zĩ/, /zu/の2つの音に統合されているが、福島方言ではさらに統合が進み、/zu/という1つの音に統合されている。したがって、/zĩ/, /dĩ/, /du/という結合は存在しない。下の例では古代日本語の例を OJ (Old Japanese) として示す。

- (5) a. /huzu/ (SJ: /huzi/ OJ: /huzi/) [xu̠zu̠] ‘富士’  
 b. /huzu/ (SJ: /huzi/ OJ: /hudi/) [xu̠zu̠] ‘藤’  
 c. /kuzu/ (SJ: /kuzu/ OJ: /kuzu/) [ku̠zu̠] ‘屑’  
 d. /kuzu/ (SJ: /kuzu/ OJ: /kudu/) [ku̠zu̠] ‘葛’

長母音は、/ii/, /ee/, /aa/, /oo/, /uu/の5種類である。/i/は子音と結合しない環境には現れないが、/i/の後には現れると考え、/ii/という長母音を認める。古い福島方言を記述した飯豊（1974）は/εε/という長母音を認めているが、現在では、/εε/という音素は/ee/に統合されている。

- (6) a. /nεε/ [nεε] ‘ない’ (old FD; 飯豊 1974:33)  
 b. /nee/ [nee] ‘ない’ (present FD)

二重母音は/ae/, /oe/, /ue/の3種類である。

無声子音に挟まれた狭母音/i/, /u/は、しばしば無声化する。/C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>/という音連続で、「C<sub>1</sub>, C<sub>2</sub>が無声子音、V<sub>1</sub>が狭母音」の場合、V<sub>1</sub>は基本的に無声化する。

- (7) a. /hito/ [çĩto] ‘人’ b. /kusa/ [kũːsa] ‘草’

ただし、福島方言には母音間の/t/, /k/, /c/が有声化するという特徴もある（2.1.2.3節で後述）。そのため、/C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>V<sub>2</sub>/という環境で、「C<sub>1</sub>が無声子音、V<sub>1</sub>が狭母音、C<sub>2</sub>が/t/, /k/, /c/のいずれか、V<sub>2</sub>が狭母音」の場合には2とおりの自由変異が生じる。つまり、無声子音に挟まれたV<sub>1</sub>が無声化する場合と、母音に挟まれたC<sub>2</sub>（/t/, /k/, /c/）が有声化する場合の両方がある。

- (8) /kuki/ [kũːkĩ ~ kũːgĩ] ‘茎’

このような自由変異が生じるのはC<sub>2</sub>に続くV<sub>2</sub>が狭母音の場合にかぎられる。C<sub>2</sub>が/t/, /k/, /c/であっても、V<sub>2</sub>が狭母音でない場合には、V<sub>1</sub>の無声化が優先され、C<sub>2</sub>が有声化することはない。つまり、(7a)の/hito/を[çido]と発音することはない。

## 2.1.2 子音音素

子音音素は/p, b, m, t, d, c, s, z, n, r, k, g, h, w, j, ɲ/の16種類である。以下に子音体系と異音を示す。

表 3. 子音体系

	両唇	歯茎	硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声 p	t [t ~ d]		k [k ~ g ~ tɕ ~ dz]	
	有声 b	d		g [g ~ ŋ]	
鼻音	m	n			ɲ [ɲ ~ n ~ m ~ ŋ]
摩擦	無声	s [s ~ ɕ]			h [h ~ ç ~ x]
	有声	z [z ~ ɗ ~ ʒ ~ ʒ]			
破擦	無声	c [ts ~ z ~ tɕ ~ ʒ]			
弾き		r			
接近	w		j		

上で挙げた子音について、いくつかのミニマルペアを示す。まずは、調音方法が同じで調音点が異なる子音どうしのミニマルペアを挙げる。

- (9) a. /paN/ [paN] ‘パン’      /taN/ [taN] ‘痰’      /kaN/ [kaN] ‘缶’  
 b. /bero/ [bero] ‘舌’      /dero/ [dero] ‘泥’      /gero/ [gero] ‘げろ’  
 c. /masu/ [masu] ‘升’      /nasu/ [nasu] ‘茄子’  
 d. /sara/ [sara] ‘皿’      /hara/ [hara] ‘腹’  
 e. /wani/ [wani] ‘わに’      /jani/ [jani] ‘やに’

次に、調音点が同じで調音方法が異なる子音どうしのミニマルペアを挙げる。

- (10) a. /paN/ [paN] ‘パン’ /baN/ [baN] ‘番’ /maN/ [maN] ‘万’ /waN/ [waN] ‘腕’  
 b. /too/ [too] ‘塔’ /doo/ [doo] ‘銅’ /noo/ [noo] ‘脳’  
     /soo/ [soo] ‘層’ /zoo/ [soo] ‘象’ /roo/ [roo] ‘ろう’  
 c. /kaN/ [kaN] ‘缶’ /gaN/ [gaN] ‘癌’

/c/については、別に説明を要する。標準語では、/a/, /e/, /o/の前では[t], /i/の前では[te], /u/の前では[ts]と、[t], [te], [ts]の音が相補的に分布することから、破擦音の[ts], [te]を/t/の条件異音とすることがある。

(11) /ti/ [tei]      /te/ [te]      /ta/ [ta]      /to/ [to]      /tu/ [tsu] (標準語の/t/)  
 一方、福島方言では、/buccaku/ [buʔtsagu] ‘裂く’、/kunce/ [kuʔntse] ‘ください’、/goccoo/ [gottsoo] ‘ごちそう’のように、/a/, /e/, /o/の前にも破擦音の[ts]が現れる。したがって、閉鎖音の[t]と破擦音の[ts]に別々の音素を設定する必要がある。標準語の/tu/にあたる音は、破擦音で発音されるため、/cu/と解釈する(2.1.1節で書いたように標準語の/ti/にあたる音は/cu/に統合している。母音/i/が/t/ないし/c/と結合することはない)。

- (12) a. /te/ [te]      /ta/ [ta]      /to/ [to]      (福島方言の/t/)  
 b. /ce/ [tse]      /ca/ [tsa]      /co/ [tso]      /cu/ [tsu] (福島方言の/c/)

/c/は、/u/と結合するとき以外は、/cc/ないし/nc/という子音連続でのみ現れる。子音連続/tt/と/cc/がミニマルペアをなす例に、以下のものがある。

- (13) a. /atto/ [atto] ‘あると(動詞「ある」+接続助詞「と」)’  
 b. /acco/ [attso] ‘あるぞ(動詞「ある」+終助詞「ぞ」)’  
 /N/は音節末に現れる子音で、他の子音とは性格が異なる(2.2節参照)

### 2.1.2.1 位置の制限

- /N/ は、語頭に現れることもあるが(例: /N=da/ ‘そうだ’、/Nma/ ‘馬’)、音節末に現れることがほとんどである。
- /c/は、母音/u/と結合する場合をのぞき、/cc/ないし/nc/という子音連続でのみ現れる。
- /p/は、いくつかの例外(例: /poncuko/ [pontsuʔko] ‘馬鹿’)をのぞき、/pp/ないし/np/という子音連続でのみ現れる(例: /bappa/ [bappa] ‘ばあさん’、/anpo/ [ampo] ‘干し柿’)。
- 和語の語頭には/r/は現れない。語頭の/r/は漢語か借用語の例である。

### 2.1.2.2 結合の制限

- /t/, /d/は、母音/e/, /o/, /a/と結合するが、母音/i/, /u/とは結合しない。

- ・/s/, /z/, /c/は、母音/e/, /o/, /a/, /u/と結合するが、母音/i/とは結合しない(2.1.1 節参照)。  
また、飯豊(1974)の記述した古い福島方言では、わたり音をふくむ/ju/とも結合しないとされる(標準語の/sju/, /zju/, /cju/に相当する拍が/su/, /zu/, /cu/に統合している)。  
しかし、現在の福島方言では、/s/, /z/, /c/ともに/ju/と結合する。
- ・子音 /j/は、母音/a/, /o/, /u/と結合するが、母音/i/とは結合しない。子音/n/, /c/, /s/, /z/が/j/に先行している場合にかぎり/e/と結合する(例: /omosjee/ ‘面白い’)。
- ・/w/は、標準語と同様、/a/と結合するが、それ以外の母音とは結合しない。

### 2.1.2.3 異音

- ・/t/, /k/は基本的に[t], [k]と発音されるが、母音間では有声化して[d], [g]と発音される(ただし、隣接する母音が無声化した場合は、有声化しない。2.1.1 節参照)。また、/k/は母音/i/ないしわたり音/j/と結合したとき、歯茎硬口蓋破擦音になり、母音間以外では[te], 母音間では[dz]と発音されることがある(わたり音/j/と結合した場合、/kj/という結合全体で[te]ないし[dz]の音になる)。

[t], [k]: /tama/ [tama] ‘玉’      /kami/ [kami] ‘紙’  
[d], [g]: /mato/ [mado] ‘的’      /saka/ [saga] ‘坂’  
[te]: /kimono/ [kimono ~ teimono] ‘着物’ /kjoo/ [kjoo ~ teoo] ‘今日’  
[dz]: /kaki/ [kagi ~ kadzi] ‘柿’      /kokjuu/ [kogjuu: ~ kodzuu:] ‘呼吸’

- ・/g/は基本的に[g]と発音されるが、母音間と/n/の後では鼻音化して[ŋ]と発音される。  
[g]: /gonbo/ [gombo] ‘ごぼう’  
[ŋ]: /kagi/ [kaŋi] ‘鍵’      /sangacu/ [saŋgazu:] ‘3 月’
- ・/b/, /d/は、どのような場合でも[b], [d]と発音される。ただし、古い福島方言では、母音間で鼻音化して[ːb], [ːd]になるとされる。

[b]: /bappa/ [bappa] ‘ばあさん’      /tabako/ [tabago] ‘たばこ’  
[ːb]: /tabako/ [taːbago] ‘たばこ’ (old FD; 飯豊 1974:31)  
[d]: /dero/ [dero] ‘泥’      /mado/ [mado] ‘窓’  
[ːd]: /mado/ [maːdo] ‘窓’ (old FD; 飯豊 1974:31)

表 4. /t/, /d/の発音

	古い福島方言		現在の福島方言		標準語	
	/t/	/d/	/t/	/d/	/t/	/d/
母音間	[d]	[ːd]	[d]	[d]	[t]	[d]
それ以外	[t]	[d]	[t]	[d]	[t]	[d]

ところで、現在の福島方言では、母音間の/t/が有声化して[d]になる一方で、/d/は[d]のまま発音されるので、母音間で/t/と/d/の区別がなくなる。つまり、/mato/ ‘target’も/mado/ ‘window’も同じく[mado]と発音される。しかし、現在の福島方言の/t/, /d/の発音は、古い福島方言の体系が標準語の体系に移行する過程の段階に位置づけられ

る。そのため、古い福島方言および標準語における区別にあわせて、現在の福島方言にも母音間での/t/, /d/の区別を認めることにする。

- ・/s/は基本的に[s]と発音される。ただし、わたり音の/j/と結合する場合、/sj/が[ɕ]と発音される。/e/と結合した場合も、口蓋化して[ɕ]になることがある。

[s]: /suna/ [suːˈna] ‘砂’      /nasu/ [nasuː] ‘茄子’

[ɕ]: /sjatee/ [ɕadee] ‘弟’      /senaka/ [senaga ~ ɕenaga] ‘背中’

- ・/z/は[z]ないし[dz]で発音される。[dz]と[z]は自由異音の関係にあるが、母音間では[z]、母音間以外では[dz]と発音されることが多い。わたり音の/j/と結合する場合、/zj/が[z ~ dz]と発音される。/e/と結合した場合も、口蓋化して[z ~ dz]になることがある。

[z ~ dz]: /zusun/ [dzuːˈsuːˈn] ‘地震’      /kazu/ [kazuː] ‘数’

[z ~ dz]: /dozjoo/ [dozoo] ‘どじょう’      /zeni/ [dzenĩ ~ dzenĩ] ‘銭’

古い福島方言では、/b/, /d/と同様に、/z/も母音間で鼻音化するとされるが(飯豊 1974: 31)、現在の福島方言では母音間でも鼻音化しない。

- ・/c/は基本的に[ts]と発音されるが、母音間では有声化して閉鎖が弱まり[z]と発音される。また、わたり音の/j/と結合する場合、/cj/が、母音間以外では[te]、母音間では[z]と発音される。

[ts]: /cume/ [tsuːˈme] ‘爪’      [z]: /macu/ [mazuː] ‘松’

[te]: /cjoosu/ [tcoosuː] ‘調子’      [z]: /ocja/ [oza] ‘お茶’

現在の福島方言では、母音間で/c/と/z/の区別がつかなくなる(/macu/ ‘松’も/mazu/ ‘ま’も[mazuː]と発音される)。しかし、/t/, /d/の場合と同様、古い福島方言および標準語での区別にあわせて、母音間でも/c/, /z/の区別を認めることにする。

- ・/h/は、標準語と同様、/e/, /a/, /o/と結合したとき[h], /i/と結合したとき[ç]で発音される。一方、/u/と結合した場合、標準語では[ɸ]になるとされるが、福島方言では唇での摩擦が感じられず、[x]に聞こえることが多い(飯豊 1974 も/hu/の発音を[xu]と表している)。また、わたり音として/j/が後続する場合、/hj/が[ç]と発音される。

[h]: /he/ [he] ‘屁’      /ha/ [ha] ‘歯’      /ho/ [ho] ‘帆’

[ç]: /hi/ [çĩ] ‘火’      /hjaku/ [çaguː] ‘百’

[x]: /hu/ [xuː] ‘麩’

- ・/j/は基本的に[j]と発音される。ただし、語彙的な例外として、名詞ju ‘湯’、動詞語幹juw- ‘言う’の/j/の音は、口の開きが狭くなって摩擦性を帯び、[z]のように聞こえることがある。古い福島方言では、このほか/juki/ ‘雪’ [zuːˈgĩ]など別の語の例も見られる(飯豊 1974:35)。

[j]: /juka/ [juːˈga] ‘床’      /cujo/ [tsuːˈjo] ‘汁’

[j ~ z]: /ju/ [juː ~ zuː] ‘湯’      /juu/ [juːˈu ~ zuːˈu] ‘言う’

- ・/n/は、後続する音節がない場合は[N]で現れる。後続する音節がある場合、後続音節の頭音が両唇音[p, b, m]であれば[m]、歯茎音[t, d, n]であれば[n]、軟口蓋音[k, ŋ]であれば[ŋ]、それ以外の音であれば[N]になる。

[N]: /kan/ [kan] ‘缶’      /tansu/ [tansuː] ‘たんす’

- [m]: /zaranpo/ [zarampo] ‘葬式’ /gonbo/ [gombo] ‘ごぼう’ /nma/ [mma] ‘馬’  
 [n]: /unto/ [u<sup>~</sup>nto] ‘うんと’ /kondo/ [kondo] ‘今度’ /onnasu/ [onnasu<sup>~</sup>] ‘同じ’  
 [ŋ]: /genki/ [geŋkɪ] ‘元気’ /sangacu/ [saŋɟazu<sup>~</sup>] ‘3月’

## 2.2 音節構造とモーラ

福島方言の音節の構造は、次のとおりである。O は開始部 (onset)、G はわたり音 (glide)、N は中核 (nucleus)、Co は末尾 (coda) を表す。Co に現れうる子音は /N/ と無声阻害音である。G の位置に /w/ があ場合、O の位置は空になる。

(14) (O)(G)N(Co)

表 5. 音節構造

O	G	N	Co
p, t, k, b, d, g	w, j	i, e, a, o, u	p, t, k, s, c, N
m, n		ii, ee, aa, oo, uu	
s, z, c, h, r		ae, oe, ue	

それぞれの音節構造の例は以下のとおりである。該当する音節を下線で示す。ピリオド ( . ) は音節境界を表す。

- (15) N: e ‘胃’ GN: ja ‘矢’; wa ‘輪’ ON: ka ‘蚊’ OGN: kjoo ‘今日’  
 NCo: un ‘運’, ap.po ‘うんこ’ GNC: wav ‘腕’, joc.cu ‘4つ’  
 ONCo: kin ‘金’, bap.pa ‘ばあさん’  
 OGNC: sjon.be ‘小便’, sjak.ku.ri ‘しゃっくり’

n.ma ‘馬’, n.da ‘そうだ’ などの語については、Co の /N/ だけからなる音節を認めうる。ただし、そのような例はごく一部の語にかぎられる。

G をのぞくと、ひとつの音節内に子音連続が生じることはない。音節をまたいで子音連続が生じる場合も、(15) の bap.pa のように同一子音の連続か、sjon.be のように前部要素に /N/ が立つものにかぎられる。

なお、この方言の韻律単位として、音節のほかにモーラがある。長母音および Co をふくまない音節は 1 モーラ、それらをふくむ音節は 2 モーラと解釈される。この点は、東北部の方言と異なり、標準語と共通している。

1 モーラから成る名詞は、助詞がつく場合は 1 モーラのままだが、無助詞の場合には、短母音が長母音化して 2 モーラ分の長さになる (助詞については 3.4 参照)。

- (16) a. *Te=de sawar-u* b. *Tee cjakko-e*  
 hand=INST touch-NPST hand small-NPST  
 ‘手で触る’ ‘手が小さい’

## 2.3 アクセント

福島方言では単語に固定のアクセント型はない。いわゆる無型アクセント方言である。

### 3. 名詞の形態論

#### 3.1 名詞の内部構造

##### 3.1.1 単数と複数

単数と複数は原則として区別しない。ただし、人称代名詞には単数と複数の区別があり、複数の場合には義務的に接尾辞 $-ra$ がつく(3.2.1 参照)。代名詞以外の人を表す名詞にも接尾辞 $-ra$ がつきうるが、義務的なものではなく、 $-ra$ がなくても複数を表せる。

- (17) a. *Asuku=sa onago eru.*  
           there=LOC woman be.NPST  
           ‘あそこに女がいる。(女は単数でも複数でもよい)’
- b. *Asuku=sa onago-ra eru.*  
           there=LOC woman-PL be.NPST  
           ‘あそこに女たちがいる。(女は複数)’

$-ra$  は人称代名詞と人を表す普通名詞につき、植物、無生物を表す語にはつかない

( $*ki-ra$  ‘木たち’,  $*esu-ra$  ‘石たち’)。 $-ra$  は純粹複数と近似複数の両方を表す。例えば、(17b) の *onago-ra* は女性だけのグループを指す場合もあれば、女性を含むグループ(女性とその子どもたちなど)を指す場合もある。純粹複数だけを表す形式はない。

##### 3.1.2 接辞

名詞につく接頭辞には、小さいことを表す  $ko-$  (例: *ko-esu* ‘小石’)、程度や量が大きいことを表す  $oo-$  (例: *oo-sawagi* ‘大騒ぎ’)、敬意や愛着を表す  $o-$  (例: *o-tera* ‘お寺’) などがある。

名詞につく接尾辞には、先に述べた複数を表す接辞 $-ra$ のほか、人を表す語について強い尊敬を表す $-sama$  (例: *esja-sama* ‘医者さま’)、軽い尊敬を表す $-san$  (例: *Kanno-san* ‘菅野さん’)、親愛を表す $-cjan$  (例: *Mijo-cjan* ‘みよちゃん’)、「～の家」を表す $-e$  (例: *Mijo-cjan-e* ‘みよちゃんの家’) などがある。東北北部の方言のように生産的ではなく、限られた語にしかつかないが、指小辞の $-ko$ もある (例: *jaro-ko* ‘少年(男-DIM)’)。

### 3.2 代名詞の構造と体系

#### 3.2.1 人称代名詞の体系

人称代名詞として、以下の表に挙げる語彙が使われる。標準語と異なり、話し手の性別で1人称代名詞が使い分けられることはなく、男女ともに *ore* ないし *ora* を用いる。2人称については、*anta*, *omee*, *nisja* の順にぞんざいな表現になる。3人称の代名詞はなく、代わりに指示代名詞をふくむ表現が使われる。*ano hito* は *ano* ‘あの (DIST.ADNZ)’ と *hito* ‘人’ の複合した表現であり、*aecu* は人以外の物をも指す代名詞である(3.2.2 参照)。3人称の人物が近くにいる場合は、*kono hito*, *koecu*, *sono hito*, *soecu*, *hono hito*, *hoecu* などとも言う。

表 6. 人称代名詞の体系

	単数	複数
1 人称	<i>ore, ora</i>	<i>ore-ra, ora-ra</i>
2 人称	<i>anta, omee, nisja</i>	<i>anta-ra, omee-ra, nisja-ra</i>
(3 人称)	<i>ano hito, aecu</i> など	<i>ano hito-ra, aecu-ra</i> など

### 3.2.2 指示代名詞（指示詞）の体系

福島方言の指示代名詞（指示詞）の体系を以下にあげる。なお、*ko-*, *so- ~ ho-*, *a-*, *do-* は代名詞だけでなく連体詞、副詞の語根としても使われる。下の表にはそれを含めている。

表 7. 指示代名詞（指示詞）の体系

	近称 <i>ko-</i>	中称 <i>so- ~ ho-</i>	遠称 <i>a-</i>	不定称 <i>do-</i>
場所	<i>ko-ko</i>	<i>so-ko ~ ho-ko</i>	<i>aso-ko</i> <sup>1)</sup>	<i>do-ko</i>
方向	<i>koc-cu</i>	<i>soc-cu ~ hoc-cu</i>	<i>ac-cu</i>	<i>doc-cu</i>
物	<i>ko-re</i>	<i>so-re ~ ho-re</i>	<i>a-re</i>	<i>do-re</i>
物・人	<i>ko-ecu</i>	<i>so-ecu ~ ho-ecu</i>	<i>a-ecu</i>	<i>do-ecu</i>
連体・指示（～の）	<i>ko-no</i>	<i>so-no ~ ho-no</i>	<i>a-no</i>	<i>do-no</i>
連体・様態（～のような）	<i>ko-ta</i>	<i>so-ta ~ ho-ta</i>	<i>a-ta</i>	<i>do-ta</i>
連用	<i>ko-o</i>	<i>so-o ~ ho-o</i>	<i>a-a</i>	<i>do-o</i>
連用・様態（～のように）	<i>ko-tani</i>	<i>so-tani ~ ho-tani</i>	<i>a-tani</i>	<i>do-tani</i>

注 1) *aso-ko* は *asu-ko*, *asuku* とも言う。

### 3.3 数詞の体系と構造

数詞の体系は 10 進法であり、標準語と同様の構造を持つ。数量は「数詞＋類別接尾辞」の組み合わせで示す。数詞には、和語系と漢語系の 2 系列がある。漢語系の数詞 *su* ‘4’ は、数を数えるときには用いられるが、類別接尾辞と組み合わせられることは少ない。代わりに、和語系の *jo ~ jon* が用いられる。同じく漢語系の数詞 *sucu* ‘7’ も和語系の *nana* によって代用されることがある。

類別接尾辞には、物を表す *-cu* と *-ko*、人を表す *-ri* と *-nin* などがある。*-cu* と *-ri* は和語系数数詞に接続し、*-ko* と *-nin* は漢語系数数詞に接続する。この他の類別接尾辞として、動物を表す *-hiki*、棒状のものを表す *-hon* などがある。

表 8. 「数詞＋類別接尾辞」の例

	one	two	three	four	five
<i>a. 和語系数数詞<sup>1)</sup></i>	<i>hi</i>	<i>hu</i>	<i>mi</i>	<i>jo</i>	<i>ecu</i>
個数 <i>-cu<sup>2)</sup></i>	<i>hito-cu</i>	<i>huta-cu</i>	<i>mic-cu</i>	<i>joc-cu</i>	<i>ecu-cu</i>
人数 <i>-ri<sup>3)</sup></i>	<i>hito-ri</i>	<i>huta-ri</i>	---	<i>(jotta-ri)</i>	---
<i>b 漢語系数数詞<sup>1)</sup></i>	<i>ecu</i>	<i>ni</i>	<i>san</i>	<i>su</i>	<i>go</i>
個数 <i>-ko<sup>4)</sup></i>	<i>ek-ko</i>	<i>ni-ko</i>	<i>san-ko</i>	<i>jon-ko</i>	<i>go-ko</i>
人数 <i>-nin</i>	---	---	<i>san-nin</i>	<i>jo-nin</i>	<i>go-nin</i>
	six	seven	eight	nine	ten
<i>a. 和語系数数詞<sup>1)</sup></i>	<i>mu</i>	<i>nana</i>	<i>ja</i>	<i>kokono</i>	<i>too</i>
個数 <i>-cu<sup>2)</sup></i>	<i>muc-cu</i>	<i>nana-cu</i>	<i>jac-cu</i>	<i>kokono-cu</i>	<i>too</i>
人数 <i>-ri<sup>3)</sup></i>	---	---	---	---	---
<i>b 漢語系数数詞</i>	<i>roku</i>	<i>sucu</i>	<i>hacu</i>	<i>ku, kjuu</i>	<i>zjuu</i>
個数 <i>-ko<sup>4)</sup></i>	<i>rok-ko</i>	<i>nana-ko</i>	<i>hak-ko</i>	<i>kjuu-ko</i>	<i>zjuk-ko</i>
人数 <i>-nin</i>	<i>roku-nin</i>	<i>sucu-nin</i>	<i>hacu-nin</i>	<i>ku-nin</i>	<i>zjuu-nin</i>

注 1) 1 モーラから成る数詞は、単独で使うとき、短母音が長母音化する (例: *hi* ‘1’、*huu* ‘2’、*suu* ‘4’)。2.2 節参照。

注 2) 1 モーラから成る和語系の数詞は、*-cu* がつくとき、数詞の末尾に *-c* があらわれる。ただし、*hi* ‘1’、*hu* ‘2’ は、*hito-*、*huta-* になる。

注 3) *hi* ‘1’、*hu* ‘2’、*jo* ‘4’ が、*hito-*、*huta-*、*jotta-* と形を変える。*jotta-ri* はやや古い語である。

注 4) *-ko* がつくとき、2 音節から成る数詞は 2 音節目が *-k* に変わる。ただし、*sucu* の代用として使われる和語系の *nana* ‘7’ をのぞく。

### 3.4 格の種類と機能

格は、名詞の後に助詞をつけて表される。表 9 に格助詞の形式、基本的機能、意味の一覧をあげる。ひとつの形式が複数の機能を持つ場合もある。

福島方言には、主格助詞の=*ga*、対格助詞の=*o* があるが、実際には主格、対格ともに無助詞になることが多い。特に=*o* はほとんど使用されることがない。自動詞文と他動詞文は、ほとんどの場合、動詞の形によって区別され (例 *bokkore-* ‘壊れる’/ *bokkos-* ‘壊す’) <sup>1)</sup>、自動詞文に無助詞で現れる名詞句は基本的に主格と解釈される。

- (18) *Too bokkore-ru*  
door break(intransitive)-NPST  
‘戸が壊れる。’

標準語と同様、他動詞文の主格名詞句は基本的に有生物であるため <sup>2)</sup>、有生物と無生物が他動詞文に現れた場合、有生物が主格、無生物が対格と解釈される。

- (19) *Ano jaroko too bokkosu-ta*  
 that.ADNZ boy door break(transitive)-PST  
 ‘あの少年が戸を壊した。’

動作の対象が有生物の場合、主格名詞句が無助詞のままで、対格名詞句に=*koto* がつくことによって、主格と対格が区別される。

- (20) *Ano jaroko ore=koto osu-ta*  
 that.ADNZ boy 1SG=ACC.ANIM push-NPST  
 ‘あの少年が私を押した。’

表 9. 格助詞

形式	基本的機能	意味
(= <i>ga</i> )	主格 (NOM)	主語 (あまり使われない)
(= <i>o</i> )	対格 (ACC)	目的語 (あまり使われない)
= <i>koto</i>	対格・有生物 (ACC.ANIM)	目的語 (有生物)
= <i>ni</i>	与格 (DAT)、場所格 (LOC)	受益者、被使役者、場所、方向、目的、経験者、変化の結果、時間
= <i>sa</i>	与格 (DAT)、場所格 (LOC)	受益者、被使役者、場所、方向、目的
= <i>de</i>	具格 (INST)、場所格 (LOC)	道具、材料、原因、場所、時間
= <i>kara</i>	奪格 (ABL)	出発点
= <i>made</i>	到格 (DEST)	着点
= <i>to</i>	随格 (COMIT)	共同の相手
= <i>jori</i>	比較格 (CMPR)	比較の対象
= <i>no</i>	属格 (GEN)	連体修飾
(= <i>ga</i> )	属格 (GEN)	連体修飾 (old FD)

与格、場所格では=*ni*, =*sa* が使われるが、=*ni* のほうが広い意味を持つ。=*ni* は時間も表しうるが、=*sa* は表さない。

- (21) a. *Ore ano hito={ni/ sa} kane watasu-ta*  
 1SG that.ADNZ wo/man={DAT/ DAT} money give-PST  
 ‘私はあの人に金を渡した。’  
 b. *Soko={ni/ sa} kane ar-u.*  
 there={LOC/ LOC} money exist-NPST  
 ‘そこに金がある。’  
 c. *Ore hacuzu={ni/ \*sa} ne-ru*  
 1SG eight.o'clock={LOC/ LOC} go.to.bed-NPST  
 ‘私は 8 時に寝る。’

属格は=*no* である。古い福島方言 (Old FD) では、自身や身内の人間、目下の人間の

所有を表すときにかぎって=*ga* が使われたが、現在では=*ga* は使用されない。

- (22) *Sore=wa ore={no/ ga} hon=da*  
*it=TOP 1SG={GEN/ GEN} book=COP.NPST*  
 ‘それは私の本だ。’ (=ga は old FD の例 (飯豊 1974:54))

#### 4. 動詞の形態論

##### 4.1 屈折形態論

動詞で文が終止するときの構造は表 10 のとおりである。アスペクトについては、中止形の接辞-*te* と動詞 *e*- ‘いる’ の組み合わせが不完成相(進行相と結果相の両方を含む)の意味を表す。逆使役と体験的過去は標準語にない概念である。また、福島方言には接辞による意志法の形がない。話し手の意志は助詞の=*be* によって表される(4.2.4 参照)。

表 10. 動詞の構造と屈折接辞の承接順序

	ヴォイス	アスペクト	極性	時制	ムード
				非過去- <i>(r)u</i>	
動 詞 語 幹	使役- <i>(r)ase-</i>		否定- <i>(a)ne</i>	過去- <i>ta</i>	直説法 $\emptyset$
	受動・可能- <i>(r)are-</i>	不完成- <i>te e</i>		体験的過去- <i>tatta</i>	
	逆使役- <i>(r)ar-</i>		$\emptyset$	$\emptyset$	命令法- <i>e, -ro, -o</i>
					禁止法- <i>(r)una</i>

アスペクトが完成相、極性が肯定の場合には、接辞がつかない。一方、時制については、ムードが直説法の場合、-*(r)u*, -*ta*, -*tatta* のいずれかの接辞が必ずつく。ムードが命令法ないし禁止法の場合には、極性と時制の接辞は必ずつかない。否定を表す-*(a)ne* がついた場合、-*(a)ne* より後の構造は-*e* 形容詞述語と同様になる (5.1 参照)。

動詞の種類には、子音語幹動詞、母音語幹動詞、不規則動詞の 3 種類がある。子音語幹動詞には、語幹末子音が *b* の動詞 (例: *tob-* ‘飛ぶ’)、*m* の動詞 (例: *jom-* ‘読む’)、*t* の動詞 (例: *tat-* ‘立つ’)、*n* の動詞 (例: *sun-* ‘死ぬ’)、*s* の動詞 (例: *kes-* ‘消す’)、*r* の動詞 (例: *tor-* ‘取る’)、*k* の動詞 (例: *kak-* ‘書く’)、*g* の動詞 (例: *kog-* ‘漕ぐ’)、*w* の動詞 (例: *kuw-* ‘食う’) の 9 種類がある。語幹末子音は、接辞が後接するとき、さまざまな異形態になる (10.1 参照)。

母音語幹動詞は、語幹末母音が *i* の動詞 (例: *ki-* ‘着る’)、*e* の動詞 (例: *ake-* ‘開ける’)、*u* の動詞 (例: *su-* ‘する’) の 3 種類がある。標準語の *su-* ‘する’ は語幹が *si-* になることもある不規則活用動詞だが、福島方言には/si/という結合がないため *su-* は母音語幹動詞として規則的な活用をする。不規則動詞は *ku-* ‘来る’ の 1 語である。*ku-* は、後接する接辞によって *ki-*, *ko-*, *ku-* と語幹の形が変わる<sup>3</sup>。

本稿で挙げる接辞のうち、-*(a)ne* のように、( )の中に母音が示されているものは、子音動詞語幹につくとき、その母音が現れることを示す。-*(r)ase* のように( )の中に子音が

示されているものは、母音動詞語幹および不規則動詞語幹につくときに、その子音が現れることを示す。この方言では、( )の中の母音ないし子音が現れることで、どのような動詞語幹に接続しても、原則として「子音-母音」の音節構造が崩れないようになっている。

以下に屈折パラダイムを挙げる。この表の語形は、10 節に示す音韻プロセスを経た後の表層形を示すので、基底として想定される形とは異なっている。

表 11. 動詞の屈折パラダイム

				子音語幹	母音語幹		不規則
				<i>kak-</i> ‘書く’	<i>ake-</i> ‘開ける’	<i>su-</i> ‘する’	<i>ki-, ko-, ku-</i> ‘来る’
文 終 止	断 定	非 過 去	肯定	<i>kak-u</i>	<i>ake-ru</i>	<i>su-ru</i>	<i>ku-ru</i>
			否定	<i>kak-ane-e</i>	<i>ake-ne-e</i>	<i>su-ne-e</i>	<i>ko-ne-e</i>
		過 去	肯定	<i>kae-ta</i>	<i>ake-ta</i>	<i>su-ta</i>	<i>ki-ta</i>
			否定	<i>kak-ane-katta</i>	<i>ake-ne-katta</i>	<i>su-ne-katta</i>	<i>ko-ne-katta</i>
		体 験 的 過 去 <sup>2)</sup>	肯定	<i>kae-tatta</i>	<i>ake-tatta</i>	<i>su-tatta</i>	<i>ki-tatta</i>
	命令			<i>kak-e</i>	<i>ake-ro</i>	<i>su-ro</i>	<i>ko-o</i>
	禁止			<i>kak-una</i>	<i>ake-nna</i>	<i>su-nna</i>	<i>ku-nna</i>
接 続 二	中止 1			<i>kak-i</i>	<i>ake</i>	<i>su</i>	<i>ki</i>
	中止 2			<i>kae-te</i>	<i>ake-te</i>	<i>su-te</i>	<i>ki-te</i>
	仮定 1			<i>kak-eba</i>	<i>ake-reba</i>	<i>su-reba</i>	<i>ku-reba</i>
	仮定 2			<i>kae-tara</i>	<i>ake-tara</i>	<i>su-tara</i>	<i>ki-tara</i>
	逆接仮定			<i>kae-tatte</i>	<i>ake-tatte</i>	<i>su-tatte</i>	<i>ki-tatte</i>
	継起			<i>kae-takke</i>	<i>ake-takke</i>	<i>su-takke</i>	<i>ki-takke</i>

注 1) 連体修飾の形は文終止の形と同じ形になる。

注 2) 体験的過去は否定の場合には使われにくい (4.2.3 節および 9.3 節参照)。

接続の形のうち、中止 1 はいわゆる連用形で、*-nagara* (同時)、*-sa* (目的) などの助詞を伴って主文に続く。中止 2 はいわゆるテ形である。仮定を表す接辞には *-(r)eba*, *-tara* の 2 つがある。このほか、仮定を表す表現として、9.2 節に示す助詞 *=to*, *=kotta ~ koccja* がある。

連体法には断定と同じ形を用いる。動詞句が名詞句を修飾する場合、その名詞句の前の位置に断定の形で動詞句が現れる。

- (23) a. *Taroo tegami kae-ta.*      b. *Taroo kae-ta tegami.*  
          *Tarō letter write-PST*      *Tarō write-PST letter*  
          ‘太郎が手紙を書いた。’      ‘太郎が書いた手紙。’

## 4.2 派生形態論

### 4.2.1 ヴォイス

使役は接辞-(*r*)*ase*、受動と可能は接辞-(*r*)*are*、逆使役は (*r*)*ar* をつけて表す。これらの接辞の屈折のタイプは動詞と同じである。以下に屈折形態をあげる。表層形と基底形が違う形の場合、音韻プロセス (10.1 節参照) を経る前の基底形を// //の中に入れて示す。

表 12. ヴォイス接辞

	動詞語幹	直説法	否定	過去	中止
使役	<i>kak</i> -‘書く’	<i>kak-ase-ru</i>	<i>kak-ase-ne-e</i>	<i>kak-ase-ta</i>	<i>kak-ase-te</i>
-( <i>r</i> ) <i>ase</i>	<i>ake</i> -‘開ける’	<i>ake-rase-ru</i>	<i>ake-rase-ne-e</i>	<i>ake-rase-ta</i>	<i>ake-rase-te</i>
	<i>su</i> -‘する’ <sup>3)</sup>	<i>su-rase-ru</i>	<i>su-rase-ne-e</i>	<i>su-rase-ta</i>	<i>su-rase-te</i>
	<i>ko</i> -‘来る’	<i>ko-rase-ru</i>	<i>ko-rase-ne-e</i>	<i>ko-rase-ta</i>	<i>ko-rase-te</i>
受身・可能	<i>kak</i> -‘書く’	<i>kak-are-ru</i>	<i>kak-annjee</i>	<i>kak-accja</i>	<i>kak-accje</i>
-( <i>r</i> ) <i>are</i> <sup>1)</sup>			// <i>kak-are-ne-e</i> //	// <i>kak-are-ta</i> //	// <i>kak-are-te</i> //
	<i>ake</i> -‘開ける’	<i>ake-rare-ru</i>	<i>ake-rannjee</i>	<i>ake-raccja</i>	<i>ake-raccje</i>
			// <i>ake-rare-ne-e</i> //	// <i>ake-rare-ta</i> //	// <i>ake-rare-te</i> //
	<i>su</i> ‘する’	<i>su-rare-ru</i>	<i>su-rannjee</i>	<i>su-raccja</i>	<i>su-raccje</i>
逆使役			// <i>su-rare-ne-e</i> //	// <i>su-rare-ta</i> //	// <i>su-rare-te</i> //
	<i>ko</i> -‘来る’	<i>ko-rare-ru</i>	<i>ko-rannjee</i>	<i>ko-raccja</i>	<i>ko-raccje</i>
			// <i>ko-rare-ne-e</i> //	// <i>ko-rare-ta</i> //	// <i>ko-rare-te</i> //
-( <i>r</i> ) <i>ar</i> <sup>2)</sup>	<i>kak</i> -‘書く’	<i>kak-ar-u</i>	<i>kak-annee</i>	<i>kak-atta</i>	<i>kak-atte</i>
			// <i>kak-ar-ane-e</i> //	// <i>kak-ar-ta</i> //	// <i>kak-ar-te</i> //
	<i>ake</i> -‘開ける’	—	—	—	<i>ake-ratte</i>
					// <i>ake-rar-te</i> //
	<i>su</i> ‘する’	—	—	—	<i>su-ratte</i>
					// <i>su-rar-te</i> //
	<i>ko</i> -‘来る’	—	—	—	—

注 1) このほか、可能だけを表す標準語の接辞-*e* (例: *kak-e-ru*) が広まっており、高年層話者であっても-*are* と-*e* を併用することがある。ただし、-*e* は子音語幹動詞にかぎって使われ、母音語幹動詞では基本的に-*are* のみが使われる。

注 2) -(*r*)*ar* は、*kak*-‘書く’ など特定の動詞をのぞいて、中止形でのみ使われる。また、自動詞の *ku*-‘来る’ は逆使役の形を持たない。

注 3) *su*-‘する’ の使役形は *su-rase*- という旧来の形に代わって標準語の *s-ase*- という不規則な形が高年層話者の間でも広まっている。一方、受身・可能形では旧来の方言形が使われやすい。

自動詞文をもとにした使役文では、その自動詞文の主語が対格になる。対格名詞句が

無生物の場合は無助詞のままだが、有生物は =*koto* でマークされる (24) (25)。他動詞文をもとにした使役文では、その他動詞文の主語が与格の =*ni* ないし =*sa* でマークされる (26)。

- (24) a. *Mizu koot-ta.*  
water freeze-PST.  
‘水が凍った。’  
b. *Ore mizu koor-ase-ta.*  
1SG water freeze-CAUS-PST  
‘私は水を凍らせた。’
- (25) a. *Hanako suwat-ta.*  
Hanako sit-PST.  
‘花子が座った。’  
b. *Sensee Hanako=koto suwar-ase-ta.*  
teacher Hanako=ACC.ANIM sit-CAUS-PST.  
‘先生が花子を座らせた。’
- (26) a. *Mago mizu non-da.*  
grandchild water drink-PST.  
‘孫が水を飲んだ。’  
b. *Ore mago={ni / sa} mizu nom-ase-ta.*  
1SG grandchild={DAT/ DAT} water drink-CAUS-PST.  
‘私は孫に水を飲ませた。’

受動文と逆使役文では、動作主以外の名詞句 (典型的には動作の対象) が主格になる。受動文の場合、動作主を =*ni* で表しうるが、逆使役文の場合、動作主は明示できない。受動文は、主格名詞句が「被害」を受けたことを含意しやすいが、逆使役文は「被害」の意味を含まない。逆使役文の主語は無生物に限定されており、不完成相の -*te e*- ‘ていゝる’ の形で無生物に生じた結果状態を表すことが多い。逆使役の接辞 -(*a*)*r* に相当する接辞は標準語には存在しない。

- (27) a. *Hanako ore=koto osu-ta.*  
Hanako 1SG=ACC.ANIM push-PST  
‘花子が私を押した。’  
b. *Ore Hanako=ni os-accja.*  
1SG Hanako=DAT push-PASS.PST  
‘私は花子に押された。’
- (28) a. *Dareka kokuban=sa zuu kae-ta.*  
someone blackbord=LOC letter write-PST  
‘誰かが黒板に字を書いた。’  
b. *Kokuban=sa zuu kak-atte-ru.*  
blackbord=LOC letter write-ACAUS.GER.be-NPST  
‘字が黒板に書かれている。’

なお、近隣の山形方言の接辞 -(*a*)*r* は、逆使役のほか、自発 (意志的でない動作の表示) の意味、および可能の意味を持つが、福島方言の -(*a*)*r* は基本的に逆使役でのみ使われる。

ただし、*kak-* ‘書く’ など特定の動詞の場合にかぎり、物の性質として可能の意味を表すことがある（白岩 2012）。

(29) [写真を撮られるときに無意識に動いてしまった]

a. *Ugok-ata.*

move-ACAUS.PST (山形方言、渋谷 2006:50)

b. *\*Egok-atta.*

move-ACAUS.PST (福島方言)

‘動いてしまった。(動くつもりはなかったのに)’

(30) [医者に止められて酒を飲むことができない]

a. *Nom-ar-ane.*

drink-ACAUS-NEG.NPST (山形方言、渋谷 2006:52)

b. *\*Nom-anne.*

drink-ACAUS-NEG.PST (福島方言)

‘飲めない。’

(31) [すらすらと書けるペンについて]

a. *Kak-ar-u.*

write-ACAUS-NPST (山形方言、渋谷 2006:50)

b. *Kak-ar-u.*

write-ACAUS-NPST (福島方言)

‘書ける。’

可能を表す接辞は-(r)are で、能力可能と状況可能は形式で区別されない。

(32) *Ore kono zuu jom-anni-i.*

1SG this.ADNZ letter read-POT.NEG-NPST

‘私はこの字が読めない。’

授受表現については、動詞 *kure-* ‘くれる’ が遠心的方向でも使われるという点をのぞき、標準語と同様の表現が使われる。

#### 4.2.2 アスペクト

アスペクトについての特徴は標準語と同様である。完成相の場合には何も接辞がつかない。不完成相（進行相と結果相の両方をふくむ）は、接辞-*te* と存在動詞 *e-* ‘いる’ の組み合わせが表す。このとき、-*te* と *e-* の母音は融合することが多い。しかし、-*te* と *e-* の間に焦点助詞（8 節参照）が現れ、融合しないこともある。

(33) a. *kae-te-ru* (/k<sup>h</sup>ak-te e-ru/) b. *kae-te=wa e-ru*

write-GER.be-NPST

write-GER.TOP be-NPST

表 13. アスペクト表現

	動詞語幹	直説法	否定	過去
不完成相 -te e	kak- ‘書く’	kae-te-ru	kae-te-ne-e	kae-t-ta //kae-te e-ta//
	ake- ‘開ける’	ake-te-ru	ake-te-ne-e	ake-t-ta //ake-te e-ta//
	su- ‘する’	su-te-ru	su-te-ne-e	su-t-ta //su-te e-ta//
	ki- ‘来る’	ki-te-ru	ki-te-ne-e	ki-t-ta //ki-te e-ta//

行為 (activity) や完成 (accomplishment) のアスペクト的意味を持つ動詞句が不完成相の形をとると、進行の意味を表しやすい (34) (35)。達成 (achievement) のアスペクト的意味を持つ動詞句が不完成相の形をとると、結果状態の意味を表しやすい (36)。ただし、瞬間的でない変化の場合、進行と結果の両方の意味を表しうる (37)。

- (34) *utat-te-ru* ‘歌っている’ 行為動詞：進行の意味  
 (35) *tegami kae-te-ru* ‘手紙を書いている’ 完成動詞：進行の意味  
 (36) *mise sumat-te-ru* ‘店が閉まっている’ 達成動詞 (瞬間的)：結果の意味  
 (37) *koori toke-te-ru* ‘氷が溶けている’ 達成動詞 (非瞬間的)：両義的

#### 4. 2. 3 テンス

非過去 (現在と未来の両方をふくむ) の場合には接辞-(r)u がつく。過去の場合には、接辞-ta がつく。ただし、直接目撃した出来事や自分の行動については、-ta のかわりに -tatta が使われることがある。直接の証拠があるときに使われるので、本稿では -tatta の意味を体験的過去と呼ぶ。なお、動詞以外の場合には、-tatta の代わりに終助詞=kke が体験的過去を表すことが多い (9.3 参照)。

- (38) *Asuta ore e=sa e-ru.*  
 tomorrow 1SG home=LOC be-NPST  
 ‘明日、私は家にいる。’
- (39) a. *Mukasu kono enu orae=sa e-{ta/ tatta}.*  
 once this.ADNZ dog my.home=LOC be-{PST/ DIREV.PST}  
 ‘昔、この犬は私の家にいた。(私は一緒に住んでいた)’
- b. *Kinjo omee doko=sa e-{ta/ \*tatta}?*  
 yesterday 2SG where=LOC be-{PST/ \*DIREV.PST}  
 ‘昨日、お前はどこにいた? (私はお前を見なかった)’

現在のことについては、基本的に非過去の-(r)u が使われるが、動詞 e- ‘いる’ について一時的な状態を表すときにかぎり、-ta が使われることもある。これは、標準語の-ta にはない特徴である。恒常的な事態を表すときには-(r)u だけが使われる。

- (40) a. *Zusama ema e=sa e-{k/ ta}=ka=e?*  
 grandfather now home=LOC be-{NPST/ PST}=Q=POL  
 ‘おじいさんは今家にいますか?’
- b. *Zusama saekin ecumo e=sa e-{k/ \*ta}=ka=e?*

grandfather these.days always home=LOC be-{NPST/ \*PST}=Q=POL

‘おじいさんは最近いつも家にいますか?’

また、標準語と同様、新しい情報に気づいたことを *-ta* が表すことがある。

(41) [畑にいたと思ったおじいさんが台所にいる]

*Oo zusama kamaja=sa e-ta.*

oh grandfather kitchen=LOC be-PST

‘おお、おじいさんが台所にいた。(畑にいたと思っていた)’

*-ta* が場合によって現在時制でも使えるのに対し、*-tatta* は常に過去の場合にしか使えない。

#### 4.2.4 ムード

推量および意志は助詞の *=be* が表す。*=be* は述語の断定の形に後接する<sup>4</sup>。*=be* の意味は文脈に依存して解釈されるが、基本的に、未来の意志的な動作を表す 1 人称主語の文では意志の意味、それ以外のときは推量の意味になる。古い福島方言には否定と推量・意志を複合的に表す形式として *=mee* があったが、現在ではあまり使われない。

(42) a. *Dore ore tecudaa=be.*

now(interjection) 1SG help.NPST=INTL

‘どれ、私が手伝おう。’

b. *Aecu=wa hacuzu-kurae=ni ne-ta=be.*

3SG=TOP eight.o'clock-about=LOC go.to.bed-PST=INFL

‘彼は八時くらいに寝ただろう。’

(43) *Asuta ame {hun-ne-e=be (present FD)/ hu-N=mee (old FD)}.*

tomorrow rain {fall-NRG-NPST=INFL/ fall-NPST=NEG.INFL

‘明日雨は降らないだろう。’ (old FD の例は飯豊 1974:48 より)

このほか、伝聞を表す *=suke ~ cuke*、可能性を表す複合的表現 *=ka=mo sunnje-* がある。様態を表す *=mitee* が話し手の演繹的な (deductive な) 判断を表すこともある。願望は接辞 *-(i)ta ~ (i)te* (両者は自由変異) で表す。

(44) *Ume-cjan sanz=ni ku-ru=suke.*

Ume-HCR three.o'clock=LOC come-NPST=RPRT.

‘梅ちゃんは 3 時に来るそうだ。’

(45) *Sorosoro hana sak-u=ka=mo sun-nje-e.*

soon flower bloom-NPST=Q=ADD be.known-NEG-NPST.

‘そろそろ花が咲くかもしれない。’

(46) *Ume-cjan e=sa er-u=mitee=da.*

Ume-HCR home=LOC be-NPST=APP=COP.NPST

‘梅ちゃんは家にいるみたいだ。(姿は見えないが明かりがついている)’

(47) *Sake nom-ite-e.*

sake (Japanese drink) drink-DES-NPST

‘酒が飲みたい。’

## 4.2.5 待遇

古い福島方言には尊敬を表す接辞 $-(r)ar$ があったが（飯豊 1974:50）、現在では使われない。現在の福島方言では、聞き手への丁寧さを表す終助詞 $=e$ （9.3 節参照）以外に待遇に関する形式はない。

ただし、命令表現に関しては、聞き手への丁寧さを表す表現として、表 11 に挙げた $-e \sim -ro \sim -o$ の代わりに $-(r)ansho$ ,  $-(a)sse$ が使われる。

- (48) *Ocja*      *nom-{ansjo/asse}*.  
       *tea*        *drink-{IMP.POL/IMP.POL}*  
       ‘お茶をお飲みください。’

## 4.2.6 存在動詞

$e$ -が有生物の存在を、 $ar$ -が無生物の存在を表す。 $ar$ -には接辞 $-ne$ がつかない。 $ar$ -の否定には形容詞の $ne$ -が使われる（自由変異として $na$ -が使われることもあるが、 $na$ -は標準語的である）。

表 14. 存在動詞の屈折パラダイム

	肯定			否定		命令	禁止
	非過去	過去	体験的過去	非過去	過去		
人の存在 $e$ -	<i>e-ru</i>	<i>e-ta</i>	<i>e-tatta</i>	<i>e-ne-e</i>	<i>e-ne-kat-ta</i>	<i>e-ro</i>	<i>e-nna</i>
物の存在 $ar$ -	<i>ar-u</i>	<i>at-ta</i>	<i>at-tatta</i>	<i>(ne-e)</i>	<i>(ne-kat-ta)</i>	なし	なし

## 5. 形容詞・コピュラ形態論

## 5.1 基本構造

動詞以外の文終止には、 $-e$  形容詞、 $-na$  形容詞、名詞による文終止がある。 $-e$  形容詞、 $-na$  形容詞は連体修飾でそれぞれ $-e$ 、 $-na$ の形をとるもので、屈折の形が異なる。

$-e$  形容詞は $e$ - ‘よい’、 $aka$ - ‘赤い’、 $hido$ - ‘ひどい’、 $waru$ - ‘悪い’ のように語幹末が母音になる。一部の形容詞では、語幹末母音の $a$ ,  $o$ ,  $u$  が、自由変異として、それぞれ $e$ ,  $e$ ,  $i$  になることがある（例： $aka \sim ake$ -,  $hido \sim hide$ ,  $waru \sim wari$ -）<sup>5</sup>。ただし、非過去の接辞 $-e$ の表層形が変わる点（10.2 節参照）をのぞき、どの語幹でも活用の形は共通である。

非過去肯定の形は 10.2 節の音韻プロセスで表層形が変わることがある（例： $akae \rightarrow akee \rightarrow ake$ ）。逆接仮定の場合は連用接辞 $-ku$  がついたうえで、過去、仮定の場合には動詞化接辞 $-kar$  がついたうえで、それぞれの接辞がその後につく。 $-kar$ は、語源的に連用接辞 $-ku$  と存在動詞  $ar$ - ‘ある’ が融合してできた接辞であり、後につく接辞に応じて異形態をとる。否定は、連用接辞 $-ku$  と形容詞  $ne$ - ‘ない’ の組み合わせで表す（ $-ku$  と  $ne$ -の間には、焦点助詞 $=wa$ ,  $=mo$  などが現れうるので、語境界があると見なされる）。

表 15. *-e* 形容詞の屈折形式

			<i>aka-</i> ‘赤い’	<i>waru-</i> ‘悪い’	<i>wari-</i> ‘悪い’
文終止 (断定)	非過去	肯定	<i>aka-e</i>	<i>waru-e</i>	<i>wari-i</i>
		否定	<i>aka-ku ne-e</i>	<i>waru-ku ne-e</i>	<i>wari-ku ne-e</i>
	過去	肯定	<i>aka-kat-ta</i>	<i>waru-kat-ta</i>	<i>wari-kat-ta</i>
		否定	<i>aka-ku ne-kat-ta</i>	<i>waru-ku ne-kat-ta</i>	<i>wari-ku ne-kat-ta</i>
接続 <sup>1)</sup>	中止 1		<i>aka-ku</i>	<i>waru-ku</i>	<i>wari-ku</i>
	中止 2		<i>aka-ku-te</i>	<i>waru-ku-te</i>	<i>wari-ku-te</i>
	仮定 1		<i>aka-ker-eba</i>	<i>waru-ker-eba</i>	<i>wari-ker-eba</i>
	仮定 2		<i>aka-kat-tara</i>	<i>waru-kat-tara</i>	<i>wari-kat-tara</i>
	逆接仮定		<i>aka-ku-tatte</i>	<i>waru-ku-tatte</i>	<i>wari-ku-tatte</i>

注 1) 連体修飾の形は文終止断定の形と同じ形になる。

*-na* 形容詞、および名詞ではコピュラ=*da* が使われる。活用の形はほぼ同じだが、非過去肯定で連体修飾をするときの形が異なる。

表 16. *-na* 形容詞および名詞の屈折形式

			<i>-na</i> 形容詞＋コピュラ	名詞＋コピュラ
			<i>suzuka</i> ‘静か (だ)’	<i>sensee</i> ‘先生 (だ)’
文終止 (断定)	非過去	肯定	<i>suzuka=da</i>	<i>sensee=da</i>
		否定	<i>suzuka=de ne</i>	<i>sensee=de ne</i>
	過去	肯定	<i>suzuka=dat-ta</i>	<i>sensee=dat-ta</i>
		否定	<i>suzuka=de ne-kat-ta</i>	<i>sensee=de ne-kat-ta</i>
接続	連体・非過去肯定 <sup>1)</sup>		<i>suzuka=na</i>	<i>sensee=no</i>
	中止		<i>suzuka=de</i>	<i>sensee=de</i>
	仮定		<i>suzuka=dara</i>	<i>sensee=dara</i>
	逆接仮定		<i>suzuka=datte</i>	<i>sensee=datte</i>

注 1) 非過去肯定以外の連体修飾の形は文終止断定の形と同じ形である。

## 5.2 品詞上の位置づけ

*-e* 形容詞は、屈折する点で動詞に近いが、屈折のパラダイムが動詞と異なっている。また、ヴォイスの派生接辞を接続させない、命令法、禁止法を持たないなどの点で動詞と異なる。したがって、名詞や動詞とは異なる品詞として位置づける。

*-na* 形容詞は形態論的に名詞に近いが、連体非過去肯定のときコピュラが*-na* という形をとる点で名詞と異なる。また、*-na* 形容詞は*-e* 形容詞と同じく物の状態を表すことが多いのに対し、名詞は事物の名前を表すことが多い。そのため、互いを別の品詞と見なす。

なお、標準語と異なり、一部の形容詞・名詞は中止の形と *e-* ‘いる’ の組み合わせにより一時的な状態を表すことがある。これは動詞の不完成相に相当する形だが、動詞の場合と異なり、中止の接辞-*te* ないし=*de* と *e-* が融合することはない(4.2.2節および10.1.2節参照)。

- (49) *Aecu kjoo=wa otonasu-ku-te e-ru.*  
 3SG today=TOP gentle-ADV-GER be-NPST  
 ‘彼が今日はおとなしい。(いつもはおとなしくないのに)’

### 5.3 拡張コピュラ構文(ノダ文)

標準語と同様、動詞、形容詞、コピュラ動詞の後に準体助詞=*no* ~ *N* が続く「拡張コピュラ構文」がある。*N* は後にコピュラ=*da* がつく場合、*no* はそれ以外の場合の形である。方言によっては、=*no* ~ *N* を使わず、コピュラだけで拡張構文を作る場合もあるが、福島方言では=*no* ~ *N* が拡張コピュラ構文に必須の要素である。

拡張コピュラ構文には、否定や疑問の対象となる部分を広げる機能がある。例えば、(50a) では、*naeta* ‘泣いた’ を否定するのではなく、*kanasukatta=kara naeta* ‘悲しかったから泣いた’ という部分全体を否定するために拡張コピュラ構文が使われている。また、(50b) のように、前後の文脈で述べたことの理由を説明する態度を表すこともある。

- (50) a. *Kanasu-kat-ta=kara nae-ta=N=de ne-e.*  
 sad-VBLZ-PST=CSL cry-PST=NMNL=COP.GER not.exist-NPST.  
 ‘悲しかったから泣いたのではない。(嬉しかったから泣いた)’  
 b. *Ore ema e=sa e-ru.*  
 1SG now home=LOC be-NPST  
*Kjoo jasumi=na=N=da*  
 today holiday=COP.ADN=NMNL=COP.NPST  
 ‘私は今家にいる。今日は休みなんだ。(それが家にいる理由である)’

### 5.4 丁寧

丁寧表現については、動詞の場合と同様に終助詞の=*e* を使う(9.3 参照)。

## 6. 連体詞、副詞、感動詞

連体詞には、*kono, sono* ~ *hono, ano, dono* などの指示詞(表7)のほか、*taesuta* ‘たいした’ などの語がある。副詞には、*kotani, sotani* ~ *hotani, atani, dotani* などの指示詞(表7)のほか、*unto* ‘うんと’、*cutto* ‘ちよつと’ といった数量を表す語や *moo* ‘もう’、*ecumo* ‘いつも’ といった時間を表す語などがある。

## 7. 疑問詞

疑問詞の種類と意味、例文を下に挙げる。

表 17. 疑問詞の種類

<i>nani ~ nan</i>	‘何’	<i>Nani nom-u=N=da</i> <sup>1)</sup> ? ‘何を飲むんだ?’
<i>dore</i>	‘どれ’	<i>Dore nom-u=N=da</i> ? ‘どれを飲むんだ?’
<i>dare</i>	‘誰’	<i>Dare nom-u=N=da</i> ? ‘誰が飲むんだ?’
<i>doko</i>	‘どこ’	<i>Doko=de nom-u=N=da</i> ? ‘どこで飲むんだ?’
<i>ecu</i>	‘いつ’	<i>Ecu nom-u=N=da</i> ? ‘いつ飲むんだ?’
<i>nasute, nande</i>	‘なぜ’	<i>{Nasute/ Nande} nom-u=N=da</i> ? ‘なぜ飲むんだ?’
<i>doo, nazjo su-te</i> <sup>2)</sup>	‘どう’	<i>{Doo/ Nazjo su-te} nom-u=N=da</i> ? ‘どう飲むんだ?’
<i>nanbo</i>	‘いくら’	<i>Nanbo nom-u=N=da</i> ?. ‘いくら飲むんだ?’

注 1) *nom-u=N=da* ‘drink-NPST=NMLZ=COP.NPST’

注 2) *su-te* ‘do-GER’

Yes-No 疑問文では、9.3 節で挙げる終助詞=*ka* が疑問を表す。疑問文は基本的に上昇イントネーションをとる。Yes-No 疑問文では=*ka* を使わず上昇イントネーションだけで疑問の意味が表される場合もある（福島方言のイントネーション全般については白岩 2014 参照）。

## 8. 焦点助詞など

焦点助詞には、=*wa* ‘は’, =*mo* ‘も’, =*made* ‘まで’, =*dano* ‘とか’, =*demo* ‘でも’, =*see* ‘さえ’, =*take* ‘だけ’, =*suka* ‘しか’, =*kiri* ‘きり’, =*bakkari ~ bakka ~ bari* ‘ばかり’ がある。これらの焦点助詞は、名詞や活用語の連用形、格助詞の後についてその句を焦点化する。格助詞に対しては、後につくのが基本だが、前につく場合もある。

- (51) a. *Ore=mo hacuzu=ni ne-ta.*  
 1SG=ADD eight.o'clock=LOC go.to.bed-PST  
 ‘私も 8 時に寝た。’
- b. *Aecu waka-e onago{=sa=take/ =take=sa} hanasukake-ru.*  
 3SG young-NPST woman {=DAT=RST/ =RST=DAT} talk.to-NPST  
 ‘彼は若い女 {にだけ／だけに} 話しかける。’

## 9. 節末の助詞

節末の述語の後に続く助詞には、準体助詞、接続助詞、終助詞がある。準体助詞はその節を名詞化し、接続助詞は主節との関係を表し、終助詞はその発話に対する話し手の態度を表す。

### 9.1 準体助詞

準体助詞には=*no ~ N* と=*gana ~ gan* がある。拡張コピュラ構文（5.3 節参照）では=*no ~ N* だけが使われるのに対し、具体的な事物を表すときには両方の形式が使われる。

- (52) *Omee kae-ta={no/ gana} mise-ro.*

2SG write-PST={NMNL/ NMNL} show-IMP

‘お前が書いたものを見せろ。’

=ka は、その節を間接疑問文の疑問節として名詞化する。

(53) *Kinnjo aecu ki-ta=ka wakan-ne-e.*

yesterday 3SG come-PST=Q know-NEG-NPST

‘昨日彼が来たか分からない。’

## 9.2 接続助詞

接続助詞には、原因、仮定、逆接、引用を表すものがある。仮定表現については、接辞-(r)eba, -tara (表 11, 15) およびコピュラの仮定形=*dara* (表 16) のほか、助詞=*to*, =*kotta* ~ *koccja* がある。また、逆接は=*kencjomo* ~ *kento*、引用は=*tte*, =*to* で表される。接辞による表現とあわせて例を挙げる。

表 18. 接続助詞一覧

		前接語 (非過去の形)		
		動詞 ‘書く’	形容詞 ‘赤い’	コピュラ
原因 (CSL)	= <i>kara</i>	<i>kaku=kara</i>	<i>akae=kara</i>	<i>da=kara</i>
仮定 (COND)	= <i>to</i>	<i>kaku=to</i>	<i>akae=to</i>	<i>da=to</i>
	= <i>kotta</i>	<i>kaku=kotta</i>	<i>akae=kotta</i>	<i>da=kotta</i>
	= <i>koccja</i>	<i>kaku=koccja</i>	<i>akae=koccja</i>	<i>da=koccja</i>
逆接 (CONC)	= <i>kencjomo</i>	<i>kaku=kencjomo</i>	<i>akae=kencjomo</i>	<i>da=kencjomo</i>
	= <i>kento</i>	<i>kaku=kento</i>	<i>akae=kento</i>	<i>da=kentomo</i>
引用 (QUOT)	= <i>tte</i>	<i>kaku=tte</i>	<i>akae=tte</i>	<i>da=tte</i>
	= <i>to</i>	<i>kaku=to</i>	<i>akae=to</i>	<i>da=to</i>

(54) *Heja samu-kat-ta=kara mado sume-ta.*

room cold-VBLZ-PST=CSL window close-PST

‘部屋が寒かったから、窓を閉めた。’

(55) *Heja samu-kat-ta=kencjomo mado ake-ta.*

room cold-VBLZ-PST=CONC window open-PST

‘部屋が寒かったけど、窓を開けた。’

(56) {*aruk-eba/ arut-tara/ aru-ku=to/ aru-ku=kotta*}

{walk-COND/ walk-COND/ walk-NPST=COND/ walk-NPST=COND}

*nizukan kakar-u.*

two.hour take-NPST

‘歩けば、2 時間かかる。’

(57) *Ore sensee koko=sa suwar-e=tte jut-ta=to omot-ta.*

1SG teacher here=LOC sit-IMP=QUOT say-PST=QUOT think-PST

‘私は先生が「ここに座れ」と言ったと思った。’

### 9.3 終助詞

終助詞には、疑問を表す=*ka*、回想を表す=*kke*、聞き手への確認を表す=*suta*、新しい情報を得たことを示す=*wa*、聞き手に向けた発話であることを示す=*zo*, =*jo*, =*de* ~ *deba*、発話内容を確認する態度を示す=*na*、発話の丁寧さを表す=*e*、事実が期待と反することを表す=*haa* などがある。=*ka* と=*e* 以外の終助詞は、意味的なラベリングが難しいので、グロス略号を単に SFP (Sentence Final Particle) とする。

なお、=*kke* は自分の目撃したことを思い出すことを意味するが、その意味が文脈的に体験的過去の-*tatta* と似る場合がある。=*suta* は=*be=suta* の形で使われることが多い。

(58) *Asuta gakkoo=sa eg-u=ka=e?*

tommorow school=LOC go-NPST=Q=POL

‘明日学校に行きますか?’

(59) *Kono ko=wa cjakko-e toki unto menge-e=kke.*

this.ADNZ kid=TOP small-NPST time very pretty-NPST=SFP

‘この子は小さいときとてもかわいかった。(当時のことを思い出す)’

(60) *Omee jakusoku su-ta=be=suta.*

2SG promise do-PST=INFR=SFP

‘お前は約束したじゃないか。’

(61) *Kore nma-e=wa=e.*

this delicious-NPST=SFP=POL

‘これはおいしい (たった今そう気づいた)’

(62) *Kore nma-e={zo/ jo/ de}.*

this delicious-NPST={SFP/ SFP/ SFP}

‘これはおいしい {ぞ/ よ/ ってば}。’

(63) *Kore nma-e=na.*

this delicious-NPST=SFP

‘これはおいしいな。’

(64) *Kore nma-ku ne-e=haa.*

this delicious-ADV not.exist-NPST=SFP

‘これはおいしくない。(おいしいと思っていたのに)’

## 10. 形態音韻論的特徴

これまで見たように、福島方言では形態素どうしが音の融合を起こし表層形では膠着要素が見えにくくなることが多い。この節では、その音韻プロセスについて整理する。

### 10.1 動詞の屈折における音韻プロセスの特徴

#### 10.1.1 福島方言に存在しない結合の回避

##### (a) 語幹末が *t* の子音語幹動詞について

接辞がつくことで *ti* ないし *tu* という結合が生じたとき、その結合は *cu* に変わる。

ex. *tacutee* //tat-ite-e// ‘stand-DES-NPST’      *tacu* //tat-u// ‘stand-NPST’

cf. *tatanee* //tat-ane-e// ‘stand-NEG-NPST’      *tate* //tat-e// ‘stand-IMP’

##### (b) 語幹末が *s* の子音語幹動詞について

接辞がつくことで *si* という結合が生じたとき、その結合は *su* に変わる。

ex. *osutee* //os-ite-e// ‘push-DES-NPST’      cf. *osanee* //os-ane-e// ‘push-NEG-NPST’

##### (c) 語幹末が *w* の子音語幹動詞について

接辞がつくことで *wi*, *wu*, *we*, *wo* という結合が生じたとき、*w* が削除される（ただし、*awu* という音連続にかぎり、(j)の音韻プロセスが生じる）。

ex. *jue* //juw-e// ‘say-IMP’      cf. *juw-ane-e* //juw-ane-e// ‘say-NEG-NPST’

#### 10.1.2 子音語幹と頭音が *t* の接辞に関する音韻プロセス

##### (d) 動詞の子音語幹に接辞 *-te*, *-ta*, *-tatta*, *-tara*, *-takke* が接続した場合

接辞 *-te*, *-ta*, *-tatta*, *-tara*, *-takke* が動詞の子音語幹に接続した場合、語幹末子音と接辞の頭音 *t* の子音連続に、次の音韻プロセスが必ず起こる。つまり、*bt*, *mt*, *nt* という音連続は *nd* に、*rt*, *wt* という音連続は *tt* に、*st* という音連続は *sut* に、*kt* という音連続は *et* に、*gt* という音連続は *ed* に変わる。これによって、福島方言に存在しない子音連続（2.2 節参照）が回避される。

ex. *tonde* //tob-te// ‘fly-GER’      *sunde* //sun-te// ‘die-GER’

*katte* //kaw-te// ‘buy-GER’      *osute* //os-te// ‘push-GER’

*kaete* //kak-te// ‘write-GER’      *kaede* //kag-te// ‘smell-GER’

##### (e) 不完成相の *-te e* について

不完成相を表す *-te e* という表現は、*-te* と *e* の間に別の語が入らないかぎり、ほぼ必ず2つの母音 *e* が融合して *te* という音になる（4.2.2 節参照）。この音韻プロセスは上記の(d)の後に適用されるもので、(d)によって生じた *-de e* という音でも母音が融合する。ただし、動詞述語以外の場合には生じない（5.2 節参照）。

ex. *miteru* //mi-te e-ru// ‘look-GER be-NPST’      *tonderu* //tob-te e-ru// ‘fly-GER be-NPST’

(f) 不完成相の *te ~ de* // *-te e-* // の前に母音、後に *ta* が位置する場合

(e) の音韻プロセスを経た *te ~ de* // *-te e-* // の音を挟んで、前部に母音、後部に *ta* という音連続が位置する場合、*te ~ de* がほぼ必ず *t* に変わる。

ex. *mitta* // *mi-te e-ta* // ‘look-GER be-PST’

*kaettara* // *kak-te e-tara* // ‘write-GER be-COND’

### 10.1.3 r 音、w 音に関する音韻プロセス

(g) *ran* という音連続について

屈折によって *ran* という音連続が生じたとき、その音連続は *nn* に変わる。この音韻プロセスは、主に、語幹末が *r* の子音動詞語幹に否定の接辞-(*a*)*ne* がついたとき生じる。

ex. *kinnee* // *kir-ane-e* // ‘cut(transitive)-NEG-NPST’

(h) *rene*, *rine* という音連続について

屈折によって *rene* ないし *rine* という音連続が生じたとき、その音連続は *nnje ~ nni* に変わる（若い世代ほど *nni* になりやすい）。この音韻プロセスは、主に、語幹末が *re*, *ri* の母音動詞語幹ないし受身・可能の接辞-(*r*)*are* に否定の接辞-(*a*)*ne* がついたとき生じる。*nni* という音連続になった場合、(k) の音韻プロセスにより、それに続く非過去の接辞-*e* は *i* になる。

ex. *kinnje ~ kinnii* // *kire-ne-e* // ‘cut(intransitive)-NEG-NPST’

(i) *ret*, *rit* という音連続について

屈折によって *ret* ないし *rit* という音連続が生じたとき、その音連続は *ccj* に変わる。この音韻プロセスは、主に、末尾が *re*, *ri* の母音動詞語幹ないし受身・可能の接辞-(*r*)*are* に過去の-*ta*、中止の-*te* などの接辞がついたとき生じる。

ex. *kaccje* // *kari-te* // ‘borrow-GER’      *osaccja* // *os-are-ta* // ‘push-PASS-PST’

(j) *awa*, *awu* という音連続について

屈折によって *awa*, *awu* という音連続が生じたとき、その音連続は *aa* に変わる。

ex. *kamaanee* // *kamaw-ane-e* // ‘care-NEG-NPST’      *kamaa* // *kamaw-u* // ‘care-NPST’

## 10.2 形容詞の屈折における音韻プロセスの特徴

(k) 語幹末が *i* の形容詞の非過去形について

語幹末が *i* の形容詞につく非過去の接辞-*e* の音は必ず *i* に変わる。

ex. *warii* // *wari-e* // ‘wrong-NPST’

(l) *ae, oe, ue* という音連続について

形容詞語幹に非過去の接辞-*e* がついて *ae, oe, ue* という音連続が生じたとき、その音連続は、それぞれ *ee, ee, ii* になることがある。注 5 に示したとおり、この音韻プロセスと次の(m)を経た非過去肯定の形が語幹として使われることがある。

ex. *takee* //taka-e// ‘tall-NPST’      *hjakkee* //hjakko-e// ‘cold-NPST’

(m) 長母音の短母音化

屈折によって生じた長母音が短母音になることがある。この音韻プロセスは形容詞の屈折にかぎらず生じうるが、特に(k), (l)の音韻プロセスを経て生じた長母音に起こることが多い。

ex. *take* //taka-e// ‘tall-NPST’      *wari* //waru-e// ‘wrong-NPST’

cf. *kamane* //kamaw-ane-e// ‘care-NEG-NPST’ (動詞に生じた例。(j)参照)

なお、(l), (m)の音韻プロセスは起こらないこともあるため、本稿の例文では、形容詞の非過去形について、(l), (m)の音韻プロセスが起こらない形を示している。

### 10.3 助詞接続における音韻プロセスの特徴

(n) 動詞非過去形末尾の *ru* について

語幹末が *r* の子音語幹動詞、母音語幹動詞、不規則動詞の非過去肯定形は末尾の音節が *ru* である。ここに頭音が *m, n, g* の助詞がつくと、*ru* の音が *N* になる。

ex. *anna* //ar-u=na// ‘exist-NPST=SFP’      *kingana* //ki-ru=gana// ‘wear-NPST=NMNL’  
=N=da ‘=NMNL=COP.NPST’がつくと、*ru* の音が削除される。

ex. *anda* //ar-u=N=da// ‘exist-NPST=NMNL=COP.NPST’

破裂音ではじまる助詞がつくと、*ru* の音はその破裂音になり、子音連続が生じる。その破裂音が有声音の場合には、調音位置の同じ無声破裂音の子音連続として現れる<sup>6</sup>。

ex. *atto* //ar-u=to// ‘exist-NPST=COND’      *okippe* //oki-ru=be// ‘wake.up-NPST=INTL’  
*z* ではじまる助詞 (=zo) がつくと、*cc* という子音連続が生じる。

ex. *acco* //ar-u=zo// ‘exist-NPST=SFP’

以上の音韻プロセスは、助詞以外に名詞 *mono* ~ *mon* ‘もの’、*koto* ‘こと’、*toki* ‘とき’、*toko* ‘ところ’ が *ru* の音に続く場合にも生じる。禁止の接辞-(*r*)*una* にも生じる。

ex. *jat toki* //jar-u toki// ‘do-NPST time (when (someone) does)’

*jan-na* //jar-una// ‘do-PROH’

(o) 動詞非過去形末尾の *bu, mu, nu, gu* について

語幹末が *b, m, n, g* の子音語幹動詞の非過去肯定形に破裂音ではじまる助詞がつくと、その末尾の音節 *bu, mu, nu, gu* が *N* になる。助詞の頭の破裂音が有声音の場合には、その音が調音位置の同じ無声破裂音になることがある。

ex. *en-kara* //eg-u=kara// ‘go-NPST=CSL’      *asonpe* //asob-u=be// ‘play-NPST=INTL’

## 注

1. 標準語と同様、自他同形の動詞も少数ある。
2. 無生物に起因する出来事は、無生名詞句を主格以外の成分にして表す。例えば、英語の ‘The wind will brake the door.’ にあたる出来事は次のように表す。  
ex. *Kaze=de too bokkore-ru*  
wind=INST door break(intransitive)-NPST  
‘風で戸が壊れる。’
3. このほか、*eg-* ‘行く’、*aruk-* ‘歩く’、*kuw-* ‘食う’、*kure-* ‘くれる’ などの動詞でも、活用の一部に不規則な形が見られるが、おおむね子音語幹動詞、母音語幹動詞としての規則的な形をとるので、不規則動詞にふくめない。
4. 古い福島方言では、*=be* が形容詞の非過去肯定形につくとき *taka-kan=be* ‘tall-VBLZ.NPST=INFL’ (飯豊 1974: 47) のように動詞化接辞が現れることがあった。しかし、現在では単に断定の形について *taka-e=be* ‘tall-NPST=INFL’ と言う。
5. *-a*、*-o*、*-u* に対応して末尾が *-e*、*-e*、*-i* になった形容詞語幹の形は、非過去肯定の形が 10.2 節の (l), (m) に示す音韻プロセスを経たのちに、語幹になったものと考えられる。例えば、*ake-* ‘赤い’ は、*aka-* ‘赤い’ の非過去肯定の形が、*akae*→*akee*→*ake* と形を変えたのちに語幹になったものである。*ake* までのプロセスを経ずに語幹になった *akae-kat-ta*、*akae-ku* ないし *akee-kat-ta*、*akee-ku* (渡辺 1967:174) のような形もときおり聞かれる。
6. 古い福島方言では、助詞 *=be* にかざり、*oki<sub>N</sub>=be* // *oki-ru=be* // ‘wake.up-NPST=INTL’ (飯豊 1974: 47) のように *ru* の音が *N* になる例もあった。

## 参考文献

- 飯豊毅一 (1974) 『言語使用の変遷 (1) —福島県北部地域の面接調査—』 国立国語研究所
- 菅野宏 (1982) 「福島県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』 国書刊行会、pp.363-367
- 児玉卯一郎 (1935) 『福島県方言辞典』 西澤書店 (1992 年に岳陽堂書店から復刻版発行)
- 渋谷勝己 (2006) 「自発・可能」 小林隆編『シリーズ方言学 2 方言の文法』 岩波書店 pp.47-92
- 白岩広行 (2012) 「福島方言の自発表現」『阪大日本語研究』 24、pp.35-53
- 白岩広行 (2014) 「イントネーションの意味記述 —福島方言における試み—」『日本語学』 33-7、pp.53-64
- 渡辺友左 (1967) 「福島北部方言の親族語と形容詞の語彙体系」『国立国語研究所論集 3 ことばの研究』、pp.89-176

## 福島県伊達市方言基礎語彙 800 語

談話収録と並行して話者 OB に対する基礎語彙調査もおこなったので、その結果を示す。

従来の方言辞典は標準語と語形の異なる語(俚言)を中心にまとめたものが多く、「右」、「左」、「飲む」、「見る」など、基礎的な語であっても標準語と同形のものは収録されないことが多い。しかし、標準語と別の独立した体系を持つことばとして記述するためには、標準語との語形の異同に関わらず、その方言で使われる語彙を網羅的に把握する必要がある。そのような問題意識に立って、福島県伊達市方言で使われる基礎語彙の調査をおこなった。

調査にあたっては、web 上で公開されている『言語調査票 2000 年版』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所峰岸真琴氏のサイト内 [http://www.aatufs.ac.jp/~mmine/kiki\\_gen/query/aaquery-1.htm](http://www.aatufs.ac.jp/~mmine/kiki_gen/query/aaquery-1.htm)) を利用し、800 語までの基礎語彙を話者 OB から得た。この調査票は海外諸言語の記述調査を目的として作られたものだが、標準語との語形の異同に関わらず基礎的な語を収集するためには、既存の方言辞典を参考にするよりも、むしろ有用な方法であると考えた。

調査の際は、調査者(白岩=話者 OR)が標準語の単語を口頭で示し、それを話者 OB が方言語彙に翻訳する形をとった。標準語からの翻訳式だが、話者 OB には「なるべく標準語と違う語形を回答したい」という意識が強く、回答した語形が標準語形に引きずられることは少なかったように思われる。また、調査者自身が福島方言の母方言話者であるため、OB が回答に詰まる場面などでは、調査者が回答語形の候補を提示すること(いわゆる誘導)もおこなった。

一覧では、『言語調査票 2000 年版』に記載の標準日本語および英語の語\*を示したうえで、その右に対応する伊達市方言の語と補足事項を示した。伊達市方言の語の表記は本報告書収録の「福島方言簡易文法書」で示した音素目録をもとにアルファベットでおこなった。動詞および形容詞(e 形容詞)はいわゆる基本形(非過去肯定の形)で表記したが、語幹と非過去接辞(動詞なら-(r)u、形容詞なら-e)の境界をハイフンで示している。tat-‘立つ’のように語幹末が t の子音語幹動詞の場合、基本形では語幹末の t が c になるため、tac-u のように表記している。suw-‘吸う’のように語幹末が w の子音語幹動詞の場合、基本形では語幹末の w が削除されるため su-u のように表記している。また、回答語形に含まれるコピュラを=da で示している。複数の語が回答された場合には、それらの語を併記している。

\* 英語の欄のカッコ書きにある V、Vi、Vt、A、N は、それぞれ、その語が動詞、自動詞、他動詞、形容詞、名詞であることを表す。

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
1	頭	head	atama	
2	髪、髪の毛	hair	kami	atama no ke (頭の毛) とも言う
3	額	forehead	dena	
4	眉、眉毛	eyebrow	koonoke	
5	目	eye	managu	
6	涙	tear	namida	
7	耳	ear	mimi	
8	鼻	nose	hana	
9	口	mouth	kucu	
10	唇	lip	kucubiru	
11	舌	tongue	bero	
12	唾	spit	sutazu	
13	歯	tooth /teeth	ha	
14	顎	chin	ago	
15	頬	cheek	hoppe, hoppeta	
16	髭	moustache	hige	
17	顔	face	kao	
18	首	neck	kubi	
19	喉	throat	nodo	
20	肩	shoulder	kata	
21	背中	back	senaka	
22	腰	waist	kosu	
23	尻	buttock	kecu	
24	胸	chest	mune	
25	乳、乳房	breast	cucu	
26	腹	belly	hara	
27	臍	navel	heso	
28	腕	arm	ude	
29	肘	elbow	hizu	
30	手	hand	te	
31	指	finger	jubi	
32	爪 [人、動物の]	nail /fingernail /claw	cume	
33	足	leg /foot	asu	ももは momonu と言う
34	膝	knee	hizakkabu	かかとは akudo と言う
35	肝臓	liver	kanzoo	
36	心臓	heart	sunzoo	
37	腸	guts	naezoo	
38	皮膚、皮、肌	skin	hada	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
39	汗	sweat /perspiration	ase	
40	垢	filth /grime /dirt	aka	
41	膿	pus	umi	
42	毛 [人間の体毛]	hair	kecu	
43	脂、脂肪	fat /grease	abura	
44	血	blood	cu	
45	骨	bone	hone	
46	肉	flesh	niku	
47	体、肉体	body	karada	
48	病気	diseases /illness /sickness	bjooki	
49	傷、怪我	wound	kizu, kega	
50	薬	medicine	kusuri	
51	米	rice	kome	米を食用に煮たものを manma と言う
52	粉	powder /flour	kona	
53	塩	salt	suo	
54	油	oil	abura	
55	酒	liquor /wine	sake	
56	タバコ	tobacco	tabako	
57	味	taste /flavor	azu	味がよいことを nma-e、味が悪いことを nmaku ne-e と言う。塩味が強いことを sjoppa-e、酸味が強いことを suka-e, suppa-e と言う
58	匂い、香り	smell /scent /odour	nioe	
59	食べ物、食物	food	tabemono	
60	肉	meat	niku	
61	卵	egg	tamago	
62	鶏	/fowls	niwatori	単に tori と言っても鶏のことをさすことが多い
63	鳥	bird	tori	
64	翼、羽	wing	hane	
65	羽毛	feather /plume	umoo	
66	巢	nest	su	
67	嘴	beak /bill	kucuppasu	
68	角	horn	cuno	
69	牛	beef /cow /bull	beko	
70	小刀、ナイフ	knife /penknife	kogatana	
71	刀	sword	katana	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
72	刃	blade /edge	ha	
73	棒	pole /bar /stick	boo	
74	弓	bow	jumi	
75	矢	arrow	ja	
76	槍	lance /spear	jari	
77	糸	thread	kana, eto	kana は柄の悪い言い方
78	針	needle	hari	
79	着物、衣服	clothes /clothing	esjo, kimono, huku	esjo は古い言い方
80	紙	paper	kami	
81	物	thing	mono	
82	蛇	snake	hebi	
83	虫	worm /insect	musu	
84	蠅	fly	hae	
85	蚊	mosquito	ka	
86	蚤	flea	nomi	
87	虱	louse	surami	
88	蟻	ant	ari	
89	魚	fish	sakana	
90	貝	shellfish	kae	
91	動物	animal	kemono, kedamono	kedamono は柄の悪い言い方
92	猟	hunting	teppoobucu	
93	網	net	ami	
94	犬	dog	enu	猫のことは neko と言う
95	綱	rope	cuna	
96	紐	string	hibo	
97	羊	sheep	meejo	
98	馬	horse	nma	
99	豚	pig	buta	
100	尻尾、尾	tail	suripo	
101	動物の毛	fur /wool	ke	
102	毛皮	fur	kegawa	
103	袋	sack /bag	hukuro	
104	鍋	pan /pot	nabe	
105	釜	kettle	kama	
106	瓶	jar	kame	水を入れる瓶は mizugame と言う
107	壺	jar /pot	cubo	
108	屋根	roof	jane	
109	壁	wall	kabe	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
110	窓	window	mado	
111	扉、ドア	door	to	
112	家、住居	house /home	ee	口が極端に狭まって摩擦性の母音になり、音声としては[zii]のように聞こえる
113	車	vehicle /car	kuruma	
114	船、船舶	vessel /ship	hune	
115	井戸	well	edo	
116	仕事	business /job /work /task	sugoto	
117	金、金銭	money	zeni	z は口蓋化して音声としては[z]のように聞こえる
117	お釣り	change (N)	ocuri	
118	木	tree	ki	
119	幹	stem /trunk	miki	
120	枝	branch	eda	
121	草	grass	kusa	
122	茎	stalk	kuki	
123	根	root	nekkō	
124	葉	leaf	happa	
125	花	flower /blossom	hana	
126	実	fruit /nut	mi	
127	種子、種	seed	tane	
128	樹皮	bark	kawa	
128	殻	cover	kara	米の殻は nuka、精米したときに出る粉（標準語の「ぬか」）は konuka と言う。豆の殻は mamegara と言う
129	水田	rice-field	tanbo	畑は hatake と言う
130	林	grove /copse /woods	hajasu	
131	森	forest	mori	
132	道	way /road	micu, dooro	道の端を micubata と言う
133	穴	hole /pit	ana, medo	
134	橋	bridge	hasu	
135	川	river	kawa	
136	山	mountain	jama	
137	野、野原	field	nohara	
138	平野、平原	plain	無回答	平野に該当するような地形が思いつかない
139	池	pond	eke	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
140	湖	lake	mizuumi	ただし、日常生活で湖を見ることはない
141	海	sea	umi	ただし、日常生活で海を見ることはない
142	島	island	suma	
143	水	water	mizu	
144	氷	ice	koori	
145	石	stone	esu	
146	土	earth	dero	泥ではなく乾いていたり硬い土も dero と言う
147	砂	sand	sun	
148	埃	dust	hokori	
149	煙	smoke	kemu	
150	灰	ash	aku	
151	火	fire	hi	
152	風	wind	kaze	
152.1	涼風	breeze	suzusu-e kaze	「涼しい風」の意味
153	雲	cloud	kumo	
154	霧	fog	kiri, moja	
155	雨	rain	ame	
156	雪	snow	juki	
157	空	sky	sora	
158	虹	rainbow	nizu	
159	太陽	sun	otentosama	
160	月	moon	cuki	
161	影	shadow	kage	
162	星	star	hosu	
163	日	day	hi	
164	毎日	daily /everyday	maenicu	
165	週	week	sjuu	
166	月	month	cuki	
167	年、年	year	tosu	
168	朝	morning	asage	
169	昼間	afternoon	hiruma	
170	夕暮れ、夕方	evening	bankata	日が沈む前もふくめ日没の前後のことを言う
171	晩、夜	night	bange, joru	
172	昨日	yesterday	kinjo	おとといは ototoe、さきおとといは sakiototoe と言う

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
173	明日	tomorrow	asuta	あさっては asatte、あさつての翌日は janasatte と言う。さらにその翌日を sunasatte と言う人もいる。
174	今日	today	kjoo	
175	今	now	ema	
176	何時	when	ecu	
177	何時 [時間]	what time is it?	nanzu	
178	時間、時	hour /time	zukan	
179	一	one	ecu, hitocu	
180	二	two	ni, hutacu	
181	三	three	san, miccu	
182	四	four	su, joccu	
183	五	five	go, ecucu	
184	六	six	roku, muccu	
185	七	seven	sucu, nanacu	
186	八	eight	hacu, jaccu	
187	九	nine	ku, kokonocu	
188	十	ten	zjuu, too	
189	二十	twenty	nizjuu	二十歳は hatacu と言う
190	百	hundred	hjaku	
191	いくら	how much	nanbo	
192	いくつ	how many	nanbo	
193	半分	half	hanbun	
194	全部	altogether /whole	/all mina	
195	若干	some	nanboka	
196	数	number	kazu	
197	年、年齢	age	tosu	
198	回 [第一回、一回]	(first) time	kae	
199	夫	husband	ojazu, teesju	
200	妻	wife	okkaa	
201	結婚	marriage	sjuugi	丁寧に言うと gosjuugi。葬式は zaranpo と言う
202	父	father /papa	toocjan	よその家のお父さんは otoccama と言う。
203	母	mother /mama	okkajan	よその家のお母さんは okkasama と言う。
204	祖父	grandfather /grandpapa	zuccujan	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
205	祖母	grandmother /grandmama	bappajan	
206	息子	son	musuko	
207	娘	daughter	musume	
208	子 [人間の 子]、子供	child	warasuko, jaroko	warasuko は女の子を含み、 小学生くらいまでの子どもを言う。 jaroko は男の子だけを指し、20 歳くらいまでの少年を言う。
209	子 [動物の 仔]	young	kokko	kokko は古い言い回しである。 牛の子は bekoko、犬の子は koenu、 猫の子は koneko と言う。
210	孫	grandchild /grandson /granddaughter	mago	曾孫は hiko と言う
211	兄	elder brother	ancja, ancjan	昔の人は sena とも言った
212	姉	elder sister	neecjan	
213	弟	younger brother	sjate	
214	妹	younger sister	emooto	
215	兄弟	brother	kjoodae	
216	姉妹	sister	sumae	
217	家族	family	kazoku	
218	友達	friend /mate	tomodacu	
219	喧嘩	quarrel	kenka	
220	力	force /strength /power /might	cukara	
221	啞	dumb	ocu, appa	
222	聾	deaf	cunpo	
223	盲	blind	zato, mekura	
224	男	male	otoko	
225	女	female	onago	
226	人	person /man /one	hito	
227	私	I (1st per. sg)	ore	
228	あなた	you (2nd per. sg)	anta, omee, nisja	anta は目上の人や友人に対して言う。 omee は友人に対して言う。 nisja は目下の人に対して言う。
229	彼	he (3rd per. sg.)	aecu	ano hito (あの人) とも言う
230	彼女	she (3rd per. sg.)	aecu	ano hito (あの人) とも言う

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
231	私達	we (1st per. dual incl)	ora	
232	あなた達	you (2nd per. pl.)	antara, nisjara	omeera,
232	あなた達	you (2nd per. dual)	antara, nisjara	omeera,
233	彼等 (複)	they (3rd per. pl.)	aecura	ano hitora とも言う
234	彼女等 (複)	they (3rd per. pl.)	aecura	ano hitora とも言う
235	自分	oneself /self	waga	
236	他の	else /other	hokano	
237	誰	who	dare	
238	姓名の名	name /first name	namee	
239	名前、名称	name	namee	
240	字、文字	letter	zu	
241	声	voice	koe	
242	音	sound	oto	
243	言葉	language /speech	kotoba	
244	心	mind /heart	kokoro	
245	神	God	kamisama	
246	祭り	feast /festival	omacuri	
247	村	village	buraku	田舎のことを zae, zaego と 言う
248	町	town	macu	
249	これ、近称	this (one)	koecu	
250	それ、三人称 単数	it	hoecu	
251	あれ	that (one)	aecu	
252	どれ、不定称	which one	doecu	
253	何	what	nani	
254	何故	why	nasute	
255	これら	these (ones)	調査漏れ	
256	どう、どのよ うに	how	nazjo sute	「どうして」という意味。 ただし、nazjo sute が「なぜ」 の意味は表さない
257	ここ	here	koko, koccu	
258	そこ	there	soko, soccu	
259	あそこ	that place /over there	asuku, accu	
260	どこ	where /anywhere	doko	
261	こちら、こっ ち	this way	koccu	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
262	そちら、そっち	that way	hoccu	
263	あちら、あっち	away /that way	accu	
264	どちら、どっち	where	doccu	
265	所、場所	place /location	basjo	
266	左	left	hidari	
267	右	right	migi	
268	前、前方	front	mee	
269	後ろ	back	ussjo	
270	内、内部	inside /inward /interior	naka	
271	外、外部	out /outside /exterior	soto	家の外を omote という
272	間	space	aeda, aedako	
273	上	up	ue	
274	下	down	suta	
275	見る	look /see (Vt)	mi-ru	
276	見せる、示す	show (Vt)	mise-ru	
277	聞く	hear (Vt)	kik-u	
278	嗅ぐ	smell (Vt)	kam-u	kag-u ではなく kam-u という
279	呼吸する、息をする	breathe (Vi)	eki cuk-u	「息をつく」という意味
280	言う	say (Vt)	ju-u, sjaber-u	
281	呼ぶ	call (Vt)	job-u, jobar-u	
282	叫ぶ	cry /shout (Vi)	sakeb-u	deke-e koe das-u, zune-e koe das-u (大きい声を出す) とも言う。sakeb-u という語は日常ではあまり使わない
283	歌う	sing (V)	uta-u	
284	踊る	dance (Vi)	odor-u	
285	話す	talk (V)	sjabekur-u	
286	知らせる	inform /announce (Vt)	osje-ru	
287	吸う	breathe in /suck (Vt)	su-u	
288	吐く	vomit (Vt)	hak-u	
289	唾を吐く	spit (V)	sutazu das-u	「唾を出す」という意味
290	噛む、咬みつく	bite (Vt)	kam-u	
291	笑う	laugh (Vi)	wara-u	
292	泣く	weep (Vi)	nak-u	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
293	喜ぶ、嬉しい	rejoice /glad (Vi)	jorokob-u	
294	怖がる、恐れる	fear (V) /be afraid /be scared	okkanagar-u	
295	悲しむ、悲しい	grieve /sad	kanasum-u	
296	怒る	get angry (Vi)	okor-u, goseppara jake-ru	
297	驚く	be startled (Vi)	bikkuri su-ru	談話資料では tamage-ru の うがよく使われている
298	打つ	strike /beat /hit (Vt)	buc-u	
299	射る、撃つ	shoot (Vt)	buc-u	
300	撲る	thrash /strike /punch (Vt)	bunnagur-u, hatak-u, kurasuke-ru	
301	治す	heal /cure (Vt)	naos-u	
302	直す	repair /mend (Vt)	naos-u	
303	投げる、抛る	throw /cast (Vt)	nage-ru	
304	突く	thrust /dab (Vt)	cucuk-u	
305	刺す	sting /pierce (Vt)	sas-u	
306	砕く、粉碎する、粉にする	crush /shatter to pieces (Vt)	kudak-u	
307	壊れる	be broken (Vi)	bokkore-ru	
308	押す	push (Vt)	os-u	
309	引っ張る	pull (Vt)	hik-u, hippar-u	
310	持つ	have (Vt)	moc-u	
311	掴む	seize (Vt)	cukam-u	
312	触れる、触る、接触する	touch (Vt)	sawar-u	
313	擦る	rub /scrub (Vt)	kosur-u	
314	掻く、引っ掻く	scratch (Vt)	kak-u	
315	脹れる	swell (Vi)	hukuram-u, hare-ru	
316	歩く	walk (Vi)	aruk-u	
317	踏む	tread (Vt)	hum-u, nobor-u, hunnobor-u	
318	跳ねる、跳躍する	jump (Vi)	hane-ru	
319	走る	run (Vi)	hasur-u	かけっこを hanekura と言う が、hane-ru に「走る」とい う意味はない
320	蹴る	kick (Vt)	keppor-u	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
321	立つ	stand (Vi)	tac-u	
322	坐る、腰掛ける	sit (Vi)	suwar-u	
323	這う	crawl /creep (Vi)	ha-u	
324	寝る、横たわる	lie /lie down (Vi)	ne-ru	
325	眠る	sleep (Vi)	nemur-u	
326	覚める、目覚める	wake up (Vi)	same-ru	
327	起きる	rise /get up (Vi)	oki-ru	
328	食べる	eat (Vt)	ku-u	
329	飲む	drink (Vt)	nom-u	
330	酔う	be drunken (Vi)	joppara-u	
331	飢える、腹が減る	starve /hungry (Vi)	hara her-u	「腹が減る」という意味。 腹がいっぱいの状態は hara kucce-e という
332	渴く	be thirsty (Vi)	nodo kawak-u	
333	好む、好く	like (Vt)	suki=da	
334	嫌う	dislike (Vt)	kirae=da	
335	腐る、腐った	rotten	kusar-u	wari-ku nar-u (悪くなる) とも言う
336	割る	crack /smash (Vt)	buccak-u	窓や茶碗を割ることも buccak-u という
337	飛ぶ、飛行する	fly (Vi)	tob-u	
338	泳ぐ	swim (Vi)	ojog-u	
339	浮く、浮かぶ	drift /float (Vi)	ukab-u	
340	沈む	sink (Vi)	suzum-u	
341	裂く	tear (Vt)	buccak-u	
342	裂ける	tear (Vi)	buccake-ru	
343	剥く	peel (Vi)	muk-u	
344	潰す	crush (Vt)	cubus-u	
345	焼く	roast (Vt)	jak-u, abur-u	
346	煮る	boil (Vt)	ni-ru	
347	追う、追い掛ける	drive /run after (Vt)	bukur-u, okkake-ru	
348	逃げる、逃げ出す	escape /run away (Vi)	nige-ru	
349	殺す	kill (Vt)	koros-u	
350	結ぶ	tie (Vt)	musub-u, subar-u	
351	解く	release /untie (Vt)	hodok-u	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
352	放す	set free (Vt)	hanas-u	掴むことは cukam-u と言う
352.1	自由な	free (A)	zujuu=na	
353	縫う	sew (Vt)	nu-u	
354	洗う	wash (Vt)	ara-u	
355	拭く	wipe (Vt)	huk-u	
356	着る	wear /put on (Vt)	ki-ru	
357	脱ぐ	take off (Vt)	nug-u	
358	書く	write (Vt)	kak-u	
359	読む	read (Vt)	jom-u	
360	教える	instruct /teach (Vt)	osje-ru	
361	切る	cut (Vt)	kir-u	
362	作る	make (Vt)	kosjae-ru	
363	開ける、開く	open (Vt)	ake-ru	
364	閉める、閉じる	close (Vt)	sume-ru	
365	住む	live /dwell (Vi)	sum-u	
366	働く	work (Vi)	kaseg-u	生業は農業なので hatakesugoto su-ru (畑仕事をする) とも言う
367	疲れる	be tired (Vi)	kutabire-ru	
368	休む	repose /take rest (Vi)	jasu-mu	
369	買う	buy /purchase (Vt)	ka-u	
370	売る	sell (Vt)	ur-u	
371	得る、得る	get /obtain (Vt)	mora-u	
372	盗む	steal (Vt)	nusum-u	欲深いことを gamecujo-e と言う
373	貸す	lend (Vt)	kas-u	
374	借りる	borrow (Vt)	kari-ru	
375	熟する、熟した	get ripe /ripen (Vi)	jakko-ku nar-u	「やわらかくなる」という意味
376	折る	break (Vt)	or-u	
377	振る	shake (Vt)	hur-u	
378	取る、採る	adopt (Vt)	tor-u	
379	掘る	dig (Vt)	hor-u	
380	流れる	flow /stream (Vi)	nagare-ru	
381	登る、昇る	climb (V)	nobor-u	
382	降りる	climb down /alight (Vi)	ori-ru, kudar-u	
383	上がる、上昇する	ascend /rise (Vi)	agar-u	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
384	落ちる、落下する	fall (Vi)	ocu-ru	過去形だと occja と言う。上品な言い方に okkocu-ru がある
385	燃える	burn /blaze (Vi)	moe-ru	
386	吹く	blow (V)	huk-u	
387	雨がふる	rain (Vi)	hur-u	
388	濡れる、濡れた、湿った	get wet /damp (Vi)	nure-ru	
389	乾く、乾燥する、乾いた	dry (Vi)	kawak-u	
390	隠す	hide /conceal (Vt)	kakus-u	
391	探す	search (Vt)	tanne-ru	
392	見つける、見出す	find (Vt)	調査漏れ	「見つかる」ことを mekkasar-u と言う
393	数える	reckon /count (Vt)	kanzjo su-ru	「勘定する」という意味
394	産む	bear (a child) (Vt)	nas-u	
395	生まれる	be born (Vi)	nmare-ru	
396	育つ、成長する	grow [plant] (Vi)	sodac-u	「育てる」ことは sodate-ru と言う
397	死ぬ、枯れる	die (Vi)	sun-u	mee otos-u とも言う。上品な言い方に nakunar-u がある
398	生きる	live (Vi)	eki-ru	
399	遊ぶ	play (Vi)	asob-u	
400	助ける	help /assist (Vt)	tasuke-ru, tecuda-u	
401	待つ	wait (Vt)	mac-u	非完成相だと maccje-ru
402	会う、出会う	meet (Vt)	ekkja-u	
403	戦う	fight (Vt)	kenka su-ru	「喧嘩する」という意味
404	勝つ	win (V)	kac-u	makas-u (負かす) とも言う
405	負ける	lose /be defeated (V)	make-ru	
406	考える	think (V)	kangae-ru	
407	忘れる	forget (V)	wasure-ru	
408	置く	set /put (Vt)	ok-u	
409	乗る [車に]	ride (Vt)	nor-u	
409	乗る [動物などに]、跨る	ride /mount (Vt)	nor-u	
410	出る	come out (Vi)	de-ru	
411	入る	enter (Vi)	hae-ru	
412	来る	come (Vi)	ku-ru	
413	行く	go (Vi)	eg-u	
414	集める [人、物などを]	collect /gather (Vt)	acube-ru	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
415	混ぜる	mix /blend (Vt)	maze-ru	
416	動く	move (Vi)	egok-u	
417	合う	suit /fit (V)	a-u	
418	与える	give (Vt)	kure-ru	
419	する、為す	do (V)	su-ru, jar-u	
420	思う	think (V)	omo-u	
421	知る、知っている	know (Vt)	wakar-u	「知らない」ことは、wakanne, sunni と言う
422	欲する、欲しい	desire /wish for /be anxious to (Vt)	hosu-e	「欲しい」相当の形容詞
423	出来る、可能だ	can /be possible	surare-ru	動詞 su-ru に可能の接辞-rare が生起した形
424	存在する	exist (Vi)	ar-u	人の存在には e-ru を使う。いま目の前に物が存在することを e-ta と e-ru の過去形で言うことがある
425	居る	stay (Vi)	e-ru	いま目の前に人が存在することを e-ta と過去形で言うことがある
426	無い	not /nonexistent	ne-e	人がいないことは ene-e と言う
427	大きい、大きな	big /large	deka-e, zuna-e	
428	小さい、小さな	little	cjakko-e	
429	高い	high	take-e	
430	低い	low	hiku-e	
431	太った	fat	hutotte-ru	「太ってる」という動詞による表現。太った人のことを debu と言う
432	痩せた	lean	jasete-ru	「痩せてる」という動詞による表現。やせた人のことを ganta, jaseko と言う
433	厚い	thick	acupo-e	
434	薄い	thin	usu-e	
435	重い	heavy	onmote-e	
436	軽い、軽快	light	karuko-e	
437	強い	strong	cujo-e	力の強い人のことを cukaramocu と言う
438	弱い	weak	jowa-e	
439	痛い	sore /painful	ete-e	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
440	堅い、固い	hard	kate-e	
441	柔らかい	soft	jakko-e	
442	甘い	sweet	ame-e, ama-e	
443	塩辛い	salty	sjoppa-e	
444	辛い	hot /pungent	kare-e, kara-e	
445	苦い	bitter	nige-e	
446	速い	fast /quick	hae-e, haja-e	
447	遅い [速度]	slow	oso-e, noro-e	ose-e とは言わない
448	丸い	round	maruko-e, manmaruko-e	
449	切れる、鋭い	sharp /acute	kire-ru	「切れる」という動詞による表現
450	切れない、鈍い	blunt /dull	kinni-i	「切れない」という動詞による表現
451	滑らか	smooth	curucuru sute-ru, curucuru=da	「つるつるしてる」「つるつるだ」というオノマトペによる表現
452	真っ直ぐ	straight	massugu	
453	綺麗	pretty	ucukusu-e	
454	汚ない	dirty	kitane-e	
455	長い	long	nage-e	
456	短い	brief /short	micuke-e	
457	遠い、遠く	distant /far	too-e	
458	近い、近く	near	cuke-e	
459	広い	broad /wide	hiro-e	「狭い」ことを sebak-e とは言うが、「広い」ことを hiroko-e とは言わない
460	狭い	narrow	seba-e, sebak-e	
461	熱い、暑い	hot	acu-e	aci-i とは言わない
462	寒い	cold	samu-e	
463	暖かい	warm	attake-e	
464	冷たい	cold	hjakko-e	
465	若い	young	wake-e, waka-e	
466	歳をとった	old /aged	tosu totte-ru	「年とってる」という動詞による表現
467	新しい	new	atarasu-e	
468	古い	old /ancient	huru-e	
469	常に	always	ecumo	
470	満ちた	full	eppee=da	「いっぱいだ」という名詞による表現

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
471	多い	many	oo-e, jokee=da	jokee=da は「余計だ」という na 形容詞の表現だが、標準語の「余計」と違い、「不要なほど多い」場合に限らず、「多い」こと全般に使う
472	少ない	few	sukune-e	tanni-i (足りない) という動詞による表現もある
473	皆	all	mina	
474	明るい	bright /light	akari-i	「まぶしい」ことは macupo-e と言う
475	暗い	dark	kure-e, kura-e	
476	光	light	hikari	
477	白い	white	suro-e	
478	黒い	black	kuro-e	
479	赤い	red	aka-e	
480	青い	blue	ao-e	
481	緑	green	midori	
482	黄色	yellow	kiiro	
483	色、色彩	colour	ero	
484	美しい	beautiful /fine	ucukusu-e, uccukusu-e	kiree=da (きれいだ) は標準語的な表現
485	良い	good	e-e	口が極端に狭まって摩擦性の母音になるため音声としては[zii]のように聞こえる
486	悪い、間違った	not correct	macugatte-ru	「間違ってる」という動詞による表現
486	悪い (人)	bad	wari-i	
487	正しい	right /correct	tadasu-e	
488	同じ、同一	same	onnasu=da	
489	違った、異なる	different	cuga-u	「違う」という動詞による表現
490	再び、又	again	mata, ema ekkae	ema ekkae は「もう一回」という意味
491	もし... なら	if	botto	
492	はい	yes	ho=da	「そうだ」という意味
493	いいえ	no	ho=de ne, honne	honne は上品な言い方
494	こんにちは	good day	etakae, doomonae	etakae は「いたかい」の意味で他家を訪問したときのあいさつ。doomonae は「どうもね」の意味で道端で出会ったときのあいさつ。

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
495	さようなら	good-bye /bye-bye	matanae	「またね」の意味
496	で [場所]	at	de	
497	及び	and	to	
498	一緒に	with /together /along with	essjoni	
499	である [同 定]	be /is /are	da	
500	でない [否定 辞]	not	dene	
501	脳	brain	noomiso	
502	掌	palm	tenohira	
503	拳	fist	kobusu	
504	筋肉	muscle	kinniku	
505	肺	lung	hae	
506	腎臓	kidney	zunzoo	
507	胃	stomach	ebukuro	
508	大便、糞	stool	unko	子どもに対しては appo と 言う
509	小便、尿	urine	sjonbe	
510	陰茎	penis	cunpo	
511	陰部 [女子]	pubes /pudenda	becjoko	
512	裸	nudity	hadaka	
513	くしゃみ	sneeze	akusjo	
514	咳	cough	seki	
515	欠伸	yawn	akubi	
516	命、生命	life	enocu	
517	毒	poison	doku	
518	飯、ライス	cooked rice	manma, mesu	
519	パン	bread	pan	
520	芋	potato /taro	emo	さつまいもは kansjo、じゃが いもは akaemo, kanpura, bareesjo、長いもは bakaemo、 里芋は hataemo という
521	穀物	corn /grain	kokumocu	
522	小麦粉	flour	udonko	うどんを作るための粉でな くとも udonko という
523	砂糖	sugar	satoo	
524	菓子、ケーキ	cake	kasu	子どもに対しては nmaeko と言う
525	飲物	drink	nomimono	
526	茶	tea	ocja	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
527	湯	hot water	ju	
528	牛乳	milk	giuunjuu	bekono cucu (牛の乳) とも言う。分銅を使って重たいものの目方を量る台ばかりのことを bekobakari と言う
529	野菜	vegetable	jasae, aomono	aomono は菓物の野菜だけを言う
530	豆	beans	mame	大豆、小豆、青豆、黒豆は、それぞれ daezu、azuki、aomame、kuromame と言う
531	麦	barley /wheat /oats /rye	baku	麦を混ぜたごはんを bakumanma と言う
532	稲	paddy plant	ene	
533	食事	meal	manma, mesu	午後の農作業の合間に食べる食事を kobiru、夕飯を jomesu と言う。昼食後、午後の農作業前の昼寝を hirasumi と言う
534	兎	hare /rabbit	usagi	
535	鼠	rat	nezumi	
536	牙	tusk /fang	kiba	
537	猫	cat	neko, njanko	
538	鳥	crow	karasu	
539	鳩	pigeon	hato, hatopoppo	
540	猿	monkey	saru	
541	獣	beast	kemono, kedamono	
542	雄	male	osu	
543	雌	female	mesu	
544	犠牲	victim /sacrifice	gisee	
545	罠	trap	wanna	
546	籠	cage /basket	kago	
547	箱	box /case	hako	
548	蓋	lid	huta	
549	マッチ	match	maccu	
550	板	board /plank	eta, etapanko	
551	ガラス	glass	garasu	
552	壺	bottle	bin	
553	皿	plate	sara	
554	茶碗	cup	cjawan, owan	
555	スプーン、匙	spoon	sazu	

## 基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
556	料理	cooking	rjoori	
557	鋏	scissors	hasami	
558	裁縫	sewing	nuemono	
559	櫛	comb	kusu	
559.1	梳く	comb (v)	tokas-u	
560	鏡	looking-glass /mirror	kagami	
561	化粧	toilet	kesjoo	
562	道具	tool /instrument	doogu	
563	帽子	hat /cap	kjappu	
564	傘、笠	umbrella	karakasa	
565	首飾り	necklace	kubikazari	
566	腕輪	bangle /bracelet	udewa	
567	輪	ring /wheel	wakka	
568	帯	band /belt	obi	
569	ズボン	trousers	zubon	
570	靴	shoe	kucu	
571	床	floor	juka	
572	机	desk	cukue	
573	椅子	chair	kosukake	
574	部屋	room	heja	
575	柱	pillar	hassja	
576	便所	toilet	benzjo	
577	掃除	cleaning	soozu	
578	門	gate	mon	
579	墓	tomb /grave	ranba	
580	葬式	funeral ceremony	zaranpo	
581	金	gold	kin	
582	銀	silver	gin	
583	銅	copper	doo	
584	鉄	iron	tecu	
585	機械	machine	kikee	
586	自動車	car /automobile /motor-car	zudoosja, kuruma	
587	武器	arms /weapon	buki	
588	太鼓	drum	taeko	
589	鈴	bell	suzu	
590	笛	flute	hue	
591	旗	banner /flag	hata	
592	味方	ally	mikata	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
593	敵	enemy /foe	teki	
594	戦争	war /warfare	ekusa	
595	火事	burning /fire	kazu	
596	罰、処罰	punishment	bacu	
597	税、税金	tax	zeekin	
598	値、価格、値段	price /cost	nedan	
599	本、書物	book	hon, sjomocu	
600	新聞	newspaper	sunbun	
601	絵、絵画	drawing /painting /picture	ekusa	
602	手紙	letter	tegami	
603	話	talk /tale /story	hanasu	
604	歌	song	uta	
605	踊り、ダンス	dance	odori	
606	旅、旅行	journey /trip /tour	rjokoo	
607	休み	rest	jasumi	
608	耕作	cultivation	una-u	una-u は「耕す」を意味する動詞
609	鍬	hoe	kuwa, ka	
610	鋤	plough	suki	
611	臼	mortar	usu	
612	泉	fountain /spring	ezumi	
613	谷	valley	tani	
614	岸	bank	kisu	
615	波	wave	nami	
616	泡	foam	abuku	
617	雷	thunder	raesama	
618	稲光	lightening	enabikari	
619	空気	air	kuuki	
620	天気、天候	weather	tenki	
621	雨季	rainy season	uki	ただし、雨季にあたる季節は当地にない
622	乾季	dry season	kanki	ただし、乾季にあたる季節は当地にない
623	春	spring time /spring	haru	
624	夏	summer	nacu	
625	秋	autumn /fall	aki	
626	冬	winter	huju	
627	一月、正月	January	ecugacu	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
628	二月	February	nigacu	
629	三月	March	sangacu	
630	四月	April	sugacu	
631	五月	May	gogacu	
632	六月	June	rokugacu	
633	七月	July	sucugacu	
634	八月	August	hacugacu	
635	九月	September	kugacu	
636	十月	October	zjuugacu	
637	十一月	November	zjuuecugacu	
638	十二月	December	zjuunigacu	
639	月曜日	Monday	gecujoobi	
640	火曜日	Tuesday	kajoobi	
641	水曜日	Wednesday	suejoobi	
642	木曜日	Thursday	mokujoobi	
643	金曜日	Friday	kinjoobi	
644	土曜日	Saturday	dojoobi	
645	日曜日	Sunday	nicujoobi	
646	日 [ 1 日、2 日 ]、日数	day	hinicu	
647	時	o'clock	zu	
648	分	minute	hun	
649	秒	second	bjoo	
650	午前	a.m. /morning	hinnome	
651	午後	p.m. /afternoon	hirumakkara	
652	一昨日	day before yesterday	otote	
653	明後日	day after tomorrow	asatte	
654	先月	last month	sengecu	
655	来月	next month	raegecu	
656	今年	this year	kotosu	
657	去年	last year	kjonen	
658	来年	next year	raenen	
659	昔	ancient times	mukasu	
660	何日、何時か	someday /ever	ecuka	
661	以前、前に	before	konedata	「この間」の意味
662	以後、後で	afterward(s)	atode, atokara	
663	初め	beginning	hazume, hazumari	
664	終わり	end	owari	
665	次	next	cugi	
666	ゼロ、零	zero	zero, rec	
667	十一	eleven	zjuuecu	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
668	十二	twelve	zjuuni	
669	十三	thirteen	zjuusan	
670	十四	fourteen	zjuusu, zjuujon	
671	十五	fifteen	zjuugo	
672	十六	sixteen	zjuuroku	
673	十七	seventeen	zjuusucu, zjuunana	
674	十八	eighteen	zjuuhacu	
675	十九	nineteen	zjuuku	
676	三十	thirty	sanzjuu	
677	四十	forty	suzjuu, jonzjuu	
678	五十	fifty	gozjuu	
679	六十	sixty	rokuzjuu	
680	七十	seventy	nanazjuu, sucuzjuu	
681	八十	eighty	hacuzjuu	
682	九十	ninety	kuzjuu, kjuuzjuu	
683	千	thousand	sen	
684	万	ten thousand	man	
685	第一	first	ecubanme	
686	第二	second	nibanme	
687	第三	third	sanbanme	
688	一人	alone /one person	hitori	
689	二人	two people	hutari	
690	三人	three people	sannin	四人のことは jonin, jottari と 言う
691	一日	the first day of a month	cuetacu, ecunicu	
692	二日	the second day of a month	hucuka	
693	三日	the third day of a month	mikka	四日は jokka、五日は ecuka, gonicu、六日は mucka, rokunicu、七日は nanoka, nananucu、八日は jooka、九 日は kokonoka, kunucu と 言う。八日を hacunucu とは 言わない
694	番 [順番が一 番]	number (one)	ban	
695	ルピー [貨幣 単位]	rupee	en	日本の貨幣単位「円」「銭」 に置き換えて調査した
695.1	五十パイサ	50 paisa	gozjussen	日本の貨幣単位「円」「銭」 に置き換えて調査した

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
695.2	二十五パイサ	25 paisa	nizjuugosen	日本の貨幣単位「円」「銭」に置き換えて調査した
695.3	十パイサ	10 paisa	zjussen	日本の貨幣単位「円」「銭」に置き換えて調査した
696	歳 [1 歳、2 歳]	year	sae	1 歳、2 歳を hitocu、hutacu と数える
697	赤ん坊	baby	onboko, jaja, jajakko, akanbo	akago とは言わない
698	大人	grown-up /adult	otona	
699	年寄り [老人 一般]	old age	tosjori	
699.1	年取った、高齢の	aged, old	tosu totte-ru, hukete-ru	「年とってる」「ふけてる」という動詞による表現。hukete-ru は外見が老いていることを言う
700	親、両親	parents	oja	
701	夫婦	husband and wife	huuhu	meoto とは言わない
702	先祖	ancestor	senzo	
703	甥	nephew	oeko	
704	姪	niece	meeko	
705	従兄弟	cousin	etoko	
706	親戚、親類	relation /kindred	sunrue, sunseki	
707	挨拶	greeting /salute	aesacu	
708	様、さん	Mister /Mrs. /Miss	cjan, sama, jan, san	
709	答え	answer	kotae	
710	返事	reply	henzu	
711	先生	teacher	sense	
712	生徒	pupil	seeto	
713	主人	host /master	danna	使用人のことは temadori と 言う
714	王	king	tonosama	王にあたる人はこの社会に いない。tonosama は昔の時 代の「殿様」のこと
715	官吏、役人	officer /official	jakunin	
716	商人	merchant /trader	akindo	
717	医者	doctor	esjasama	
718	職業	profession /occupation	sugoto	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
719	跛	cripple	bikko	耳が聞こえない人は <b>cunpo</b> 、 口が聞けない人は <b>ocu</b> 、目が見えない人は <b>mekko</b> あるいは上品な言い方で <b>mekura</b> と言う
720	泥棒	thief	nusubito, nusutto	
721	馬鹿、愚か	fool	baka, hedenasu, poncuko, deresuke	
722	気持ち	mind /feeling	kimocu	
723	夢、夢を見る	dream	jume	
724	意味	sense /meaning	emi, wake	
725	国	country /state /nation	kuni	
726	世界	world	sekae	
727	寺、寺院	temple	otera	
728	学校	school	gakkoo	
729	市場、市	market	ecuba	この社会では昔でも市場が立つことはあまりなかった。買い物は街に出てすることが多かった。
730	商店、店	store /shop	miseja	
731	住所	residence	zjuusjo	
732	隣	neighbour	tonari	
733	境、境界	border /frontier	sakae	
734	東	east	higasu	
735	西	west	nisu	
736	南	south	minami	
737	北	north	kita	
738	方向	direction	hoogaku, hookoo	
739	尖	point /tip	saki	
740	縦	length	tate	
741	横	width	joko	
742	幅	breadth /width	haba	
743	傍、側、傍	beside /alongside	soba	
744	回り、周り、周囲	surrounding /environment	gururi, mawari	
745	表	surface	omote	
746	裏	reverse	ura	
747	陰	shade	hikage	
748	中	middle	naka	

基礎語彙 800 語

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
749	底	bottom	soko	
750	丸、円	circle	maru, manmaru	
751	線	line	sen	
752	印	mark	surusu	
753	形	form /shape	katacu, kakko	
754	各々	each one /everyone	sorezore	
755	何か	anything /something	nanika	
756	咀嚼する、嚼む	chew (Vt)	kam-u	
757	舐める	lick (Vt)	name-ru	
758	吠える	bark (Vi)	hoe-ru	
759	鳴く、啼く	howl (animal)(Vi)	nak-u	
760	気付く	notice (Vt)	kanzuk-u, kizuk-u	
761	覚える	remember (Vt)	oboe-ru	
762	思い出す	remind /recollect (Vt)	omoedas-u	
763	信ずる	believe (Vt)	sunzu-ru	
764	迷う	get astray (Vi)	majo-u	
765	疑う	suspect (Vt)	utaga-u	
766	問う	question /ask (Vt)	kik-u	
767	答える	reply /answer (Vt)	kotae-ru	
768	命ずる	bid /order (Vt)	sasuzu su-ru	「指図する」の意味
769	禁ずる	prohibit /forbid (Vt)	jamerase-ru, kinsu su-ru	それぞれ「やめさせる」「禁止する」の意味
770	詫びる	apologize (V)	ajamar-u	
771	誉める	praise (Vt)	home-ru	
772	叱る	scold (Vt)	okor-u	
773	騙す	cheat (Vt)	uso damas-u	kok-u, uso kok-u は「嘘をこく」の意味。katar-u に「だます」という意味はない
774	苦しむ	suffer /distressing /painful (Vi)	kurusum-u	
775	困る	suffer (V)	komar-u	
776	案ずる、心配する	be worried (V)	sunpe su-ru	「心配する」の意味
777	安心する	feel relieved (Vi)	anki su-ru	
778	愛する	love (Vt)	kawaegar-u, suki=da	suki=da は「好きだ」の意味の na 形容詞による表現
779	祈る	pray (V)	enor-u	
780	拝む	worship (Vt)	ogam-u	

	標準日本語	英語	伊達市方言	備考
781	真似る	imitate (Vt)	manekoto su-ru	「真似事をする」の意味
782	比べる	compare (Vt)	kurabe-ru	
783	選ぶ	select /choose (Vt)	erab-u	
784	引く	draw /subtract (Vt)	hik-u	
785	計る、測る、 量る	weigh /measure (Vt)	hakar-u	
786	手伝う	help (Vt)	tecuda-u	
787	育てる	foster /bring up (Vt)	sodate-ru	
788	飼う	keep /raise (Vt)	ka-u	
789	釣る	fish (Vt)	cur-u	
790	捕まえる	catch (Vt)	cukamae-ru	
791	握る	grasp /grip (Vt)	nigir-u	
792	落とす [下 へ]	drop (Vt)	horok-u, opporok-u	過去形は horotta, opporotta になる。酔っ払って記憶を 失うことを hode nekunar-u と言う
793	拾う	pick up (Vt)	hiro-u	
794	棄てる	abandon /cast away (Vt)	nage-ru, bunnage-ru	
795	無くなる	be lost /disappear (Vi)	enaku nar-u	「いなくなる」の意味。人 以外にモノについても enaku nar-u と言う
796	埋める	bury (Vt)	nme-ru	
797	覆う	cover (Vt)	kabuse-ru	
798	包む	pack /wrap /envelop (Vt)	cucum-u	
799	吊るす	hang down (Vt)	curus-u	
800	掛ける	hang (Vt)	kake-ru, cukkake-ru	

## 福島県民話資料一覧

福島県内の民話を集録した民話資料を、方言記述のための言語資料として活用が期待できるかという観点から分類し、一覧にして示す。

民話資料のなかには、民話を語る話者の発話をかなり忠実に書き起こしたと見られるものがある。以下に、山口（1984）の記述を引用する。

昔話資料集の類は数々あるが、近年は録音からの文字化が主流をなしており、（中略）なかにはソノシート付や、方言学者の参与しているものもあり、方言資料としてじゅうぶんたえうる。方言研究者は今後積極的に利用をはからないと、昔話採集者達に申訳がない。（中略）しかし、それには方言に忠実なものとそうでないもの、はてはでたらめなものがあるので、一度、方言の側からみて資料的価値があるもののリストを作る必要がある。（山口 1984:293）

山口が民話資料の活用を提言して 30 年以上になるが、どのような民話資料がどれだけあって、どれが言語資料として活用できるかを、方言研究者が本格的に検討した例はないようである。

そこで、本稿では、福島県内の民話を集録した民話資料をできるだけ数多く収集し、

（1）録音からの文字化と明記されているもの

（2）明記はないが全体として方言で書かれたもの

（3）標準語ないし役割語的な方言（例：「わしは百姓ですだ。」）で書かれたものの 3 種に分けて整理し、一覧化した。（2）の民話資料は、地の文もふくめて民話全体が方言で語られているものである。地の文が標準語で登場人物どうしの会話文が方言のものなど、標準語が混じる文体の民話資料はすべて（3）に含めている。

（1）の民話資料は、文字化の精度に気をつける必要はあるが、言語資料としての活用が期待される。（2）の民話資料も、慎重に検討をしたうえで活用できる可能性がある。一方、（3）の民話資料は言語資料として活用するのは難しい。

なお、民話資料には私家版や希少本など入手困難なものが数多くあり、書誌情報は把握していても、編者の白岩が資料の現物を確認できていないものもある。それらは、

（4）白岩が資料の現物を確認していないもの

として一覧化した。

モノログかダイアログかの違いはあるが、民話資料は談話資料と同様にテキストとしての性格を持つ。本稿の整理をもとにして、今後の研究では民話資料の活用を検討したいと考えている。

（引用文献）

山口幸洋（1984）「方言録音資料 ―方言学将来の柱」『国文学解釈と鑑賞』49-7、  
pp.283-295

## (1) 録音からの文字化と明記されているもの

地点	編者・著者	刊年	書名	出版者	備考
全県	福島県教育委員会	1986	ふくしまの昔話（奥付では「ふくしまの昔話と伝説」）	福島県教育委員会	目次の次頁の凡例に「文字化にあたっては、伝承者の発音を忠実に表記することを原則としたが、不自然な文節の個所は修正した。」とある。音声資料としてカセットテープが付録。
相馬郡、双葉郡	民俗文学研究会編集委員	1964	伝承文芸第2号 相馬地方昔話集	国学院大学民俗文学研究会	凡例に「話の記録方法は、テープに収められた話者の語り口をそのまま筆録した。」「口語りのために生じた理解し難い語句、及び方言は、手を加えずにそのまま記した。」とある。話者により標準語的スタイルで話すものがある。
川内村、（檜枝岐村）	石川純一郎	1972	河童火やろう	桜楓社	「語りに忠実な翻字化の表記形式を採った」（p.25）とある。川内村は録音、檜枝岐村は口述筆記による。
いわき市	佐藤孝徳	1987	いわき地域学会図書1 昔あったんだっち 磐城七浜昔ばなし 300 話	いわき地域学会出版部	xvii ページに文字化の凡例あり。「編者がノートとテープ録音により探訪採集をした」「文字化するに当たっては、話者の語り口や話の流れを可能な限り尊重し、話しことばとしての冗長や反復の省略も最小限にとどめた」（p.xvii）とある。編者はいわき市出身。
国見町	国見町教育委員会	1990	続・国見の民話	国見町教育委員会	あとがきに「今回の続篇は、主として一九八五年（昭六〇年）「日本民話の会」の国見町探訪調査の折の記録テープを、国見民話の会の会員の手で、できるだけ忠実に起こしたものの一部分を編集したものです。」（p.273）とある。
国見町	日本民話の会	1991	季刊民話の手帖第47号 福島県国見町の民話	日本民話の会	p.20 に「テープに録音された語りを原稿用紙に記録する作業であるが」などと文字化の手順が示しており、国見町の人たちが文字化したことがわかる。
安達郡	吉沢和夫・藤田浩子	1995	遠藤登志子の語り ― 福島の民話 ―	一声社	目次の前の詳細な文字化の凡例に「録音テープから忠実におこしたものである」とある。文字化者は藤田浩子（東京生まれ、小中学校時に三春に疎開）。話者の遠藤登志子は福島市生まれ、安達郡育ち。生育歴は p.524-531 に記載。

地点	編者・著者	刊年	書名	出版者	備考
船引町	船引町教育委員会	1980	ふねひきのざっと昔	船引町教育委員会	「テープレコーダーにより録音したものを、原則として語り口のとおり筆記した。」(凡例)とある。
都路村	伊藤龍平	2015	福島県田村郡都路村説話集	青弓社	詳細な文字化の凡例が p.12 にある。「伊藤龍平がすべての録音テープをあらためて聞き直し、翻字作業を行なった」(p.11)とある。
西郷村	福島県教育委員会	1970	西郷地方の民俗—福島県文化財調査報告書第18集—	福島県教育委員会	「録音テープから、語りに忠実に翻字した。」(p.169)とある。
石川郡	國學院大学説話研究会ざっと昔を聴く会	1991	石川郡のざっと昔—福島県石川郡昔話集—	國學院大学説話研究会	p.201 に詳細な文字化の凡例があり、「録音の加除・作為的な修正は一切していない。ただし、翻字段階での聞き違いはあるかもしれない。」とある。ただし、採録者が國學院大学の学生のため、標準語的なスタイルが混じるように見られる。
東白川郡	ざっと昔を聴く会	1986	東白川郡のざっと昔	ふるさと企画	p.224 に詳細な文字化の凡例があり、「直接、聞いて録音したものの翻字である。」と書かれている。
会津全域	国学院大学説話研究会	1975	会津百話	桜楓社	p.10 に文字化の凡例があり、「テープ録音資料をできるだけ忠実に翻字化し現代表記法に規ったが、地方語は発音そのままを残した。」とある。
昭和村	小林政一	1982	昭和村のざっと昔	ふるさと企画	p.126 のあとがきに「昭和四十九年から昭和五十六年までに、福島県大沼郡昭和村でテープに録音したものを文字化したものである。」とある。
伊南村	中村博・水谷章三・望月新三郎	1983	民話の手帖〈別冊〉第17号伊南村の民話	日本民話の会	文字化の凡例に「記述は、テープに収めた語り口にできる限り忠実に行った。」「記録中(不明)とした部分は、テープによる聞き取りが残念ながら不可能であった箇処である。」(p.11)とある。
舘岩村	石川純一郎	1974	会津舘岩村民俗誌	舘岩村教育委員会	p.268 の文字化の凡例に「録音資料をできるだけ忠実に翻字化し、原則的には現代表記法に規ったが、地方語はそのまま残すことに努めた。」とある。

(2) 明記はないが全体として方言で書かれたもの（地域ごとに編者・著者名の五十音順）

【県内の複数地点】

五十島璃英子（2000）『おばんちゃのむかしがたり としやの晩』五十島璃英子

内池和子（2003）『歴春ふくしま文庫 97 ふくしまの語り部たち』歴史春秋出版（著者は福島市出身。語り部の紹介がメインで、語りそのものの資料は少ない）

馬場タニ・五十島璃英子（2003）『ふくしまの民話シリーズ ばんちゃの昔話』歴史春秋出版（只見町の馬場タニ氏と、大玉村出身の祖母の昔話を伝える会津若松市出身の五十島英子氏の昔話を収録。ただし、五十島氏の話には、推量のジャロウ（p.143）、存在動詞のオル（p.150）など、福島方言とは思えない表現が混じる。）

福島県国語教育研究会（1977）『福島のむかし話』日本標準（県内の多数の関係者による再話。編集の経緯は p.254 に記載）

福島県国語教育研究会（2009）『読みがたり 福島のむかし話』日本標準（福島県国語教育研究会（1977）の再版）

山本明（1977）『ふくしま文庫 33 ふくしまの昔話』FCT 企業（著者は東京出身）

【浜通り】

飯館民話の会（1996）『語って聞かせっかい 福島県飯館村のむかしばなし』飯館民話の会（『飯館村史 第3巻 民俗編』、『相馬山中郷の民俗』（山本明）、『伝承文芸 第2号 相馬地方昔話集』（国学院大学民俗文学研究会）に収録の話を書き改めて再録したもの）

鴨志田義康（1981）『続なこそ民話』岩前廉太郎（いわき市。あとがきに、話者の語り口を生かしたこと、録音の聞き直しで苦労したことが書いてあるが、テキストが録音の文字化そのものとは明記されていない）

新地語ってみっ会（2011）『新地の昔話』新日本文芸協会

福島県双葉郡大熊町図書館（2007）『おおくまの民話』福島県双葉郡大熊町図書館（あとがきの記述から、既刊の標準語で書かれた民話集を方言で書き改めたものと見られる。）

【県北】

遠藤登志子（1985）『雪の夜ばなし ー福島民話ー』ふるさと企画（安達郡。語り部の遠藤氏自身が文字に書いたものと見られる。氏の生い立ちは巻末の「解説」に詳

しい)

川俣町文化財保護審議会(1985)『川俣の昔ばなし』福島県伊達郡川俣町教育委員会(あとがきに、地元の人による再話であることが明記されている。ただし、佐々木徳夫(2004:245)によると、この資料に収録された民話は佐々木氏の刊行物から無断で転載されたものという)

国見町教育委員会(1985)『国見の民話』国見町教育委員会(あとがきの記述から、語り部の発話を忠実に記録したものと見られるが、録音の文字化とは明記されていない)

紺野雅子(2011)『民話集 とうわものがたり』紺野雅子(旧東和町。巻頭言に編集の経緯が書いてあるが、録音の文字化か著者の再話かは明記されていない)

佐々木徳夫(2004)『馬方と山姥 ～陸前・岩代の昔ばなし～』本の森(川俣町・月舘町の「岩代の昔ばなし」と宮城県の「陸前の昔ばなし」から成る。語りの方言的特徴を生かして整備したことが凡例に示しているが、「岩代の昔ばなし」が録音の文字化とは明記されていない)

ふくしま民話茶屋の会(2010)『ふくしまの民話 18話』ふくしま民話茶屋の会(福島市。おわりにの記述から、民話の語り部自身が民話を文字に書いたものと見られる)

ふくしま民話茶屋の会(2013)『第二集 ふくしまの民話 22話』ふくしま民話茶屋の会(福島市。特に明記はないが、ふくしま民話茶屋の会(2010)と同様の編集か)

「森の民話茶屋」運営委員会(2008)『森の民話茶屋からの届け物 茅刈り狐』歴史春秋出版(大玉村。CD 付属。子ども向け絵本。明記はないが、関係者が書き下ろしたものと見られる。方言による語りだが、かなり標準語に引きずられた感じがある。CD の音声も、アクセントはやや無型に近いが、音韻体系は標準語と同じ感じがある)

門間クラ(2007)『それぞれの愛 現代につなぐ福島の民話』門間クラ(福島市。特に明記はないが、著者自身が書き下ろしたものと見られる。門馬(2010)も同様)

門間クラ(2010)『ごごだ〜げの話 現代につなぐみちのく民話』門間クラ

## 【県中・県南】

郡山市教育委員会社会教育課(1984)『郡山のむかしばなし』郡山市教育委員会(白岩はこの本の編集関係者にお話をうかがったことがある。民話採録者ごとに報告の仕方はバラバラだが、採録者の再話が多いのではないかとのことだった)

さめがわ民話の会（2014）『鮫川のむかし話』鮫川村教育委員会（「発刊によせて」の記述から、既刊の『ふる里の民話と伝説』および『ふるさとのむかし話』を方言で書き直したものと見られる。ただし、p.1 で存在動詞にオルが使われており、福島方言としては違和感がある）

西郊民俗談話会（1976）『大栗・狸森の民俗 ―福島県須賀川市大栗・狸森―』西郊民俗談話会

武田正（1979）『日本の民話 3 東北（二）』ぎょうせい（東北各地の民話集だが、福島県内では郡山市湖南地区の民話がある。「話のかけ橋に」（p.1）に「話されたままを文字にうつした」とあるが録音の文字化とは明記がない。武田氏は山形県米沢の高校教師）

東洋大学民俗研究会（1975）『小平の民俗 ―福島県石川郡平田村旧小平村―』東洋大学民俗研究会

日本民話の会（2013）『新しい日本の語り 4 藤田浩子の語り』悠書館（三春町。藤田（1996-2004）『かたれやまんば 第 1～5 集』から一部の話を抜粋してまとめたもの。「私と昔話」（p.1-8）と奥付ページに語り手の生い立ちや居住歴などが書かれている。藤田氏は東京生まれで、小学 1 年から中学 2 年まで疎開先の三春町で育つ。成人後は福島県や東京都などで幼児教育に携わる）

藤田浩子（1996）『かたれやまんば 第 1 集』藤田浩子の語りを聞く会（三春町。132 ページに書かれた編集の経緯から語り口にかなり忠実な文字化であると示唆されるが、録音の文字化そのものとは明記されていない。藤田浩子（2006a）のあとがきにも編集の経緯が書かれている。第 2 集以降も同様に編集されたものと見られる）

藤田浩子（1997）『かたれやまんば 第 2 集』藤田浩子の語りを聞く会

藤田浩子（1998）『かたれやまんば 第 3 集』藤田浩子の語りを聞く会

藤田浩子（2000）『かたれやまんば 第 4 集』藤田浩子の語りを聞く会

藤田浩子（2003）『かたれやまんば 第 5 集』藤田浩子の語りを聞く会

藤田浩子（2006a）『昔話に学ぶ「生きる知恵」① 化かす騙す』一声社（三春町。「この本の使い方」（p.10）と「あとがき」（p.166）の記述から、自身の語りの録音文字化をもとに、語り部の藤田氏自身が少し書き直したものと見られる。以下、④巻まで同様）

藤田浩子（2006b）『昔話に学ぶ「生きる知恵」② 機転を利かす』一声社

藤田浩子（2006c）『昔話に学ぶ「生きる知恵」③ 馬鹿の鏡』一声社

藤田浩子（2007）『昔話に学ぶ「生きる知恵」④ 女の底力』一声社

山本明（1974）『鬼の子小綱 福島の昔話』桜楓社（船引町出身、飯舘村在住の三輪セン媼による船引町の民話。テキストが録音の文字化そのものとは明記されていないが、あとがきには「テープにおさめた」とある）

### 【会津】

石川純一郎（2000）『会津館岩のむかし話』館岩村教育委員会（「(1) 録音からの文字化と明記されているもの」として挙げた石川純一郎（1974）からの再録を含む）

小林政一（1980）『小林キン・菊地アキノ昔話集 一福島県大沼郡昭和村一』小林政一（小林正一氏による一連の民話資料は、録音の文字化とは明記がないが、話者の語り口に忠実であるようにという意識が強く感じられる）

小林政一（1981）『奥会津のざっと昔』青森県文芸協会出版部（奥会津各地。あとがきに、語り部の語り口を「そのままに表記」とあるが、録音の文字化とは明記されていない）

小林政一（1995）『まさいちのむがし』ふるさと企画（昭和村。あとがきの記述から、著者自身が書き下ろしたものと見られる）

小林政一（2002）『小林キンのざっと昔』ふるさと企画（昭和村）

昭和村文化財保護審議会・小林政一（1979）『昭和村のむかしばなし ～シリーズ No.1 ～』昭和村教育委員会（「はなむけの言葉」の記述から、小林政一氏が録音によって民話を収集したことがわかるが、この本のテキストが録音の文字化とは明記されていない。なお、シリーズ No.2 は見あたらない。）

田島町教育委員会（1992）『田島町文化財報告書 第八集 会津田島の民話』田島町教育委員会（標準語的な文体で書かれた民話と方言で書かれた民話を別の章にわけて収録）

只見寿学級（1984）『只見むかし話』只見町公民館（編集後記に「できるだけ只見弁を使い」とあり、語り口には忠実と見られるが、録音の文字化とは明記されていない）

只見町昔ばなしの会（1999）『奥会津只見の昔話 ざっと昔あったと』只見町昔ばなしの会（あとがきの記述から、会員が個人で書いた原稿を持ち寄って作ったものと見られる）

千葉大学日本文化研究会民話分科会（1979）『ちりりんぼりりんこがねの花 一福島県

三島町の民話―』千葉大学日本文化研究会（ザラ紙にガリ版刷りと見られる印刷なので印刷が不鮮明であり、濁点の有無などが判別しにくい）

堂島農協婦人部（1985）『堂島むかしばなし』堂島農協婦人部（喜多方市塩川町堂島。

目次の後の「心のふるさとづくり」に「話者の語り口をそのまま書き残すこと」とあるが、録音の文字化とは明記されていない）

堂島農協婦人部（1987）『続 堂島むかしばなし』堂島農協婦人部（喜多方市塩川町堂島。堂島農協婦人部（1985）と同様の採話と見られるが不明）

馬場タニ（1994）『タニばあちゃんのざっとむかし ―奥会津只見の昔話―』馬場洋三（馬場タニ氏が自ら書き下ろしたものか。『一奥会津― 生きる』（奥会津書房、2001年）に馬場タニさんへのインタビュー記事あり）

みさと民話の会（2014）『会津 みさとのむかし話』みさと民話の会（会津美里町。巻頭言の記述から、既刊資料の再構成と見られる）

『民話と文学』編集委員会（1979）『民話と文学 第5号 （特集 会津・山都の伝承）』民話と文学の会（採話者がバラバラだが、おおむね方言で書かれている）

（3）標準語ないし役割語的な方言で書かれたもの（編者・著者名の五十音順。標準語と方言が混じるものを含む）

逢澤紀孝（2015）『会津に伝わるむかし話 ―民話伝説集―』歴史春秋出版

赤坂憲雄＋会津学研究会（2015）『会津物語』朝日新聞出版

あかべこさくら会（2013）『会津やないづの昔話』あかべこさくら会

赤間利晴（2013）『信夫山の大蛇と大百足』未来企画創造学舎

赤間利晴（2014）『信夫山の大蛇と大百足 中学生向け』未来企画創造学舎

安達地方新しい旅実行委員会（2009）『あだち野のむかし物語 ズーっと、ズーっと、昔ナイ。』安達地方新しい旅実行委員会

石川純一郎（1975）『会津の民話と伝説 1 瓜姫とアマンジャク』歴史春秋社

石川純一郎（1976）『会津の民話と伝説 2 天狗の羽うちわ』歴史春秋社

石川純一郎（1980）『会津の民話と伝説 3 猿丸太夫』歴史春秋社

石川純一郎・竹内智恵子（1980）『日本の伝説 45 福島の伝説』角川書店

石川町中谷地区郷土史愛好会（1974）『中谷地区民俗資料（1） 民話と民謡』石川町中谷地区郷土史愛好会

稲田浩二・小沢俊夫（1985）『日本昔話通観 第7巻 福島』同朋舎出版

今野圓輔（1951）『檜枝岐民俗誌』刀江書院

- いわき地方史研究会（1977）『いわきの伝説と民話』いわき地方史研究会
- 岩崎敏夫（1976）『磐城岩代の伝説』第一法規出版
- 岩瀬村文化財保護審議委員（1988）『ふるさと昔話 2』岩瀬村教育委員会
- 岩瀬村文化財保護審議会（1985）『ふるさと昔話 1』岩瀬村教育委員会
- 植田龍（2005）『浜通り伝説へめぐり紀行』歴史春秋出版
- 遠藤輝之助（1982）『泉崎の民話』遠藤輝之助
- 大熊町公民館（1973）『大熊町民話シリーズ第1号 民話 苦麻川』大熊町公民館
- 大熊町公民館（1994）『大熊町民話シリーズ第2号 民話 野がみの里』大熊町公民館
- 大熊町公民館（1995）『大熊町民話シリーズ第3号 民話 野上川』大熊町公民館
- 大島建彦（1986）『郡山の伝説』郡山市教育委員会
- 大塚正伊（1995）『安達の伝説と昔話』歴史春秋出版
- 奥会津書房（2010）『奥会津こども聞き書き百選② じいちゃん ありがとう ～一枚の写真から～』奥会津書房
- 奥会津書房（2011）『奥会津こども聞き書き百選③ じいちゃん ありがとう ～一枚の写真から～』奥会津書房
- 奥会津書房（2015）『会津学 Vol.7』会津学研究会
- おはなしタンポポ（2005）『岩代の昔話』おはなしタンポポ
- 片平幸三（1958）『福島民話 第1集』未来社（2015年に再刊）
- 片平幸三（1966）『福島民話 第2集』未来社（2016年に再刊）
- 片平幸三（1974）『ふくしま文庫 6 ふくしまの民話』FCT サービス出版部
- 加藤貞仁（1997）『ふくしま艶笑譚』無明舎出版
- 鎌田清衛（2016）『残しておきたい大熊のはなし』歴史春秋出版
- 川口芳昭（2007）『喜多方の昔語り集』川口芳昭
- 川島保徳（1987）『かたり手・きき手 ―現代かたりべのすすめ―』ふるさと企画
- 川前三朗（1984）『ふくしま創作民話 碑のささやき』三津野出版
- 菊地芳男（1983）『みちのく田付物語』菊地芳男
- 北会津村教育委員会生涯学習課（公民館）（2002）『北会津の昔ばなしと伝説』北会津村教育委員会
- 北郷隆平（1990）『御前塚物語』北郷隆平
- 草野日出夫（1975）『ヤマはふるさと 常磐炭田物語』はましん企画
- 草野日出夫（1977）『写真で綴るいわきの伝説』はましん企画

- 草野比佐男・水野谷絹子（1980）『石になったおかあさん』はましん企画
- 黒沢賢一（2002）『山椒太夫異聞 安寿と厨子王伝説 その物語とゆかりの地を訪ねて』  
歴史春秋出版
- 黒沢賢一（2006）『義経伝説の謎に迫る ふくしまの義経伝説』いわきセミナー出版部
- 黒沢賢一（2007）『ふるさとの伝説を旅する。 地上の「天の川」』八幡印刷出版部雄峰  
舎
- 黒沢賢一（2007）『ふるさとの伝説を旅する。 二本杉悲恋』八幡印刷出版部雄峰舎
- 黒沢賢一（2007）『ふるさとの伝説を旅する。 来る勿かれ』八幡印刷出版部雄峰舎
- 黒沢賢一（2007）『ふるさとの伝説を旅する。 かっぱの教え』八幡印刷出版部雄峰舎
- 黒沢賢一（2008）『ふるさとの伝説を旅する。 佐波古の御湯』八幡印刷出版部雄峰舎
- 黒沢賢一（2008）『ふるさとの伝説を旅する。 遠い海の記憶』八幡印刷出版部雄峰舎
- 小島一男（1977）『会津ふるさと夜話〈1〉』歴史春秋社
- 小島一男（1987）『ふるさとのむかしばなし』歴史春秋出版
- 小島一男（1992）『会津の歴史伝説 一とっておきの 50 話一』歴史春秋出版
- 小島一男（2010）『改訂 会津の歴史伝説 一とっておきの 23 話一』歴史春秋出版
- 小林金次郎（1978）『ふるさとふくしまの宝もの』教育出版センター
- 小林金次郎（1983）『ふるさと福島のお話 百話』教育出版センター
- 小林金太郎（1986）『女哀恋—福島にのこる悲恋伝説—』歴史春秋出版
- 小林金次郎・山崎義人・和田文夫・小島一男（1981）『ふくしまの幽霊』歴史春秋出版
- 小桧山六郎（1988）『やさしく書いた 磐梯山地方の民話 上』磐梯山噴火記念館
- 小桧山六郎（1988）『やさしく書いた 磐梯山地方の民話 下』磐梯山噴火記念館
- 近藤喜一（1928）『信達民譚集』郷土研究社
- 酒井祥二・いとうみわこ（2008）『日本一のかんのんさま』酒井祥二
- 鮫川村歴史民俗資料館（1983）『ふるさとのむかし話』鮫川村歴史民俗資料館
- 信夫山観光活用プロジェクト実行委員会（魅力ある福島を目指す会）（刊行年の記載なし）『信夫山おもしろ話』信夫山観光活用プロジェクト実行委員会（魅力ある福島を目指す会）
- 鈴木清美（1991）『湯川村の民話と伝説』鈴木清美
- すずき大和（2015）『伊達市のむかしばなし』シーアイエー
- 滝沢洋之（1994）『石川地方の民話と伝説』歴史春秋出版
- 棚倉町教育委員会社会教育課（1987）『棚倉の民話と伝説 一その三一』棚倉町教育委

員会社会教育課

棚倉町教育委員会社会教育課町史編さん係（1982）『棚倉の民話と伝説 ―その二―』

棚倉町教育委員会社会教育課町史編さん係

狸の郷づくり推進会（刊行年の記載なし）『地名伝説 狸伝説物語』狸の郷づくり推進  
会

丹藤明（1985）『西会津ふるさとの伝説』丹藤明

町史編さん係（1979）『棚倉の民話と伝説』棚倉町教育委員会社会教育課町史編さん係

月舘町史編纂委員会（1974）『月舘町 伝承民話集』月舘町教育委員会

天栄村公民館（1981）『天栄村の民話と伝説』天栄村教育委員会

東京女子大学郷土調査団・郡山地方史研究会（1970）『猪苗代湖南の民俗 福島県郡山  
市湖南町三代』東京女子大学郷土調査団・郡山地方史研究会

長沼町公民館（1976）『長沼町の伝説』長沼町教育委員会

新鶴村のざっとむかし編集委員会（1987）『新鶴村のざっとむかし』三樹企画出版

野沢謙治（2002）『歴春ふくしま文庫 47 ふくしまの世間話 ―自然・異人・神仏・妖  
怪―』歴史春秋出版

橋本武（1975）『猪苗代湖畔の民話』猪苗代湖南民俗研究所

羽染兵吉（2005）『おらが村の伝説 昭和村』羽染兵吉

波戸場秀幸・田の内栄一（1990）『絵本で読む 尾瀬地方の伝説』煥乎堂

馬場富子（1986）『ざっと昔 ―相馬の昔話―』馬場富子

原釜・尾浜・松川郷土史研究会（2001）『ふるさとのあゆみ・漁業編』相馬市東部公民  
館

東小学校 PTA（1974）『伏黒・箱崎の伝説』東小学校 PTA

福島県石川郡石川町曲木地区和泉式部伝説伝承保存会（2010）『奥州石川郷曲木の里に  
伝わる伝説 和泉式部物語』カレントテクノ

福島県教育委員会（1966）『勿来地方の民俗 ―新産業都市指定地区民俗資料調査報告  
書―』福島県教育委員会

福島県教育委員会（1967）『安積地方の民俗』福島県教育委員会

福島県国語教育研究会（1958）『福島昔ばなし』福島民報社

ふるさと出版企画作画部（1989）『新地町の伝説 姫君と名馬』目黒秀明

本田初之助・矢吹町田内青年会・親子読書サークル「たんぽぽ」会員のお母さん達（1981）  
『民話 かえるのおんがえし』サークル「のら」

- 幕田昌司（1981）『民俗文化資料（三） 梁川町の伝説』幕田昌司
- まくたろう・村井和（2010）『伊達の桃太郎』土龍舎
- みうらひろこ・沼田祐花（1984）『相馬地方の民話 水の無い川』新栄企画
- 水谷彰三・宮本忠夫（1980）『日本の民話絵本④ さばうりとやまんば』第一法規出版
- 水上与志恵（1977）『民話随筆 水上与志恵作品集』高島書房出版部
- 三春町公民館地区高齢者学級（1989）『おらが里のざっと昔』三春町公民館
- 民話と文学の会（1988）『福島高女民話集』ふるさと企画
- 村野守美（1989）『ふるさとコミック 棚倉Ⅰ 棚倉のむかし話』棚倉町ふるさと興し  
会
- 村野守美（1989）『ふるさとコミック 棚倉Ⅱ 棚倉のお殿さま』棚倉町ふるさと興し  
会
- 村野井幸雄（1979）『やさしく書いた 会津の伝説』歴史春秋社
- 村野井幸雄（2001）『子どもに贈る 会津の創作民話』歴史春秋出版
- 山崎義人・小島一男・小林金次郎・和田文夫（1986）『ふくしまの幽霊一改訂版』歴史  
春秋出版
- 山田慶次郎（1976）『法師の怨霊』いわき観光出版部
- 好間ふるさと振興協議会（2003）『よしまの民話』好間ふるさと振興協議会
- 渡辺武久（1994）『二本松の伝説とむかしばなし』歴史春秋出版

（4）白岩が資料の現物を確認していないもの（編者・著者名の五十音順）

- 会津坂下町誌編纂会（1964）『会津坂下町の伝説と史話』出版元不明
- 会津坂下町青年会（1978）『あいつのむかしばなし』会津坂下町青年会
- 会津本郷町教育委員会（刊行年不明）『会津本郷昔話』出版元不明
- 会津本郷町教育委員会（刊行年不明）『丸山オサン会津本郷昔話』出版元不明
- 会津民俗研究会（1971）『奥会津南郷の民俗』南郷村教育委員会
- 会津民俗研究会（1973）『会津の伝説』浪花屋書店
- 会津民俗研究会・北塩原民俗誌刊行会（1975）『奥磐梯北塩原の民俗』北塩原村
- 会津・山都の民話編集委員会（1979）『民話叢書 3 会津・山都の民話』民話と文学の  
会
- 会津若松市青年学級（1960）『会津の伝説 ふるさと』会津若松市青年学級
- 安達地方新しい旅実行委員会（2001）『あだち野のむかし物語』安達地方新しい旅実行

委員会

安達地方新しい旅実行委員会（2002）『あだち野のむかし物語 2』安達地方新しい旅実行委員会

石川純一郎（1960）『あしなか 第70集 河童火やろう』山村民俗の会

石川純一郎（1967）『あしなか 第81集 続・河童火やろう』山村民俗の会

泉崎村文化財保護審議会（1977）『泉崎の民話』泉崎村文化財保護審議会

猪苗代町（1981）『いなわしろの民話』猪苗代町

いなわしろ民話の会（2003）『いなわしろの民話』いなわしろ民話の会

いわき市勿来方部小学校教育研究会国語部（1975）『なこそその民話』いわき市勿来方部小学校教育研究会

岩崎敏夫（1935）『昔話研究 1-11 磐城昔話』出版元不明

岩崎敏夫（1942）『磐城昔話集』三省堂

岩崎敏夫（1974）『福島県磐城地方昔話集』三省堂

岩崎敏夫（刊行年不明）『喜多方の民話』出版元不明

NPO 語りと方言の会（2007）『ふくしまの民話集 第二巻 塩川（喜多方市）の伝承 山田登志美の語り』NPO 語りと方言の会

NPO 語りと方言の会（2007）『ふくしまの民話集 第一巻 奥会津の伝承 五十嵐七重の語り』NPO 語りと方言の会

蛸原由起夫（1957）『大沼の伝説集』大沼作文の会

蛸原由起夫（1985）『伊南の伝説』蛸原由起夫

遠藤輝之助（1978）『泉崎の民話』遠藤輝之助

奥会津書房（2004）『伝言 ～かつて子どもだった人たちに そして、すべての子どもたちへ～』奥会津書房

奥川青年会（1978）『むかし聞かせてくんろ』奥川青年会

奥川青年会（1979）『むかし聞かせてくんろ 2』奥川青年会

奥川青年会（1981）『むかし聞かせてくんろ 3』奥川青年会

鏡石町教育委員会（1990）『鏡石の民話』鏡石町教育委員会

川島保徳（1993）『あなたもかたりべです 1 おむすびころりん』ふるさと企画

川島保徳（1996）『あなたもかたりべです 2 若がえりの水』ふるさと企画

河沼郡河東町教育委員会（刊行年不明）『河東村の民俗知識・通過儀礼・口頭伝承』出版元不明

- 企画室・コア（2003）『まんが福島の昔ばなし 1～7 巻』企画室・コア
- 菊池トヨ（2005）『殿畑 トヨばあちゃんのむかしばなし 第1集・第2集』塙町立片貝小学校
- 京都女子大学説話文学研究会・「日本昔話通観」編集委員会（1982）『金山町の民話』金山町教育委員会
- 桑原兵次（1959）『杉田村の文化』杉田村郷土研究会
- 高齢者学級文化クラブ（1986）『むらの思い出 明和地区』出版元不明
- 国分恵真（1972）『白鳥姫 村の伝説』出版元不明
- 小島一男（1974）『会津昔噺抄』出版元不明
- 小林金次郎（1977）『ふくしま散歩 県北編』西沢書店
- 小林金次郎（1980）『ふるさとふくしまの宝もの 第2編』ふくしま郷土文化研究会
- 小林金太郎（1946）『東北の伝説 福島県の巻』国民指導研究会
- 菰田襄（刊行年不明）『はらせむかし話』出版元不明
- 佐々木徳夫（1979）『磐城古殿の昔話』みちのく昔話研究会
- 佐々木徳夫（1995）『きんくるくるぐりふん —みちのくに生きつづけた昔（1）—』セイトウ社出版部
- 鮫川村公民館（1973）『ふる里の民話と伝説』鮫川村公民館
- 新聞クリッピング福島県（1957）『福島むかし話』郡山市図書館
- 鈴木良（1979）『かたひらの民話』片平公民館
- 鈴木禮子（2013）『禮子ばんちゃが選んだ大好きな会津ふる里昔ばなし』鈴木禮子
- 相馬胤道（1964）『あしなか 第91輯 相馬昔話集』山村民俗の会
- 武田明（1936）『昔話研究 2-4 双葉郡昔話』出版元不明
- 田島町役場企画開発室（1975）『針生の伝説』針生青少年旅行村運営組合
- 只見町石伏集落学術総合調査委員会（1984）『湖底に沈む奥会津石伏の歴史と民俗』只見町教育委員会事務局
- 玉川村連合老人クラブ・矢吹市三（1975）『玉川村民話伝説と民謡集』玉川村公民館
- 千葉大学日本文化研究会内民話史料編さん部（1979）『とんとむかし：福島県西会津町・山形県高島町の民話』千葉大学日本文化研究会内民話史料編さん部
- 千葉大学日本文化研究会民話分科会（1973）『南郷むかし』千葉大学日本文化研究会
- 千葉大学日本文化研究会民話分科会（1974）『南郷むかし第2集 南郷村・伊南村の民話』千葉大学日本文化研究会

千葉大学日本文化研究会民話分科会（1974）『南郷むかし第3集 南郷・伊南・舘岩村の民話』千葉大学日本文化研究会

千葉大学日本文化研究会民話分科会（1982）『だんごだんごがどっこいしょ』千葉大学日本文化研究会

月舘町史編纂委員会（1974）『月舘町伝承民話集』月舘町教育委員会

東京女子大学郷土調査団（1970）『猪苗代湖南町三代の昔話』出版元不明

東京女子大学史学科民俗調査団（1971）『昭和四四年度調査報告・奥州東白川の民俗』出版元不明

東京女子大学史学科民俗調査団口承文芸班（1971）『奥州東白川の昔話』出版元不明  
トータルプランニングオフィス（2005）『福島民話館ねえみんな…CD 付き絵本集（全12巻）』東京電力

夏井芳徳（2006）『いわきの伝説ノート』歴史春秋出版

野村純一（1968）『あしなか 第86集 みなみやま話』山村民俗の会

橋本武（1969）『猪苗代湖南民俗誌』猪苗代湖南民俗研究所

橋本武（1971）『猪苗代湖南民俗誌続編』猪苗代湖南民俗研究所

橋本武（1973）『猪苗代湖北民俗誌 磐梯南麓の雪の夜語り』猪苗代湖南民俗研究所

橋本武（1979）『磐梯山南郷の民俗』猪苗代湖南民俗研究所

磐梯山慧日寺資料館（1990）『厩嶽山のむかしむかし話』磐梯山慧日寺資料館

福島県教育委員会（1968）『いわき鹿島地方の民俗』出版元不明

福島県教育委員会（1969）『福島県文化財調査報告書第18集 西会津地方の民俗』出版元不明

福島県立双葉高等学校史学部（1966）『双葉史学 第8号 相馬の昔話』福島県立双葉高等学校史学部

福島市教育委員会（1970）『福島市の文化財 第8集』出版元不明

福島商工会議所婦人会（2000）『茂庭の大蛇』福島商工会議所婦人会

藤田浩子（刊行年不明）『かたれやまんば 番外編1』藤田浩子の語りを聞く会

藤田浩子（刊行年不明）『かたれやまんば 番外編2』藤田浩子の語りを聞く会

藤本輝吉（刊行年不明）『会津高田むかしむかしのものがたり』会津高田町郷土伝承研究会

双葉町公民館（1990）『ふたばの昔ばなし』双葉町公民館

双葉町公民館（1991）『ふたばの昔ばなし』双葉町公民館

- 舟木正義（2001）『奥会津方言風土記』 ふるさと企画
- 古河芳一（1978）『ふくやまの昔ばなし』 富久山郷土史研究会
- 星勝晴（1973）『湯本山郷史 上巻』 出版元不明
- みちのく昔話研究会（1981）『岩代川俣の昔話』 出版元不明
- 南会津地方老人クラブ連合会（2001）『南会津地方のざっと昔』 南会津地方老人クラブ  
連合会
- 三春町公民館（1960-81）『三春の文化財』 三春町公民館
- 武藤午吉（1966）『奥州安達ヶ原物語』 観世寺
- 村野井幸雄（1960）『大沼伝説集』 大沼作文の会
- 梁川ざっと昔の会（1985）『梁川ざっと昔かるた』 梁川ざっと昔の会
- 山崎義人（1956）『郡山よばなし 伝記物語と方言』 郡山市役所
- 山崎義人（1977）『ふくしま散歩 ふるさとの風土と文化をさぐる』 不二出版
- 山本明（刊行年不明）『相馬山中郷の民俗』 出版元不明
- 渡部つとむ（1984）『会津民俗の詩』 三弥井書店

2014-16 年度 日本学術振興会科学研究費 若手研究 (B) 研究成果報告書  
研究課題「震災を語る方言談話資料の作成 ―福島方言の記述と震災記録にむけて―」  
研究代表者・白岩広行 (課題番号 26770160)

白岩広行『福島県伊達市方言談話資料別冊 福島方言の記述にむけて』

---

2017 年 3 月 15 日発行

---

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1

上越教育大学大学院学校教育研究科

白岩広行研究室

電話 025-521-3327 メール [shiraiwa@juen.ac.jp](mailto:shiraiwa@juen.ac.jp)

---